

耶穌降生千八百八十四年 米國聖書會

舊約
聖書
創
世
記

完

明治十七年

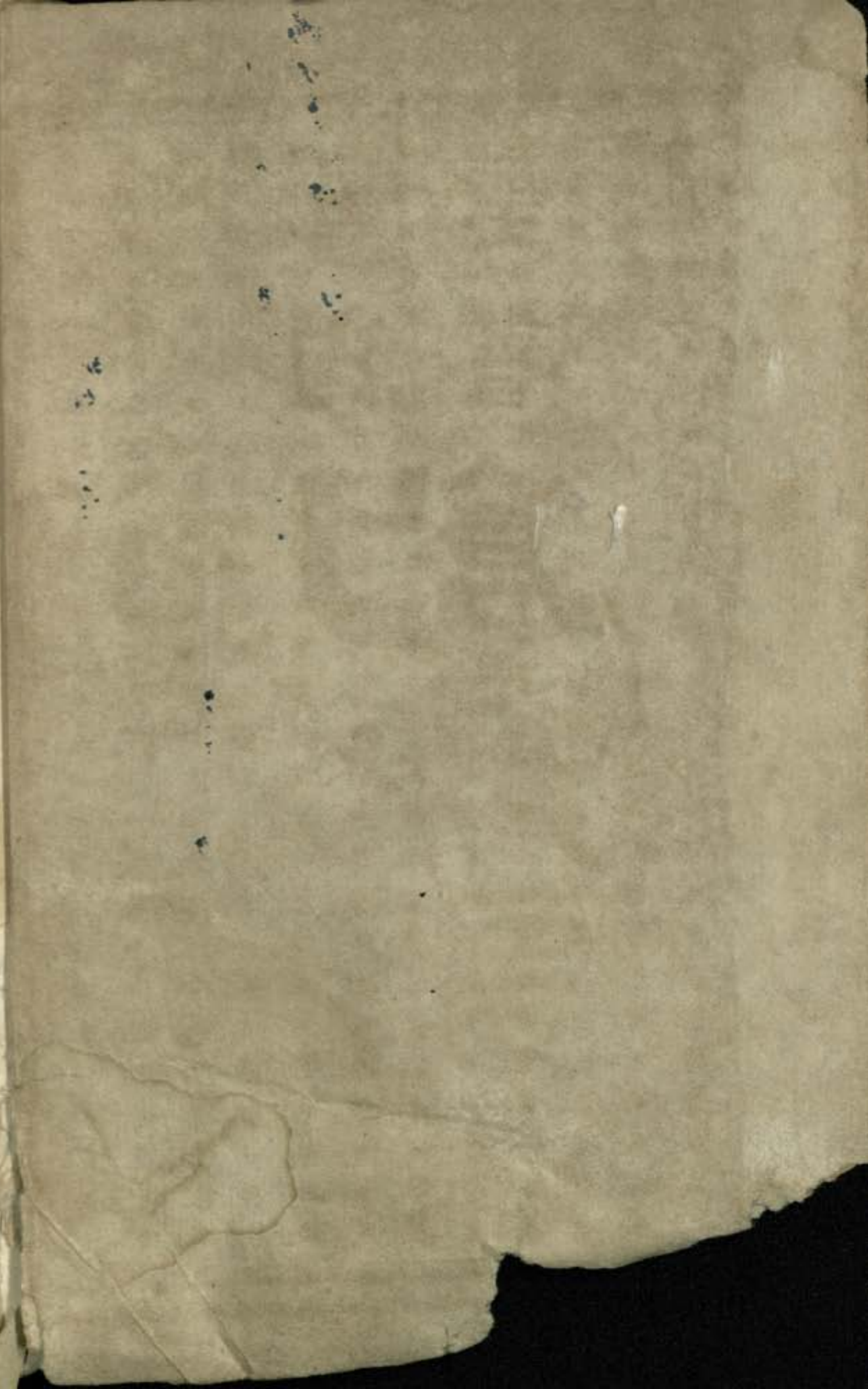
日本橫濱印行

02-KYU

海老澤文庫



西亞非亞
諸國之圖



創世記



元始に神天地を創造たまへり
 地は定形なく
 暗を分ちた
 神光を善と観たまへり
 神光と暗を分ちた
 神光を畫と名け暗を夜と名けたまへり
 夕あり朝あり
 神言たまひける
 水の中に穹蒼ありて水と水とを
 分ちし
 神穹蒼を作りて穹蒼の下の水と穹蒼の上の水とを
 判ちたまへり
 即ち斯ありぬ
 神穹蒼を天と名けたまへり
 夕あり
 朝あり
 是首の日あり
 神言たまひける
 水の中に穹蒼ありて水と水とを
 分ちし
 神穹蒼を作りて穹蒼の下の水と穹蒼の上の水とを
 判ちたまへり
 即ち斯ありぬ
 神穹蒼を天と名けたまへり
 夕あり
 朝あり
 りて乾ける土
 土を地と名け水
 の集合るを海と名けたまへり
 神これ善と観たまへり
 神言たまひける
 地は青草と實蔬を生ずる
 草蔬と核を懷む
 果を其類に
 従て結ぶ
 菓樹とを地に發出すべし
 即ち斯ありぬ
 地青草と其



創世記 第一章 自一至十二節



類に從ひて實を生ずる草と核を懷ひ菓實を其類に從ひて結ぶ樹を發出せり神之を善と觀たまへり三夕あり朝あり是三日あり昔神言たまひけるは天の穹蒼に光明ありて晝と夜を分ち又天象のため時節のため日のため年のために成べし又天の穹蒼にありて地を照す光とあるべしと即ち斯ありぬ其神二の巨ある光をゆくり大ある光に晝を司とらしめ小き光に夜を司とらしめたまふ又星を造りたまへり其神之を天の穹蒼に置て地を照さしめ晝と夜を司とらしめ光と暗を分たえめたまふ神之を善と觀たまへり其夕あり朝あり是四日あり三神いひたまひけるは水には生物に生じ鳥は天の穹蒼の面に地の上に飛べしと三神巨ある魚と水に饒に生じてうごく諸の生物を其類に從ひて創造り又羽翼ある計の鳥を其類に從ひて創造たまへり神之を善と觀たまへり三神之を祝して生よ繁息よ海の水に充物よ又禽鳥

に蕃息よと三夕あり朝あり是五日あり三神言たまひけるは地に生物を其類に從ひて出し家畜と昆蟲と地の獸を其類に從ひて出しすべしと即ち斯ありぬ三神地の獸を其類に從ひて造り家畜を其類に從て造り地の諸の昆蟲を其類に從ひて造りたまへり神之を善と觀たまへり三神言たまひけるは我儕に象りて我等の像のこくとに我等人を造り之に海の魚と天空の鳥と家畜と全地と地に匍ふ所の諸の昆蟲を治しめんと三神其像のこくとくに人を創造たまへり即ち神之像に如くに之を創造之を男と女に創造りたまへり三神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生よ繁殖よ地を滿盈よ之を服從せよ又海の魚と天空の鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ三神言たまひけるは視よ我全地の面にある實の草と核ある木菓の結る諸の樹とを汝等に與ふ三又地の諸の獸と天空の諸れ鳥および地に匍ふ諸の物等凡る生命ある者に我食

物として諸の青き草を與ふと即ち斯ありぬ三神其造りたる諸の
 物を視たまひけるに甚だ善りき夕あり朝ありき是六日あり
 第七日に其造りたる
 工を竣たまへり即ち其造りたる工を竣て七日に安息たまへり三
 神七日を祝して之を神聖めたまへり其は神其創造爲たまへる工
 を盡く竣て是日に安息みたまひたればあり四エホバ神地と天を
 造りたまへる日天地の創造らきたる其由來は是なり五野の諸
 の灌木未だ地にあらず野の諸の草蔬未生ぜざりき其エホ
 バ神雨を地お降せたまへず亦土地を耕す人なりけきばなり六
 霧地より上りて土地の面を遍く潤したり七エホバ神土の塵を以
 て人を造り生氣を其鼻お嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ八エ
 ホバ神エデンの東の方お園を設て其造りし人を其處お置たまへ
 り九エホバ神觀お美しく食ふお善き各種の樹を土地より生ぜし

め又園の中お生命の樹および善惡を知るの樹を生ぜしめ給へり十
 河エデンより出て園を潤し彼處より分きて四の源となきり十一其
 第一の名はピソンといふ是は金の河なり十二其地の金は善し又
 十三其地の金は善し又ブドラクと碧玉彼處おあり十三第二の河の名
 はギホンといふ是はグシの全地を繞る者なり十四第三の河の名は
 ヒダケルといふ是はアスリヤの東お流るるものなり十五第四の河は
 エフラテなり十五エホバ神其人を挈て彼をエデンの園お置き之を
 耕し之を守らしめ給へり十六エホバ神其人お命じて言たまひける
 園の各種の樹は果は汝意のままお食ふいとを得ま然と善惡を
 知るの樹は汝らの果を食ふべからず汝之を食ふ日に必ず死べら
 ばなり十六エホバ神言たまひける人獨なるは善らず我彼に適
 ふ助者を彼のためお造らんと十九エホバ神土を以て野の諸は獸と
 天空の諸の鳥を造りたまひてアダムは之を何と名るるを見んと

て之を彼の所へ率ゐいたりたまへりアダムの生物も名々たる所
 の皆其名となりぬニアダムの家畜と天空は鳥と野の諸は獸も
 名を與へたり然とアダムの之にお適ふ助者もえざりきニ是は於
 てエホバ神アダムを熟く睡らしめ睡りし時其肋骨の一をとり肉
 をもて其處を填塞たまへりニエホバ神アダムより取たる肋骨を
 以て女を成り之をアダムの所へ攜きたりたまへりニアダム言け
 るに此はろわが骨の骨わが肉は肉なれ此の男より取たる者ある
 べ之を女と名くべしと言是故お人の其父母を離れて其妻お好合
 ひ二人一体とあるべしアダムと其妻の二人俱お裸体に在て愧さ
 りき

一 エホバ神の造りたまひし野の生物の中に蛇最狡猾あり
 き蛇婦に言けるに神眞に汝等園の諸の樹の果を食ふべからずと
 言たまひしやニ婦蛇に言けるに我等園の樹の果を食ふふとを得

三 然と園の中央にある樹の果實をば神汝等之を食ふべからず又
 之に捫るべからず恐に汝等死んと言たまへり四 蛇婦に言けるに
 汝等必ず死るふとあらじ五 神汝等が之を食ふ日お汝等の目開
 け汝等神のおどくありて善惡を知るお至るを知りたまふありと
 六 婦其樹の食ふに善く又目に美しくして智慧を得るに願しき
 樹あるを觀其果實を取て食ひ亦之を已と偕ある夫に與へけきバ
 彼食へり七 是にれていて彼等の目に俱に開て彼等其裸體あるを知り
 乃ち無花果樹の葉を綴て裳を作きり八 彼等園の中に日の清涼さ
 時分歩きたまふエホバ神の聲を聞しるバアダムと其妻即ちエホ
 バ神の面を避て園の樹の間に身を匿せり九 エホバ神アダムを召
 て之に言たまひけるに汝の何處にをるや十 彼いひけるに我園の
 中に汝の聲を聞き裸體あるおより懼きて身を匿せりと十一 エホバ
 言たまひけるに誰が汝の裸あるを汝に告しや汝の我が汝に食ふ

ありれど命じたる樹より食ひたりしや。アダム言けるは、汝が與て我と偕あらしめたまひし婦、彼其樹の果實を我にわたへたれば、我食へりと。十三 エホバ神婦に言たまひけるは、汝があしたる此事の何ぞや。十四 婦言けるは、蛇我を誘惑して我食へりと。十五 エホバ神蛇に言たまひけるは、汝是を爲たるに因て、汝の諸の家畜と野の諸の獸よりも勝りて、詛のる汝の腹行て一生の間塵を食ふべし。又我汝と婦の間ねよび、汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置ん。彼汝の頭を碎き、汝は彼の踵を碎らん。又婦に言たまひけるは、我大に汝の劬勞と懷妊を増そべし。汝の苦みて子を産ん。又汝の夫をまたひ彼汝を治めん。又アダムに言たまひけるは、汝の妻の言を聽て我が汝に命じて食ふべからずと。言たる樹の果を食ひしに縁て、土の汝のため、に詛はる汝の一生のあひだ、勞苦て其より食を得ん。又土の荆棘と蒺藜とを汝のため、に生すべし。また汝の野の草蔬を食

ふべし。汝の面に汗して食物を食ひ、終に土に歸らん。其の其中より、汝の取れたれば、あり汝の塵あれば、塵お飯るべきあり。十三 アダム其妻の名をエバと名けたり。其の彼の群の生の母あれば、あり。十三 エホバ神アダムと其妻のため、お皮衣を作りて、彼等に衣せたまへり。十三 エホバ神曰たまひけるは、視よ、夫人、我等の一如くありて、善惡を知る。然バ、恐くは、彼其手を舒べ、生命の樹の菓實をも取りて食ひ、無限生んと。十三 エホバ神彼をエデンの園より、いだし、其身の取出されたるど、あるの土を耕さしめ、たまへり。十四 神其人を逐出し、エデンの園の東に、ケルヒムと自あら、旋轉る、焰の劍を置て、生命の樹の途を、保守りたまふ。 **第四章** 一 アダム其妻エバを知る。彼孕ミ、カインを生みて、言けるは、我エホバおよりて、一箇れ人を得たり。二 彼また其弟アベルを生り、アベルの羊を牧ふ者、カインの土を耕そ者、ありき。三日を経て、後

カイン土の産物を携來りてエホバに供物とあせり
 四アベルもまた其羊の初生と其肥たる者を携來り
 五エホバアベルと其供物を眷顧みたまひし
 のどもカインと其供物をバ眷顧みたまひし
 のバカイン甚怒り且其面をふせたり
 六エホバカインに言たまひける
 の汝何ぞ怒るや何ぞ面をふするや
 七汝若善を行へば
 汝を慕ひ汝の
 彼を治めん
 八カイン其弟アベルに語りぬ
 彼等野をりたる時カイン其弟アベル
 起るよりて之を殺せり
 九エホバカインに言たまひ
 なるの汝の弟アベルの何處をるや
 彼言ふ我未らす我あ
 我弟の守者ならんや
 十エホバ言たまひなるの汝何をなしたる
 や
 汝の弟は血の聲地より我に叫べり
 十一
 汝の血を汝の手より受たき
 十二
 汝地を耕すとも地を再其力を汝に效さじ
 汝の地を吟行ふ流

離子となるべし
 十三カインエホバに言たるの我が罪の大おして
 負ふも能えず
 十四
 汝の面を覲るもとなき
 十五
 我に遇ふ者我を殺さん
 十六
 エホバ彼に言たまひなるの然らず
 凡るカインを殺す者
 十七
 七倍の罰を受んと
 十八
 エホバカインに遇ふ者の
 彼を撃ざるため
 十九
 印誌を彼に與へたまへり
 二十
 カイン其妻を知て
 を離て出で
 二十一
 エデンの東なる
 二十二
 ノドの地に住り
 二十三
 カイン其妻を知て
 彼孕み
 二十四
 エノクを生り
 二十五
 カイン邑を建て
 二十六
 其邑に名を其子の名に
 二十七
 彼を呼ぶ
 二十八
 エノクと名なたり
 二十九
 エノクはイラデ生きたり
 三十
 イラデメホヤエ
 ルを生み
 三十一
 メホヤエルメトサエルを生む
 三十二
 メトサエルレメクを生り
 三十三
 レメク二人の妻を娶り
 三十四
 一人の名にアダと曰ひ
 三十五
 一人の名にチラと曰ひ
 三十六
 アダヤバルを生めり
 三十七
 彼の天幕に住て家畜を牧ふ
 三十八
 所の者
 三十九
 先祖なり
 四十
 其弟の名にエバルと云ふ
 四十一
 彼の琴と笛を弄ぶ者
 四十二
 先祖

なり三亦チラトバルカインを生り彼の銅と鐵の諸れ刃物を鍛ふ
 者なりトバルカインの妹をナアマといふ三レメク其妻等お言々
 るのアダとチラよ我聲を聴けレメクの妻等よわが言を容よ我わ
 だ創傷れたためお人を殺すわが痰のため少年を殺す百カインの
 ためおの七倍の罰ありレメクのためには七十七倍の罰あらん
 アダム復其妻を知て彼男子を生み其名をセツと名たり其の彼
 神我にカインの殺したるアベルのありお他の子を與へたまへ
 りといひたきばなり三セツにもまた男子生きたりある其名をエ
 ノと名たり此時エホバの名を呼ぶとをえじめたり
 アダムの傳の書に是あり神人を創造りたまひし日に神
 に象て之を造りたまひニ彼等を男女お造りたまへり彼等の創造
 られし日お神彼等を祝しておれらの名をアダムと名けたまへり
 ミアダム百三十歳お及びて其像お循ひ已お象て子を生み其名を

セツと名けたり四アダムのセツを生し後の齡の八百歳おして男
 子女子を生り五アダムの生存へたる齡の都合九百三十歳ありき
 而して死り六セツ百五歳お及びてエノスを生り七セツエノスを
 生し後八百七十年生存へて男子女子を生り八セツの齡の都合九百
 十二歳ありき而して死り九エノス九十歳おおよびてカイナンを
 生り十エノスカイナンを生し後八百十五年生存らへて男子女子
 を生り十一エノスの齡の都合九百五歳ありき而して死り十二カイナ
 ン七十歳におよびてマハラレルを生り十三カイナンマハラレルを
 生し後八百四十年生存へて男子女子を生り十四カイナンの齡の都
 合九百十歳ありきまうして死り十五マハラレル六十五歳お及びて
 ヤレドを生り十六マハラレルヤレドを生し後八百三十年生存へて
 男子女子を生り十七マハラレルの齡の都合八百九十五歳ありき而
 して死り十八ヤレド百六十二歳に及びてエノクを生り十九ヤレドエ

ノクを生ま後八百年生存へて男子女子を生りニヤレドの齡は都合九百六十二歳ありき而して死りニエノク六十五歳お及びてメトセラを生りニエノクメトセラを生し後三百年神とよも歩みク神と借お歩みしダ神かれを取りたまひられバをらすありきメトセラ百八十七歳おおよびてレメクを生りニメトセラのを生しのち七百八十二年生存へて男子女子を生りニメトセラの都合九百六十九歳ありき而して死りニレメク百八十二歳お及びて男子を生みニ其名をノアと名けて言けるは此子はエホバの誼ひたまひし地のためお起る我等は操作と我等の手を勞苦をやすませんニレメクノアを生し後五百九十五年生存へて男子女子を生りニレメクの齡の都合七百七十七歳ありき而して死りニノア五百歳ありきノアセムハムヤベテを生り

第三章

一人地の面お繁衍はじまりて女子之お生るゝお及べる時ニ神の子等人の女子の美しきを見て其好む所の者を取て妻となせりニエホバいひたまひけるハ我靈永く人と争ひ其の彼も肉あれをあり然と彼の日の百二十年あるべし當時地に子ピリムありき亦其後神の子輩人の女の所お入りて子女を生しめたりしが其等も勇士にして古昔は名聲ある人ありきニエホバ人の惡の地に大あると其心の思念の都て圖維る所の恒お惟惡き事のをみ見たまへり是お於てエホバ地の上お人を造りしを悔いて心に憂へたまへりニエホバ言たまひけるハ我が創造りし人を我地の面より拭去ん人より獸昆蟲天空の鳥おいたるまでほろぼさん其の我之を造りしを悔きを悔きバありとハさきとノアのホバの目のまへお恩を得たりタノアの傳ハ是ありノアの義人にして其世の完全さ著ありきノア神と借に歩めり十ノアのセムハ

ヲヤベテの三人の子を生りし時お世エホバのまへお亂色て暴虐
 世お満盈ちたりきし神世を視たまひけるに視よ亂色たり其の世
 の人皆其道をなしたる色なりし神ノアお言たまひけるに諸の
 人の末期わが前お近づけり其の彼等のためお暴虐世おまじき
 あり視よ我彼等を世とともお剪滅さん前汝松木をもて汝のため
 お方舟を造り方舟の中に房を作り瀝青をもて其内外を塗るべし
 汝のく之を作るべし即ち其方舟の長の三百キユピト其濶の五
 十キユピト其高の三十キユピト又方舟に導光牖を作り上一キユ
 ピトに之を作り終べし又方舟の戸の其傍お設くべし下牀と二階
 と三階とお之を作るべし視よ我洪水を地お起して凡て生命の
 息氣ある肉ある者を天下より剪滅し絶ん地にをる者の皆死ぬべ
 し然と汝とい我わが契約をたてん汝の汝の子等と汝の妻および
 汝の子等の妻とともに其方舟お入るべし又諸の生物總て肉

ある者を汝各其二を方舟お掣へいりて汝ととも其生命を保
 たしむべし其等の牝牡なるべし二十鳥其類お從ひ獸其類お從ひ地
 の諸の昆蟲其類お從ひて各二汝の所に至りて其生命を保つべし
 三汝食のる諸の食品を汝の許に取て之を汝の所お集むべし是
 則ち汝と是等の物の食品とあるべし三ノア是爲し都て神の已お
 命じたまひしごとく然爲せり

第七節

エホバノアに言たまひたるは汝と汝の家皆方舟お入べ
 し我汝がこの世人の中にてわが前に義を視たれをありし諸の
 潔き獸を牝牡七宛汝の許お取り潔らぬ獸を牝牡二三亦天空の鳥
 を雌雄七宛取て種を全地の面に生のこらえむべし四今日あり
 て我四十日四十夜地お雨ふら止め我造りたる萬有を地の面より
 拭去んヌノアエホバの凡て已お命じたまひし如くあせり六地に
 洪水ありたる時にノア六百歳ありき七ノア其子等と其妻および

其子等の妻と俱お洪水を遊て方舟おいりぬハ深き獸と深らざる
 獸と鳥および地に匍ふ諸の物ハ牝牡二宛ノアお來りて方舟にい
 りぬ神のノアに命じたまへるガ如し十うくて七日の後洪水地に
 臨めり十二ノアの齡の六百歳の二月即ち其月の十七日お當り此日
 に大淵の源皆潰れ天の戸開々て十三雨四十日四十夜地に注げり十三
 是日にノアとノアの子セムハムヤベテおよびノアの妻と其子等
 の三人の妻諸俱に方舟おいりぬ昔彼等および諸の獸其類に從ひ
 諸の家畜其類に從ひ都て地に匍ふ昆蟲其類に從ひ諸の禽即ち各
 様の類の鳥皆其類に從ひて入りぬ即ち生命の氣息ある諸の肉
 ある者二宛ノアに來りて方舟おいりぬ即ち入たる者の諸の肉ある
 者の牝牡にして皆いりぬ神の彼に命じたまへるガ如しエホバ乃
 ち彼を閉置たまへりモ洪水四十日地おありき是において水増し
 方舟を浮めて方舟地の上に高くあがれり十八而して水弥漫りて大

地に増しぬ方舟は水の面に漂へり十九水甚大に地に弥漫りけれ
 バ天下の高山皆おははれたり二十水はひこりて十五キユビトに上
 りたりバ山々おははれたり三凡ろ地に動く肉ある者鳥家畜獸地
 に匍ふ諸の昆蟲および人皆死り三即ち凡ろ其鼻に生命の氣息の
 ろよふ者都て乾土にある者の死り三斯地の表面にある萬有を人
 より家畜昆蟲天空の鳥にいたるまで盡く拭去たまへり是等は地
 より拭去れたり唯ノアおよび彼とよも方舟にありて其者のみ存
 れり四水百五十日のあひだ地にばひありぬ

第八章 一 神ノアおよび彼とよもに方舟おある諸の生物と諸の家
 畜を眷念ひたまひて神乃ち風を地の上お吹しめたまひければ水
 平穩おありぬニ亦淵の源と天の戸閉塞りて天よりの雨止ぬ三是
 に於て水次第に地より退き百五十日を経てのち水減り四方舟の
 七月お至り其月の十七日にアララテの山お止りぬ五水次第お減

て十月じふぐわつに至りしいた十月じふぐわつの月朔つきはじめに山々やま々の巔いたゞき現あらはきたりた四十日じちにちを経てのちノアその其方舟そのに作りし窓まどを啓ひらてセ鴉からすを放はちけるが水みづの地ちお涸かわるまで往來ゆきしををりハ彼地かなちより水みづの減少ひんしを見みんとて亦また鴉からすを放はちいだしけるが九こゝろ鴉からす其足そのの跡あとを止とむべき處ところを得えずして彼かなに還かへりて方舟そのお至いたり其その水みづ全地ぜんちの面おもてにありたまきあり彼乃かなち其手そのてを舒ゆるて之そのを執とへ方舟そのの中うちにおのの色の所ところお接ひ入いたり十と尙なほ又また七日なな待まちて再また次また鴉からすを方舟そのより放はちけるが十二ふたご鴉からす暮くれおよびて彼かなお還かへり視みよ其口そのに橄欖かんらんの新葉あはありき是こゝお於おいてノアその地ちより水みづの減少ひん志こゝろをしきり十二尙なほ又また七日なな日かまちて鴉からすを放はちけるが再また次また彼かなの所ところに歸かへらざり十三六む百ひゃく一いち年ねんの一月いちの月朔つきはじめに水地みづちお涸かわたりノアその乃すなはち方舟そのの蓋かきを撒まきて視みしに視みよ土つちの面おもての燥かわりたり十四じふ二月にがつの二十七日にちに至りて地ち乾かわきたり十五愛あいお神かみノアそのお言いたまひけるの夫おとこ汝なんぢおよび汝なんぢの妻つまと汝なんぢの子こ等らと汝なんぢの子こ等らの妻つまともに方舟そのを出いべし十七汝なんぢともおあ

る諸あまの肉にくある諸あまの生物せいぶつ諸あまの肉にくある者もの則すなはち鳥家畜とりかちくおよび地ちお匍はふ諸あまの昆蟲こんちゆうを率ひきゐいてよ此等これらの地ちお饑うく生な育だち地ちの上うへに生なを殖ふべし十八ノアそのと其子その等らと其妻そのおよび其子その等らの妻つまともお出いたり十九諸あまは獸諸けものの昆蟲こんちゆうおよび諸あまの鳥とり等ら凡おほろ地ちお動うく者もの種類しゆるいに從したがひて方舟そのより出いたり二十ノアそのエホバそののためお壇だんを築きき諸あまの潔きよき獸けものと諸あまの潔きよき鳥とりを取とり燔祭はんさいを壇だんの上うへお献さげたり二十一エホバその其馨かほき香かほを聞ききたまひてエホバその其意そのお謂いたまひけるの我われ再また次また人ひとの故ゆゑに因よりて地ちを詛のろふのみとをせし其その人ひとの心こゝろの圖は維かるとふる其幼少その時ときよりして惡わるけれをあり又また我われ曾かつて爲なする如ごとく再また次また諸あまは生なる物ものを撃うち滅ほろさし三さん地ちのあらん限かぎりの播種はくしゆ時とき收ありの寒熱さむやうあつさむ夏冬なつふゆおよび日ひると夜息よることあらじあらん限かぎりの播種はくしゆ時とき收ありの寒熱さむやうあつさむ夏冬なつふゆおよび日ひると夜息よることあらじ

第九章

ノアそのと其子その等らを視みして之そのお曰いたまひけるの生なよ増殖あふの地ちお滿みよ二地ふたの諸あまは獸畜けもの天空そらの諸あまは鳥とり地ちに匍はふ諸あまの物もの海うみの諸あまの魚うい汝等なんぢらを畏おそき汝等なんぢらに懼おそるん是等これらの汝等なんぢらの手てお與あたへらる三凡おほろ

生る動物の汝等の食となるべし菜蔬のごとく我之を皆汝等お與ふ
 田然と肉を其生命なる其血のまゝお食ふべららず五汝等の生
 命の血を流をを我必ず討さん獸之をなそも人みきを爲そも我
 討さん凡ろ人れ兄弟人れ生命を取らば我討すべし凡ろ人の血を
 流を者れ人其血を流さん其れ神れ像のごとくお人を造りたまひ
 たきべなり七汝等生よ増殖よ地お饒くなりて其中お増殖よハ神
 ノアおよび彼と借おある其子等お告て言たまひけるハ見よ我
 汝等と汝等れ後の子孫ハおよび汝等と借なる諸れ生物即ち汝等
 とともなる鳥家畜および地の諸れ獸おまで至らんハ我汝等と契約を立ん
 出たる者より地の諸の獸おまで至らんハ我汝等と契約を立ん
 て肉なる者れ再び洪水お絶るゝ事あらじ又地を滅す洪水再びあ
 らざるべしハ神言たまひたるハ我ガ我と汝等および汝等と借な
 る諸の生物の間お世々限りなく爲す所れ契約の徴ハ是なりハ我

且ガ虹を雲れ中お起さん是我と世との間れ契約の徴なるべし
 即ち我雲を地れ上お起す時虹雲の中お現るべしハ我乃ち我と汝
 等および總て肉なる諸の生物れ間のわガ契約を記念えん水再び
 諸の肉なる者を滅す洪水おならじハ虹雲の中おあらん我之を觀
 て神と地おある都て肉なる諸の生物とれ間なる永遠の契約を記
 念えんハ神ノアお言たまひけるハ是ハ我ガ我と地おある諸れ肉
 なる者との間お立たる契約の徴なりハノアの子等れ方舟より出
 たる者ハセムハムヤベテなりきハムハカナンの父なりハ是等ハ
 ノアの三人の子なり全地の民ハ是等より出て蔓延きりハ愛おハ
 ア農夫となりて葡萄園を植るふどを始しがハ三葡萄酒を飲て醉天
 幕の中にありて體を露せりハ三カナンの父ハム其父の裸體なるを
 見て外おありハ二人の兄弟お告たりハ三セムとヤベテ乃ち衣を取
 て俱に其肩に負け後向に歩みゆきて其父の裸體を覆へり彼等面

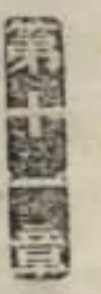
を背にして其父の裸體を見ざりき言ノア酒さめて其若き子の己
 に爲たる事を知りき是は於て彼言けるハカナン詛はきよ彼は
 僕輩の僕となりて其兄弟に事へん又いひけるハセムの神エ水
 ハは讃へきりあカナン彼の僕となるべしモ神ヤベテを大ならま
 めたまハん彼はセムの天幕に居住ハんカナン其僕とあるべし
 ノア洪水の後三百五十年生存へたりノアの齡は都て九百五十年
 なりき而して死り

ノアの子セムハムヤベテの傳は是なり洪水の後彼等に
 子等生きたりニヤベテの子はゴメルマゴグマデアヤワントバル
 メセクテラスなりニゴメルの子はアシケナズリバテトガルマな
 りヨヤワンの子はエリシヤタルシキツテムおよびドダニムな
 りニ是等より諸國の洲島の民ハ派分を出て各其方言と其宗族と
 其邦國とに循ひて其地ハ住りハムの子はクシミツライムフレ

およびカナンなりセクシの子ハセバハピラサプタラアマサプテ
 カナリラアムの子ハシバおよびデダンなりハクシニムロデを生
 り彼始めて世の權力ある者となきりハ彼はエホバの前にありて
 權力ある獵夫なりき是は故にエホバの前にある夫權力ある獵夫ニ
 ムロアの如しといふ諺ありハ彼の國の赴初はシナルの地のバベ
 ルニエレクアツカデオよビカル子なりき其地より彼アツスリヤ
 ニ出でニチベレホボテイリカラニおよビニチベドカラの間なる
 レセンを建たり是は大ある城邑あり十三ミツライムルデ族アナミ
 族ナフト族レハビ族十四バテロス族カスル族およビカフトリ族を
 生りカスル族よりベリシテ族出たり十五カナン其家子シドンおよ
 ビヘテ十六エプス族アモリ族ギルガシ族十七ヒビ族アルキ族セニ族
 ナアルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り後に至りてカナン人の宗
 族蔓延りぬ十九カナン人の境はシドンよりゲラルを経てガザに至

リソドムゴモラアブマゼボイムに沿てレシヤにまで及べり是
 等のハムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國に隨ひ
 て居りぬニセムはエベルの全の子孫の先祖にえてヤベテの兄あ
 り彼にも子女生れたりニセムの子はウツホルゲタルマシあり言ア
 アルデアラムありニアラムの子はウツホルゲタルマシあり言ア
 ルバクサアシラを生みシラエベルを生りニセムはエベルに二人の子生
 きたり一人の名をベレグ(分裂)といふ其の代に邦國分裂きた
 きバあり其弟の名をヨクタンと曰ふニセムはエベルに二人の子生
 レフハザルマウテエラモハドラムウザルダクラニセムはエベルに
 エルシバニセムはエベルの居住地はメシヤよりして東方の山セバルにま
 の子ありニセムはエベルの居住地はメシヤよりして其宗族と其方言と
 其國邦に隨ひて居りぬニセムはエベルの子孫にして其宗族と其方言と
 其國邦に隨ひて居りぬニセムはエベルの子孫にして其宗族と其方言と

と其邦國に隨ひて居りぬ洪水の後是等より地の邦國の民は派分
 れ出たり



一 全地の一の言語一の音れとありきニ 茲に人衆東に

移りてシタルの地に平野を得て其處に居住りニ 彼等互に言ける
 の去來甌石を作り之を善く燕んと遂に石代に磚石を獲灰沙れ
 代に石漆を獲たり 又曰ける乃去來邑と塔を建て其塔の頂を天
 にいたらしめん 斯して我等名を揚て全地の表面に散ることを免
 れんと 五エホバ降臨りて彼人衆の建る邑と塔を觀たまへり 六エ
 ホバ言たまひける乃視よ民の一にして皆一の言語を用ふ 今既に
 此を爲し始めたり 然バ凡て其爲んと圖維る事の禁止め得らざる
 るべし 七 去來我等降り彼處にて彼等れ言語を消し互に言語を通
 ずることを得ざらしめんと 八 エホバ遂に彼等を彼處より全地の
 表面に散したまひけれを彼等邑を建ることを罷たり 九 是故に其

名ハバベル(滯亂)と呼ぶる是ハエホバ彼處お全地ハ言語を滯した
 まひしに由てなり彼處よりエホバ彼等を全地ハ表に散したまへ
 り+セムレ傳ハ是ありセム百歳にして洪水ハ後の二年にアルバ
 クサアを生りセムアルバクサアを生り後五百年生存へて男子
 女子を生りセムアルバクサア三十五歳に及びてシラを生り
 バクサアシラを生り後四百三十年生存へて男子女子を生り
 ラ三十年におよびてエベルを生り五シラエベルを生り後四百三
 年生存へて男子女子を生りエベル三十四歳におよびてベレグ
 を生りエベルベレグを生り後四百三十年生存へて男子女子を
 生りエベルベレグ三十年におよびてリウを生りエベルベレグ
 後二百九十年生存へて男子女子を生り三リウ三十二歳におよびて
 サルクを生り三リウサルクを生り後二百七十年生存へて男子女子
 を生り三リウサルク三十年におよびてナホルを生り三リウサ
 ラクナホル

を生しのち二百年生存へて男子女子を生り百ナホル二十九歳に
 及びてテラを生り三ナホルテラを生り後百十九年生存へて男子
 女子を生り三ナホルテラ七十歳に及びてアプラムナホルおよ
 びハランを生り三ナホルを生りハランの其父テラに先だちて其生處
 生るカルデアのウルに死たり三アプラムの妻の名ハサライといふ
 ナホルの妻ハ名ハミルカといひてハランの女ナリハランのミル
 カの父にして亦イスカの父ありき三サライハ石女にして子あり
 りき三テラカナン之地に往んとて其子アプラムとハランの子あり
 其孫ロトおよび其子アプラムの妻ある其媳サライをひき挈て
 俱にカルデアのウルを出たりしがハランの至りて其處に住
 テラの齡ハ二百五歳ありきテラハランの死り
 愛にエホバアプラムに言たまひたるハ汝の國を出で

汝の親族に別れ汝の父の家を離きて我が汝に示さんろの地に至れニ我汝を大ある國民と成し汝を祝ふ汝の名を大あらえめん汝は社福の基とあるべし三我の汝を祝する者を祝し汝を詛ふ者を詛はん天下の諸の宗族汝によりて福禔を獲んと曰アプラム乃ちエホバの自己に言たまひし如く出たりロト彼と共に行りアプラムはハランを出たる時七十五歳ありき五アプラム其妻サライど其弟の子ロトおよび其集めたる總の所有とハラノて獲たる人衆を攜へてカナンの地に往んとて出で遂にカナンの地お至きりホアプラム其地を經過してシケムの處に及びモレの橡樹に至きり其時にカナン人其地お住り七茲おエホバアプラムに顯現きて我汝の苗裔に此地を與へんといひたまへり彼處にて彼己お顯現きたまひしエホバお壇を築けりハ彼其處よりベテルの東の山お移りて其天幕を張り西おベテル東にハイありき彼處おて彼エホバ

お壇を築きエホバの名を頷りルアプラム尙進て南お遷きり十茲に饑饉其地にありければアプラムエシプトお寄寓らんとて彼處に下れり其之饑饉其地お甚しかりければありき彼近く來りてエシプトに入んとする時其妻サライに言けるの視よ我汝が觀るに美麗き婦人あるを知る十二是故にエシプト人汝を見る時はは彼の妻ありと言て我を殺さん然と汝をバ生存ん十三請ふ汝わが妹ありと言へ然を我汝の故およりて安に志てわが命汝のためお生存ん十四アプラムエシプトお至り茲時エシプト人此婦を見て甚だ美麗とみせり十五またバロの大臣等彼を視て彼をバロの前お譽めければ婦遂おバロの家お召入れたり十六是お於てバロ彼のためお厚くアプラムを待ひてアプラム遂お羊牛候婢牝牡の驢馬および駱駝を多く獲るお至れり十七時おエホバアプラムの妻サライの故およりて大ある災を以てバロと其家を惱したまへり十八バロアプラ

ムを召て言けるハ汝ガ我にゐしたる此事ハ何ぞや汝何故ハ彼ガ
 汝の妻あるを我ハ告ざりしや汝何故に彼ハわガ妹ありといひ
 しや我幾彼をわガ妻おめどらんとせり然バ汝の妻ハ此ハあり
 去るべしとニハ即ち彼の事を人々に命じければ彼と其妻およ
 び其有る諸の物を送りさらまめたり
 出テ南の地に上りロト彼と共にありきニアブラム甚家畜と金
 銀に富りニ彼南の地より其旅路に進テベテルに至りベテルとハ
 イの間ある其以前に天幕を張たる處に至れりロ即ち彼ガ初に其
 處ハ築きたる壇のある處あり彼處ハアブラムエホバの名を顧り
 エアブラムと偕ハ行しロトも羊牛および天幕を有りニ其地は彼等
 を載て俱ハ居しむること能はざりき彼等ハ其所有多ありしハ縁
 テ俱ハ居ることを得ざりしありセ斯有るハアブラムの家畜ハ牧

者トロトの家畜の牧者の間ハ競争ありきカナン人とベリシ人此
 時其地ハ居住リニアブラムロトハ言けるハ我等ハ兄弟の人あれ
 バ請ふ我ト汝の間およびわガ牧者と汝の牧者の間ハ競争ハらし
 むる勿れハ地ハ皆爾の前ハあるハあらずや請ふ我を離きよ爾若
 左ハゆるハ我右ハゆるハ又爾右にゆるハ我左ハゆるハとハ是ハ
 於テロト目を舉てヨルダンの低地を瞻望ミけるハゾアルに至る
 まで皆悉く善く潤澤ハてエホバの園の如くエシプトの地の如く
 ありき是ハエホバのソドムとゴモラを滅したまハざる前ありき
 ナロト乃ちヨルダンの低地を盡く撰ミとりて東に徙きリ斯彼等
 彼此に別きたリニアブラムの地に住リ又ロトハ低地の
 諸邑に住ミ其天幕を遷してソドムに至きリ十三ソドムハ人ハ悪く
 してエホバの前に大なる罪人なりき十四ロトのアブラムに別れし
 後エホバアブラムに言たまひけるハ爾の目を舉て爾の居る處よ

り西東北南を瞻望め凡ろ汝が觀る所の地の我之を永く爾と爾の裔に與べし我爾の後裔を地の塵沙の如くあさん若人地の塵沙を數ふるふとを得爾の後裔も數へらるべし爾起て縦横に其地を行き巡るべし我之を爾に與へんとアブラム遂お天幕を遷して來りヘブロンのマムレの橡林お住を彼處おてエホバに壇を築けり

第十四章

當時シナルの王アマラベルエラサル
の王アリオク、エ
ラムの王ケダラオノルおよび
ゴイムの王テダル等ニソドム
の王
ベラ、ゴモラの王ピルシヤ、
アダマの王シナプ、セポイム
の王セメベ
ルおよびベラ(即ち今のツアル)の
王と戦ひをあせりニ是等の五人
の王皆結合してシテムの谷お
至れり其處ハ今の鹽海あり
四彼等の
十二年ケダラオノルに事へ
第十三年に叛けり五第十四
年おケダ
ラオノルおよび彼と借ある
王等來りてアシタロテカル
ナイムの

レバイム人、ハムのズシ人、
シヤベキリアタイムのエミ
人六および
セイル山のホリ人を撃て曠野
の傍なるエルバラシお至れり
七彼
等歸りてエンミシバラ(即ち
今のカデシ)に至りアマレク
人の國を
盡く撃ち又ハザソシタマル
お住るアモリ人を撃りハ
爰おソドム
の王ゴモラの王アダマの王
セポイムの王およびベラ(即
ち今のツ
アル)の王彼等とシテムの
谷に戦を接へたり九即ち
彼四人の王等
エラムは王ケダラオノル、
ゴイムの王テダル、シナル
の王
ラム、エラサルの王アリオク
の五人と戦へり十シテムの
谷おの地瀝
青の坑多りゑダソドムと
ゴモラの王等通て其處お
陥りぬ其餘の
者の山に遁逃れたり是に於て
彼等ソドムとゴモラの諸の
物と其
諸は食料を取て去れり十二
彼等アブラムの姪ロトと
其物を取て去
り其の彼ソドムお住たれ
ばあり十三
玆お遁逃者來りてヘブル人
ア
ブラムに之を告たり時お
アブラムの橡林に住

りマムレはエシコルの兄弟又アチルの兄弟あり是等はアブラム
 と契約を結べる者ありき 十 アブラム其兄弟の擄おせられしを聞
 志りバ其熟練たたる家の子三百十八人を率ゐてダンまで追いた
 り 十五 其家臣を分ちて夜お乗じて彼等を攻め彼等を撃破りてダマ
 スコの左あるホバまで彼等を追ゆけり 十六 アブラム斯諸の物を奪
 回し亦其兄弟ロトと其物および婦女と人民を取回せり 十七 アブラ
 ムケダラオメルおよび彼と偕ある王等を撃破りて歸れる時ソド
 ムの王シヤベの谷(即ち今の王の谷)おて彼を迎へたり 十八 時おサレ
 ムの王メルキゼデクバンと酒を攜出せり 彼に至高き神の祭司あ
 りき 十九 彼アブラムを祝して言けるは願くは天地の主ある至高神
 アブラムを祝福みたまへ 二十 願くは汝の敵を汝の手お付したまひ
 至至高神お稱譽あれどアブラム乃ち彼に其諸の物の什分の一を
 饋れり 三 茲おソドムの王アブラムお言けるは人を我お與へ物を

汝に取れどニ アブラムソドムの王お言けるは我天地の主ある至
 高き神エホバを指て言ふ一本の絲おても鞋帯おても凡て汝の所
 属の我取ざるべし 恐くは汝我アブラムを富えめたりと言ん 言但
 少者れ既に食ひたる者および我と偕お行し人アチル、エシコルお
 よひマムレの分を除くべし 彼等おは彼等の分を取えめよ
 是等の事の後エホバの言異象の中にアブラムに臨て
 曰く アブラムよ 懼るあるを我の汝の干櫓あり 汝の寶の甚大ある
 べし ニ アブラム言けるは主エホバよ 何を我お與んとしたまふや
 我の子あくして居り此ダマスコのエリエセル我が家の相續人あ
 り 三 アブラム又言けるは祝よ爾子を我にたまはす 我の家の子わ
 ぐ 嗣子とあらんとす 四 エホバの言彼にのりて曰く 此者の爾の
 嗣子とあるべあらす 汝の身より出る者爾の嗣子とあるべし 五
 斯てエホバ彼を外に攜へ出して言たまひけるは 天を望みて星を

數へ得るのを見よと又彼に言たまひけるの汝の子孫の是のこ
 くあるべしと又彼に言たまひけるの我の此地を汝と與へて之を
 したまへり七又彼に言たまひけるの我の此地を汝と與へて之を
 有たしめんとして汝をカルデアのウルより導き出せるエホバあり
 ハ彼言けるの主エホバと我いあおして我之を有何ことを知るべ
 きやエホバ彼言たまひけるの三歳の牝牛と三歳の牝山羊と
 三歳の牝羊と山鳩および離き鴿を我ためお取とと彼乃ち是等
 を皆取て之を中より剖き其剖たる者を各相對はしめて置り但鳥
 の剖さりきと驚鳥其死體の上お下る時アプラム之を驅はらへ
 りと斯て日の没る頃アプラム酣く睡りしが其大お暗きを覺て
 懼きたり十三時おエホバアプラムお言たまひけるの爾確お知るべ
 し爾の子孫他人の國お旅人となりて其人々お服事へん彼等四百
 年のあひだ之を惱さん又其服事たる國民の我之を鞠らん其後

彼等の大ある財貨を携へて出ん爾の安然お爾の父祖の所にゆ
 ろん爾の還歸に達りて葬らるべし四代お及びて彼等此お返り
 きたらん其のアモリ人の惡未だ貫盈さきありとモ斯て日の没
 て黑暗とありし時烟と火燄の出る爐其切割たる物の中を通過り
 是日おエホバアプラムと契約をあして言たまひけるの我此地
 をエジプトの河より彼大河即ちエフラタ河まで爾れ子孫に與ふ
 三アモリ人カナ人ケニ人カデモニ人ニヘテ人ベリシ人レバム人
 ニアモリ人カナ人ケニ人カデモニ人ニヘテ人ベリシ人レバム人
 ありしガエジプト人おして其名をハガルと曰りニサライアプラ
 ムお言けるの視よエホバわが子を生むとを禁めたまひたきバ
 請ふ我が侍女の所お入色我彼よりして子女を得るあどあらんと
 アプラムサライの言を聴いきたり三アプラムの妻サライ其侍女

あるエジプト人ハガルを取て之を其夫アブラムアブラムハガルの所に入りて彼遂つひお孕はらまたりし
 き四是こゝろおおいてアブラムハガルの所に入りて彼遂つひお孕はらまたりし
 ガ己おのれは孕はらめるを見て其女おのれ主しゆを藐み視みたり五サライアブラムお言いけ
 るのわが蒙かきる害がいの汝なんぢに歸きすべし我われわが侍し女むすめを汝なんぢの懷ふところに與あたへた
 るに彼己おのれの孕はらむるを見て我われを藐み視みぐ願ねがひエホバ我われと汝なんぢの間あひだの事ことを
 鞆たもときたまへ六アブラム、サライに言いけるの視みよ汝なんぢの侍し女むすめの汝なんぢの手
 の中うちにあり汝なんぢの目めに善よく見みゆる所ところを彼かれお爲なすべしサライ乃すなはち彼
 を苦くるめけよ七彼サライの面おもてを避さけて逃にたり八エホバの使つかひ者あら野のは
 泉いづかは旁かたはら即すなはちシエルは路みちにある泉いづかの旁かたはらおて彼かれお遣おひて八言いけるの
 サライの侍し女むすめハガルよ汝なんぢ何いづこ處ところより來きたれるや又また何いづこ處ところお往ゆくや彼かれ言いけ
 るの我われの女むすめ主しゆサライは面おもてをさけて逃にるあり九エホバの使つかひ者あれ彼かれに
 言いけるの汝なんぢの女むすめ主しゆの許もとお返かへり身みを其手そのてに任ますべし十エホバの使つかひ

者ひと又また彼かれに言いけるの我われ大おほい汝なんぢの子こ孫そんを増まし其その數かずを衆おほくして數かずふる
 るとあたるざらしめん十一エホバは使つかひ者あれ又また彼かれお言いけるの汝なんぢ孕はらめり
 男子おとこを生うまふ其その名なをイシマエルイシマエル神かみ聽きこしめと名なくべしエホバ汝なんぢの艱くる難しみ
 を聽きこしめたまへをあり十二彼かれの野の驢ろ馬せの如ごとき人ひととあらん其手そのての諸すて
 の人ひとに敵てきし諸すて人ひとの手て之これお敵てきすべし彼かれの其その諸すては兄弟あひなは東ひがしお住すま
 んと十三ハガル己おのれに論たましたまへるエホバの名なをアタエルロイアタエルロイ汝なんぢ
 見たまふ神かみありと呼よび彼かれ即すなはち我われ視みたる後のち尙なほ生いくやと言いひ十四是こゝろを
 もて其その井いハエルラハイロイ見て尙なほ活いく者ものの井い或あるは顯あら現はれの後のち尙なほ
 活いく者ものの井いと呼よぶ是こゝろハカデシとベレデは問あひだあり十五ハガル、ア
 プラムお男子おとこを生うまふアブラム、ハガルの生うめる其子そのこは名なをイシマ
 エルと名なけたり十六ハガル、イシマエルをアブラムお生うまふ時ときアブラ
 ムの八十六歳さいありき

創世記

アブラム九十九歳の時エホバアブラムに顯あら色はて之これに

言たまひけるは我は全能の神あり汝我前に行みて完全なれよ
 我と汝の契約を我と汝の間に立て大に汝の子孫を増んニ
 乃ち俯伏たり神又彼に告て言たまひける曰我汝と汝の契約を
 立つ汝の衆多の國民の父とあるべし五汝の名を此後アブラムと
 呼ぶべりらず汝の名をアブラム(衆多の人の父)とよぶべし其は
 我汝を衆多の國民の父と爲りあり六我汝を去て衆多の子孫を得
 せえめ國々の民を汝より起さん王等汝より出べし七我と汝の契約
 を我と汝および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約と
 爲し汝および汝の後の子孫の神とあるべし八我汝と汝の後の子
 孫に此汝が寄寓る地即ちカナンの全地を與へて永久の産業と爲
 さん而して我彼等の神とあるべし九神またアブラムに言たま
 ひける曰然バ汝と汝の後の世々の子孫とが契約を守るべし十汝
 等の中の男子は咸割禮を受べし是に我と汝等および汝の後の子

孫の間の我が契約にして汝等の守るべき者あり十一汝等其陽の皮
 を割べし是我と汝等の間の契約の徴あり十二汝等の代々の男子は
 家に生きたる者も異邦人より金にて買たる汝の子孫あらざる者
 も皆生きて八日に至らむ割禮を受べし十三汝の家に生れたる者も
 汝の金にて買たる者も割禮を受ざるべし十四汝の家に生れたる者も
 皮を割ざる者も我契約を破るによりて其人其民の中より絶るべ
 し十五神又アブラムに言たまひける曰汝の妻サライの其名をサ
 ライと稱ふべからず其名をサラと爲べし十六我彼を祝み彼よりし
 て亦汝に一人の男子を授けん我彼を祝み彼を去て諸邦の民の母
 とあるべし十七諸の民の王等彼より出べし十七アブラム俯伏て
 晒ひ其心に謂ける曰百歳の人に豈で子の生るることあらんや又
 サラ九十歳なきを豈で産みとをあるさんやと十八アブラム遂に

神にむくひて願くとイシマエルの汝のまへに生存へんことを
 曰ふ十九神言たまひける汝の妻サラ必ず子を生ん汝其名をイサ
 クと名くべし我彼および其後の子孫と契約を立て永久の契約と
 あさん二十又イシマエルの事に關て我汝の願を聽たり視よ我彼
 を祝みて多衆の子孫を得さめ大に彼の子孫を増すべし彼十二
 の君王を生ん我彼を大ある國民とあすべし三然と旦夕契約は我
 翌年の今頃サラが汝に生ん所のイサクと之を立べし三神アブラ
 ハムと言ふとを竟へ彼を離れて昇りたまへり三是に於てアブラ
 ハム神の已に言たまへる如く此日其子イシマエルと凡て其家に
 生きたる者および凡て其金にて買たる者即ちアブラハムの家の
 人の中ある諸の男を將きたりて其陽の皮を割たり三アブラハム
 は其陽の皮を割たる時九十九歳三其子イシマエルは其陽の皮を
 割たる時十三歳ありき三是日アブラハムと其子イシマエル割禮

を受たり三又其家の人家お生きたる者も金にて異邦人より買た
 る者も皆彼ととも割禮を受たり

第十八章

エホバマムレの橡林にてアブラハムに顯現たまへり彼

の日は熱き時刻天幕れ入口に坐しゐたりと
 視よ三人人其前に立り彼見て天幕れ入口より趨りゆきて之
 を迎へ三身を地に鞠めて言けるは我が主よ我若し汝らの目のま
 へお恩を得たるあらば通り過すありれ三請ふ少許の水を取きた
 らとめ汝等の足を濯ひて樹の下に休憩たまへ三我一口のパンを
 取り來らん汝等心を慰めて然る後過ゆくべし汝等僕の所を過れ
 ばなり彼等言ふ汝が言るおどく爲せ三是をおいてアブラハム天
 幕に急ぎいりてサラの許に至りて言けるは速に細麵三セヤを取
 り捏てパンを作るべしと七而してアブラハム牛の群に趨ゆき積
 の柔にして善き者を取りきたりて少者に付まければ急ぎて之を

調理ふハりくくてアブラハム牛酪と牛乳および其調理へたる積を
 取て彼等のまへに供へ樹の下にて其側に立り彼等乃ち食へり
 彼等アブラハムに言けるは爾の妻サラは何處にあるや彼言ふ天
 幕にあり十其一人言ふ明年の今頃我必ず爾に返るべし汝の妻サ
 ラに男子あらんナサラ其後ある天幕の入口ありて開るたりナ
 抑アブラハムとサラは年邁みて老いたる者にしてサラには婦人
 の常の經己に息たりナ是故アサラ心お晒ひて言けるは我は老衰
 へ吾が主も亦老たる後あれば我に樂あるべけんやナエホバア
 プラハムに言たまひけるは何故にサラ晒ひて我老たれば果して
 子を生ふとあらんやと言ふやナエホバお豈爲し難き事あらんや
 時至らば我定めたる期お爾お歸るべしサラに男子あらんナサ
 ラ僱きたるバ承すゑて我晒へすと言へりエホバ言たまひけるハ
 否汝晒へるありナ斯て其人々彼處より起てソドムの方を望みけ

れをアブラハム彼等を送らんとて俱お行りナエホバ言たまひけ
 るは我が爲んとする事をアブラハムお隠すべけんやナアブラハ
 ムは必ず大いある強き國民とありて天下の民皆彼お由て福を獲
 るに至るべきおあらずやナ其は我志る彼は其後の兒孫と家族お
 命じてエホバの道を守らゑめ公義と公道を行とゑむべしエホバ
 遂おアブラハムお其曾て彼に言し事を行ふに至るべしとニエホ
 バ又言たまふソドムとゴモラの號呼大いあるに因り又其罪甚だ
 重に因りてニ我下りて彼等ダ全く其我に達れる號呼の如く行ひ
 ゑおを見んとす若ゑうらすむ我知るに至らんとニ其人々其處よ
 り身を旋らししてソドムに赴けりアブラハムは尙ほエホバのまへ
 に立りニアブラハム近よりて言けるハ爾の義者をも惡者と俱に
 滅ぼしたまふや若邑の中に五十人の義者あるも汝尙ほ其處を
 滅ぼし其中の五十人の義者のために之を恕ゑたまはざるやニ爾

斯の如く爲て義者を惡者と俱に殺すが如きは是あるまじき事なり
 又義者と惡者を均等するがごときもあるまじき事なり天下を
 轄く者は公義を行ふべきにあらすや
 エホバ言たまひけるは我は塵と灰なき
 若シドムに於て邑れ中に五十人の義者を看む其一人々のために其
 處を盡く恕さんモアブラハム應へていひけるは我は塵と灰なき
 ども敢てわが主に言上す若五十人の義者の中五人缺たらんに
 爾五人のために邑を盡く滅ぼしたまふや
 エホバ言たまひけるは
 我若彼處に四十五人を看む滅さるべし
 エホバ言たまひけるは
 我若彼處に四十人看えざる如何
 エホバ言
 ホバに言上して曰けるは若彼處に四十人看えざる如何
 エホバ言
 たまふ我四十人のために之をあるさし
 エホバ言
 ふわが主よ怒らずして言えめたまへ若彼處に三十人看えざる如何
 エホバ言
 何エホバ言
 言ふ我あへてわが主に言上す若彼處に二十人看えざる如何
 エホバ言

ホバ言たまふ我二十人のためにほろぼさし
 エホバ言
 ふわが主怒らずして今一度言しめたまへ若しほろぼさし
 エホバ言
 若何エホバ言たまふ我十人のためにほろぼさし
 エホバ言
 ラハムと言ふいとを終てゆぎたまへり
 アブラハム其所にりへ
 りぬ

第二十一節

其二個の天使黄昏にソドムお至る
 口ト時おソドムの
 門お坐し居たりしが之を視起て迎へ首を地にさげて言けるは
 我主よ請ふ僕の家の臨を足を濯ひて宿り早く起て途お過征たま
 へ彼等言ふ否我等の街衛お宿らんと
 然と固く之を強けれバ遂
 に彼れ所お臨きて其家お入る
 口ト乃ち彼等れたためお錠を設け
 酔
 いれぬ
 バンを炊て食ひしめたり
 斯して未だ寢ざる前お邑の人
 々即ちソドムの人老たると若きとを論す
 四方八方より來れる民
 皆其家を環と
 五口トを呼て之お言けるは
 今夕爾お就たる人何

處おをるや彼等を我等の所お携へ出せ我等之を知らん
 口に出て其後お戸を閉ぢ彼等の所お至りて七言ける
 よ惡き事を爲すあるれハ我に未だ男知ぬ二人は女あり請ふ我之
 を携へ出さん爾等の目お善と見ゆる如く之おあるせよ惟此人等
 既に我家に蔭お入たれを何をも之にあすあるれ九彼等曰ふ爾退
 け又言ける此人の來り寓れる身あるお恒に士師とあらんとす
 然を我等彼等に加ふるよりも多くの害を爾に加へんと遂お彼等
 酷しく其人ロトお逼り前よりて其戸を破んとせしが十彼二人其
 手を舒しロトを家の内お援いれて其戸を閉ぢ家の入口おをる
 人衆をして大あるも小も俱に目眩しめければ彼等遂お入口を索
 ぬるお困憊たりと斯て二人ロトに言ける外に爾に屬する者お
 るや汝の婿子女および凡て邑にをりて爾に屬する者を此所より
 携へ出すべし此處の號呼エホバの前に大にありたるに因て我

等之を滅さんどすエホバ我等を遣りして之を滅さしめたまふ
 ロト出て其女を娶る婿等に告て言けるエホバ邑を滅したまふ
 べければ爾等起て此處を出よと然と婿等ハ之を戲言と視爲り
 曉お及て天使ロトを促して言ける起て此ある爾の妻と二人の
 女を攜へよ恐くハ爾邑の惡どもに滅されん其然るに彼遅延ひ
 しりバ二人其手と其妻の手と其二人の女の手を執て之を導き出
 し邑の外に置りエホバ斯彼に仁慈を加へたまふ也既に之を導き
 出して其一人曰ける逃遁て汝の生命を救へ後を回顧るありれ
 低地の中お止るありき山お遁れよ否すを爾滅されん夫ロト彼等
 に言けるわが主よ請ふ斯したまふありれ九視よ僕爾の目のま
 へに恩を得たり爾大ある仁慈を吾お施してわが生命を救たまふ
 吾山お遁る能す恐くハ災害身お及びて死るにいたらん十視よ此
 邑の遁ゆくに近くして且小し我をして彼處に遁れしめよ
 九

を吾生命全うらん是のちいさき邑あるあわらずや三天使之あいひけ
 るの視よ我此事あ關ても亦爾の願を容たきバ爾あ言ふとあろの
 邑を滅さじ三急いて彼處あ通れよ爾あ彼處に至るまであ我何事
 をも爲を得ずと是あ因て其邑の名あザアルあ（小し）と稱あるあトツア
 ルあに至れる時日地あ上あに昇れりあエホバあ硫黄あと火あをエホバあ所
 よりあ即ち天よりあソドムあとゴモラあに雨しめあ其邑あと低地あと其邑の
 居民あおよび地あお生るとあろの物を皆盡く滅あしたまへりあトトの
 妻あの後あを回顧あたきを鹽あの柱あとありぬあエホバあアブラハムあ其朝あ夙あお興て
 其嘗てエホバあの前あお立たる處あお至りぬあソドムあ、ゴモラあおよび低地
 の全面あを望み見るあ其地の烟あ焰あ審あの烟あのごとくあお騰上あをりあ神
 低地の邑あを滅あしたまふ時あ即ちあトトの住る邑あを滅あしたまふ時に當
 り神あアブラハムあを眷念あて斯其滅亡あの中よりあトトを出あしたまへり
 三あ斯てあトツアルあお居るあふとを懼あきたきを其二人あの女あと借あおツ

アルあを出あて上りて山あお居り其二人あの女あ子あとあもあ巖穴あお住りあ三
 茲あに長女あ季女あにいひけるあ我等あの父あの老あいたりあ又あ此地あにあ我等
 に偶あて世の道あを成あす人ああらずあ然あを我等あ父あに酒あを飲あせてあ與あにあ寢
 ね父あお由あて子あを得あんとあ遂あに其夜あ父あに酒あを飲あせ長女あ入あて其父あと
 與あに寢あたりあ然あるあトトの女あの起あ臥あをあ知あさりあ言あ翌日あ長女あ季女あに
 言あけるあ我昨夜あわあ父あと寢あたりあ我等あ此夜あ又あ父あに酒あをのあませんあ爾
 入あてあ與あお寢あよあわあ色あらあれあ父あお由あて子あを得あるあみとをあえんあとあ乃あちあ其
 夜あも亦あ父あお酒あをあれあませあ季女あ起あて父あとあ與あにあ寢あたりあトトあまたあ女あの起
 臥あをあ知あさりあ斯あトトあれあ二人あの女あ其父あおよりてあ孕あまあたりあモ長女
 子あを生あまあ其名あをモアブあと名あくあ即ちあ今あのモアブあ人の先あ祖あありあ三あ季
 女あも亦あ子あを生あまあ其名あをベニアンあミあと名あくあ即ちあ今あのアンあモニあ人の
 先あ祖あありあ

アブラハム彼處より徙りて南の地に至りカデシとシ

ニルの間お居りケラルに寄留りニアブラハム其妻サラを我妹あ
 りと言えりバケラルの王アビメレク人を遣してサラを召入たり
 然るに神夜の夢にアビメレクに臨みて之に言たまひたるは汝
 は其召入たる婦人のためお死るに至らん彼は夫ある者あきば
 りアビメレク未だ彼に近づりざりたり言ふ主よ汝の義き民
 をも殺したまふや彼は我お是こ也が妹ありと言えにわらずや
 又婦も自彼は也が兄ありと言たり我至き心と潔き手をもて此を
 あせり神又夢お之に言たまひける然り我汝が至き心をもて
 之をあせるを知りたきバ我も汝を阻めて罪を我に犯さめざり
 き彼に觸るを容ざりては是がためあり也然バ彼の妻を歸せ彼は
 預言者あきバ汝のため祈り汝を去て生命を保えめん汝若歸す
 バ汝と汝に屬する者皆必死るに至ると知るべし是に於てアビ
 メレク其朝夙に興て臣僕を悉く召し此事を管語り聞せけきを人

々甚く懼色たりアステアビメレクアブラハムを召て之に言ける
 は爾我等に何を爲すや我何の悪き事を爾にあしてり爾大ある罪
 を我と也が國に蒙らまむる爾爲べりらざる所爲を我お爲したり
 アビメレク又アブラハムに言けるは爾何をを見て此事を爲たる
 やアブラハム言けるは我此處はうあらず神を畏きざるべけき
 を吾妻のため人我を殺さんと思ひたるあり也又彼は誠に也が
 妹あり彼は也が父の子にして也が母の子にわらざるが遂に我妻
 とありたるあり也神我を志て吾父の家を離れて周遊えめたまへ
 る時に當て我彼に爾我等が至る處にて我を爾の兄ありと言へ是
 は爾が我に施す恩ありと言たり言アビメレク乃ち羊牛僕婢を將
 てアブラハムに與へ其妻サラを之に歸せり而してアビメレク
 言けるは視よ我地の爾の女へにあり爾の好むとあるに住め又
 サラに言けるは視よ我地の爾の兄に銀千枚を與へたり是は爾および

諸の人にありて事等につきて爾の目を蔽ふ者あり斯爾償願を得たり是に於てアブラハム神に祈りけきバ神アピメレクと其妻および婢を醫したまひて彼等子を産むおいたるエホバ嘗てアブラハムの妻サラの故をもてアピメレクの家の子の胎をよどく閉たまへり

エホバ其言し如くサラを眷顧またまひ即ちエホバ其語しごとくサラに行ひたまひしかバサラ遂に孕を神のアブラハムに語たまひし期日に及びて年老たるアブラハムに男子を生りミアブラハム其生きたる子即ちサラが己に生る子の名をイサクと名けたり

アブラハム神の命じたまひし如く八日に其子イサクに割禮を行へり

アブラハムは其子イサクの生きたる時百歳ありき

サラ言けるハ神我を笑とえめたまふ聞く者皆我どもに笑とん

又曰けるハ誰ウアブラハムにサラ子女に乳を飲

まむるにいたらんと言しものわらん然に彼が年老るに及びて男子を生たり

ハ

儲其子長育ち遂に乳を断るイサクの乳を断る日にアブラハム大ある饗宴を設けたり

時にサラエジプト人ハカルダアブラハムに生たる子の笑ふを見て

アブラハムに言けるハ此婢と其子を逐出せ此婢の子ハ吾子イサクと共

に嗣子とあるべり

らざるありと

アブラハム其子のために甚く此事を憂たり

十二

神アブラハムに言たまひけるハ童兒のため又汝の婢のため

之を憂るありき

サラ汝に言どあるの言ハ悉く之を聴け

其ハ

サクより出る者汝の裔と稱らるべけき

バ

あり

又婢の子も汝の胤

あるを我之を一の國とあるさん

十四

アブラハム朝夙に興て

パンと水の革囊とを取り

ハ

ガルに興へて之を其肩に負せ

其子を攜へて去

えめけきを彼往て

ベ

エル

シ

バ

の曠野に踟躕

え

が

革囊の水遂に

罄たき

バ

子を灌木の下に置き

十六

我子の死るを見るに忍ずといひ

て遙かに行き箭達を隔てて之に對ひ坐あぬ斯相繼ひて坐し聲を
 あげて泣くも神其童兒の聲を聞たまふ神の使即ち天よりハガル
 を呼て之に言けるハハガルよ何事や懼るるなりを神彼處にを
 る童兒の聲を聞たまへり起て童兒を興し之を汝の手に抱くべ
 し我之を大ある國とあさんと神ハガルの目を聞きたまひけき
 を水の井あるを見ゆきて革囊に水を充し童兒に飲あめたり神
 童兒と借に在す彼遂に成長り曠野に居りて射者とありニ
 の曠野に住り其母彼のためにエジプトの國より妻を迎へたり
 當時アピメレクと其軍勢の長ビコルアブラハムに語て言けるハ
 汝何事を爲にも神汝とよもに在す然を汝が我とわが子とわが
 孫に偽をあさたらんよとを今此に神をさして我に誓へ我が厚情
 をもて汝をあつあふごとく汝我と此汝が寄留る地に爲べし言
 プラハム言ふ我誓はんニ
 アブラハムアピメレクの臣僕等が水の

井を奪ひたる事につきてアピメレクを責けさハ
 我誰が此事を爲しを知らず汝我に告あふと無く又我今日まで聞
 ふことあしモアブラハム乃ち羊と牛を取て之をアピメレクに與
 ふ斯て二人契約を結べり云アブラハム牝の羔七を分ち置けきを
 アピメレクアブラハムに言ふ汝此七の牝の羔を分ちおくハ何
 のためなるやアピメレク言けるは汝わが手より此七の牝の羔
 を取りて我が此井を堀たる証據とあらあめよと彼等二人彼處に
 誓ひあよりて其處をベエルシバ(盟約の井)と名けたり
 斯彼等
 ベエルシバにて契約を結びアピメレクと其軍勢の長ビコルハ起
 てベリシテ人の國に歸りぬ
 三
 永遠に在す神エホバの名を彼處に頷り言斯してアブラハム久く
 ベリシテ人の地に留寄りぬ
 是等の事の後神アブラハムを試みんとて之をア
 プ

ラハムよと呼たまふ彼言ふ我此にありニエホバ言たまひけるの
 爾が愛する爾の獨子を携てモリアの地に到りわが爾に示さん所
 の彼所の山お於て彼を燔祭として献ぐべしニアブラハム朝夙お
 興て其驢馬お鞍おき二人の少者と其子イサクを携へ且燔祭の柴
 薪を劈りて起て神の巳お示したまへる處おおもひさけるが四三
 日におよびてアブラハム目を舉て遙お其處を見たり五是お於て
 アブラハム其少者お言けるの爾等は驢馬ととも此に止れ我と
 童子は彼處にゆきて崇拜を爲し復爾等お歸んホアブラハム乃ち
 燔祭の柴薪を取て其子イサクお負せ手に火と刀を執て二人とも
 に往りセイサク父アブラハムお謂て父よと曰ふ彼答て子よ我此
 にありといひけれバイサク即ち言ふ火と柴薪は有り然と燔祭の
 羔は何處にあるやハアブラハム言けるは子よ神自ら燔祭の羔を
 備へたまはんと二人借お進みゆきて遂に神の彼に示したまへ

る處に到れり是においてアブラハム彼處に壇を築き柴薪を臚列
 べ其子イサクを縛りて之を壇の柴薪の上に置せたり十斯してア
 プラハム手を舒べ刀を執りて其子を宰んとす十二時にエホバの使
 者天より彼を呼てアブラハムよアブラハムよと言へり彼言ふ我
 此にありと使者言けるの汝の手を童子に按るあうれ亦何をも彼
 に爲べからず汝其獨子をも我ために惜まされバ我今汝が神を畏
 るを知るど茲にアブラハム目を舉て視たるに後に角の林叢に
 繫りたる牡綿羊ありけ色バアブラハム即ち往て其牡綿羊を執へ
 之を其子の代に燔祭として献げたり十四アブラハム其處をエホバ
 エレ(エホバ預備たまはんと名く是に縁て今日人々山おエホバ預
 備たまはんといふ十五エホバの使者再天よりアブラハムを呼て十六
 言けるはエホバ論したまふ我己を指て誓ふ汝是事を爲し汝の獨
 子を惜まざりてお因て七我大に汝を祝み又大お汝の子孫を増し

て天の星の如く濱の沙の如くあらまむべし汝の子孫は其敵の門
 を獲ん又汝の子孫およりて天下の民皆福祉を得べし汝は言
 に違ひたるおよりてありと先斯てアブラハム其少者の所に歸り
 皆たちて借にベエルシバにいたきりアブラハムはベエルシバに
 住り是等の事の後アブラハムに告る者ありて言ふミルカ亦汝
 の兄弟ナホルおまたがひて子を生子はウヅ其弟はブズ其
 次はケムエル是はアラムの父ありミ其次はケセデハヅベルダシ
 エデラフベトエルミベトエルはりベカを生り是八人はミルカが
 アブラハムの兄弟ナホルに生たる者ありミナホルの妾名はルマ
 といふ者も亦テバガハムタハシおよびマアカを生り
 ハム至りてサラのため哀を且哭りミ斯てアブラハム死人の前
 ラキリアアアルバに死り是ハカナン地のヘブロンありアブラ
 ハム至りてサラのため哀を且哭りミ斯てアブラハム死人の前

第廿三章

一 サラ百二十七歳ありき是即ちサラの齡の年ありニサ

より起ち出てロヘテの子孫に語りて言けるハ我ハ汝等の中
 旅あり寄居者あり請ふ汝等の中に我に墓地を與へて吾が所有
 どもし我をして吾が死人を出し葬るみとを得せしめよヘテの
 子孫アブラハムに應て之に言ふハ我主よ我等に聽たまへ我等の
 中にありて汝ハ神の如き君あり我等の墓地の佳者を選きて汝の
 死人を葬れ我等の中一人も其墓地を汝にをしめて汝をしてろの
 死人を葬らしめざる者ありるべし是に於てアブラハム起ち其
 地の民ヘテの子孫に對て躬を鞠ひハ而して彼等を語ひて言ける
 ハ若我をしてわが死人を出し葬るを得せしむる事汝等の意あら
 バ請ふ我に聽て吾ためおツハルの子エフロンに求めル彼をして
 其野の極端に有るマクベラの洞穴を我お與へしめよ彼其十分の
 値を取て之を我に與へ汝等の中にわが所有ある墓地とあさバ
 善しハ時にエフロンヘテの子孫の中に坐しゐたりヘテ人エフロ

ンヘテの子孫即ち凡て其邑の門に入る者の聽る前にてアブラハムに應へて言けるハ吾主よ我に聽たまへ其田の我汝に與ふ又
 其中的の洞穴も我之を汝に與ふ我吾民ある衆人の前にて之を汝に
 あたふ汝の死人を葬れ是に於てアブラハム其地の民の前に躬
 を鞠めたり而して彼其地の民の聽る前にてエフロンの語りて
 言けるハ汝若之を肯せば請ふ吾に聽け我其野の値を汝に償はん
 汝之を吾より取れ我わが死人を彼處に葬らん十苗エフロンアブラ
 ハムに答て曰けるハ主よ我に聽たまへ彼地の銀四百シケ
 ルに當る是ハ我と汝の間に豈道に足んや然バ汝の死人を葬れ其
 アブラハムエフロンの言に従ひエフロンダヘテの子孫の聽る前
 にて言たる所の銀を秤り商買の中の通用銀四百シケルを之に與
 へたりモマムレの前あるマクベラに在るエフロンの野の野も其
 中の洞穴も野の中と其四周の界にある樹も皆ハヘテの子孫の前

即ち凡て其邑に入る者の前にてアブラハムの所有と定りぬ厥後
 アブラハム其妻サラをマムレの前あるマクベラの野の洞穴に葬
 れり是即ちカナンの地のヘブロンあり二十斯く其野と其中の洞穴
 ハヘテの子孫之をアブラハムの所有ある墓地と定めたり

第廿四章

一 アブラハム年邁て老たりエホバ萬の事に於てアブラ

ハムを祝きたまへりニ茲にアブラハム其凡の所有を宰る其家の
 年邁ある僕に言けるハ請ふ爾の手を吾牌の下に置よ三我爾をし
 て天の神地の神エホバを指て誓はえめん即ち汝わが偕に居むカ
 ナン人の女の中より吾子に妻を娶るありき四汝わが故國に往き
 吾親族に到りて吾子イサクのためには妻を娶よ五僕彼小言けるハ
 倘女我小從ひて此地に来るみとを好まざる事あらん時ハ我爾の
 子を彼汝が出來りし地に導き歸るべきか六アブラハム彼にいひ
 けるハ汝慎みて吾子を彼處に携かへるあるべき七天の神エホバ我

を導きて吾父の家とわが親族の地を離れ去め我お語り我に誓ひ
 て汝の子孫に此地を與へんと言たまひし者其使を遣して汝に先
 たまめたまひん汝彼處より我子に妻を娶るべしハ若女汝に従ひ
 來るふとを好ざる時汝吾此誓をゆるさるべし唯わが子を彼處
 に携へりへるありきハ是に於て僕手を其主人アブラハムの婢の
 下に置いて此事について彼に誓へりハ斯て僕其主人の駱駝の中よ
 り十頭の駱駝を取りて出たり即ち其主人の諸の佳物を手にと
 りて起てメソポタミアに往きナホルの邑に至りハ其駱駝を邑の
 外にて井の傍に跪伏せたり其時黄昏にて婦女等の水汲にい
 づる時ありきハ斯して彼言けるハ吾主人アブラハムの神エホバ
 よ願くハ今日我に逢えめわが主人アブラハムに恩恵を施したま
 へハ我此に水井の傍に立ち邑の人の女等水を汲に出づハ我童女
 に向ひて請ふ汝の瓶をかたむけて我にのたまえよと言んに彼答

へて飲め我また汝の駱駝おも飲めんと言ハ彼ハ汝が僕イサク
 のためお定めたまひし者あるべし然きを我汝の吾主人に恩恵を
 施したまふを知らんハ彼語ふことを終るまへお視よりベカ瓶を
 肩おのせて出きたる彼のアブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの
 子ベトエルお生きたる者ありハ其童女の觀お甚だ美しく處女お
 して未だ人に適しふとあらず彼井に下り其瓶に水を盈て上りし
 かを僕ハせよきて之にあひ請ふ我を去て汝の瓶より少許の水
 を飲めよといひけきをハ彼主よ飲たまへといひて乃ち急に其
 瓶を手おろして之のましめたりシハ飲せをはりて言ふ汝
 此駱駝のためおも其飲をのるまで水を汲んどハ急に其瓶を水
 鉢おわけ井おはせかへりて汲ミ其諸の駱駝のためお汲みたりハ
 其人之をいふりしみエホバが其途お幸福をくだしたまふや否を
 知らんとして黙し居たりハ茲お駱駝飲をりしりハ其人重半シ

ケルれ金の鼻環一箇と重十シケルの金の手釧二箇をとりて言
 けるの汝の誰の女あるや請ふ我告よ汝れ父の家お我等が宿る
 隙地あるや言女彼にいひけるの我のミルカガナホルに生たる子
 ベトエルの女あり又彼にいひけるの家にの藁も飼草も多くあ
 り且宿る隙地もあり是に於て其人伏てエホバを拜み言ける
 は吾主人アブラハムの神エホバは讚美べきうなわが主人を遣す
 して慈悲と眞實を玄めしたまふ我途おありしおエホバ我を吾主
 人の兄弟の家おみちびきたまへり茲お童女走行て其母の家お
 此等の事を告たり元リベカお一人の兄あり其名をラバンといふ
 ラバンはせいで其人の許おひき井お至る事すあはち彼鼻環お
 よび其妹の手の手釧を見又其妹リベカお其人斯我お語りといふ
 を聞て其人の所お到り見るに井の側に駱駝の傍らにたちるたを
 ばミ之に言けるは汝エホバに祝るよ者よ請ふ入るを爰外おたつ

や我家を備へ且駱駝のためお所をろあへたり是に於て其人家
 おいりぬラバン乃ち其駱駝の負を釋き藁と飼草を駱駝にあたへ
 又水をあたへて其人の足と其從者の足をわらはまめ三期して彼
 の前に食をろあへたるお彼言ふ我はわが事をのぶるまでは食は
 じとラバン語をといひけき言彼言ふわをのアブラハムの僕あ
 り三五エホバ大にわが主人をめぐまたまひて大ある者どあらしめ
 又羊牛金銀僕婢駱駝驢馬をふれにたまへり三六わが主人の妻サラ
 年老てのちわが主人に男子をうまければ主人其所有を悉く之に
 與ふまわが主人我を誓せて言ふ吾すめるカナンの地の人の女子
 れ中よりわが子に妻を娶るあられ三汝わが父の家にゆきわが親
 族にいたりわが子のために妻をめでれと三我わが主人にいひけ
 るの倘女我にしたがひて來すば如何四彼我にいひけるの吾事ふ
 るどあろのエホバ其使者を汝ととも遣りして汝の途に幸福を

降したまひん爾わが親族わが父の家より吾子に妻をめでるべし
 汝わが親族に到れる時わが誓をゆるさるべしと我今日井に至りて謂々
 たへずを汝わが誓をゆるさるべしと我今日井に至りて謂々
 らくわが主人アブラハムの神エホバに立つ水を汲にいでる處女
 福を降したまへ我に此に井水の傍に立つ水を汲にいでる處女
 あらん時我彼にひうひて請ふ汝れ瓶より少許れ水を我にたまし
 めよと言んお留若我お答へて汝飲め我亦汝れ駱駝ためおも汲
 んと言んは是エホバわが主人の子のためお定たまひし女あるべ
 し我心の中に語ふとを終るまへありへか其瓶を肩にのせて
 出來り井あくだりて水を汲きたるおより我彼お請ふ我おのまし
 めよと言んければ其彼急に其瓶を肩よりおろしていひける飲め
 また汝の駱駝おもものましめんと是に於て我飲しが彼また駱駝に
 ものましめたり我彼お問て汝誰の女あるやといひければ

ルカガナホルに生たる子ベトエルの女ありといふ是に於て我其
 面お鼻環を付け其手お手鋤をつけたり而して我伏てエホバを
 拜し吾主人アブラハムの神エホバを頌美たりエホバ我を正き途
 お導きてわが主人の兄弟の女を其子のためお娶しめんとしたま
 へばあり見されを汝等若わが主人おむりひて慈恵と眞誠をもて
 事をあさんと思ひ我お告よ然さるも亦我お告よ然ば我右左
 おおもむくをえんエホバに答て言ける此事の事エホ
 バより出づ我等汝に善惡を言ふわたのす視よりべか汝の前お
 をる携へてゆき彼をしてエホバの言たまひし如く汝の主人の子
 の妻とあらしめよエホバの僕彼等の言を聞て地お伏てエ
 ホバを拜めり是お於て僕銀の飾品金の飾品および衣服をとり
 いだしてリベカお與へ亦其兄と母お寶物をあたへたり吾是お於
 て彼と其從者等食飲して宿りしが朝興たる時彼言ふ我をして吾

主人お還らしめよ 五五 リベカの兄と母言けるの童女を數日の間少くも十日我等と借にをらしめよ 五六 彼ゆくべし 五七 彼人之に言ふエホバ 吾途に祉福をくだしたまひたるあれば我を阻むるありれ 我を歸してわが主人に往しめよ 五八 彼等いひけるの童女をよびて其言を問んと 五九 即ちリベカを呼て之お言けるの汝此人とともお往や 彼言ふ往ん 六〇 是に於て彼等妹リベカと其乳媪およびアブラハムの僕と其従者を遣り去しめたり 六一 即ち彼等リベカを祝して之おいひけるの汝の妹あり千萬の人の母とあるれ 汝の子孫の其仇の門を獲ん 六二 是お於てリベカ起て其童女等とともお駱駝おのりて 其人にしたがひ往く 僕乃ちリベカを導きてさりぬ 六三 茲にイサクラハイロイの井の路より來れり 南の國お住居たればあり 六四 茲してイサク 黄昏に野お出て 黙想をあしたり 六五 目を舉て見しに駱駝の來るあり 六六 即ちリベカ目をあげてイサク

を見駱駝をおりて 六五 僕にいひけるの野におゆみて我等にむのひ來る者の何人あるや 僕わが主人ありといひければ 六六 リベカ覆衣をとりて身をおほへり 六七 茲に僕其凡てあしたる事をイサタに告ぐ 六八 イサク リベカを其母サラの天幕に携至り 六九 リベカを娶りて其妻とあして之を愛したり 七〇 イサクの母にわられて 後茲に慰藉を得たり

第廿五章

一 アブラハム 再妻を娶る 其名をケトラといふ 二 彼シ

ムランヨクシヤンメダンミデアンイシバクシユワを生り 三 ヨクシヤンシバドアダンを生む 四 アダンの子はアッシユリ族 五 トシ族 六 ウミ族 七 あり 八 ミデアンの子はエバエベルヘノクアピダエルダア 九 あり 十 是等は皆ケトラの子孫あり 十一 アブラハム 其所有を盡くイサクに與へたり 十二 アブラハムの妾等の子にはアブラハム 其生る間に物をあたへて之を志て 其子イサクを離れて 東にさりて 東の國

に至らむセアブラハムの生存へたる齢の日は即ち百七十五年
 ありきハアブラハム妙齢に及び老人となり年満て氣たえ死て其
 民に加ふる其子イサクとイシマエル之をヘテ人ゾハルの子エフ
 ロンの田あるマクヘラの洞穴に葬れり是はマムレの前あり十
 即ちアブラハムガヘテの子孫より買たる田あり彼處ホアブラハ
 ムと其妻サラ葬らるニアブラハムの死たる後神其子イサクを祝
 みたまふイサクはラハイロイの井の邊に住りニサラの侍婢ある
 エシプト人ハガルガアブラハムに生たる子イシマエルの傳は左
 のおとし十三イシマエルの子の名は其名氏と其世代に循ひて言バ
 是のごとしイシマエルの長子は子バヨテあり其次ハケダルアデ
 ビエルミプサム昔ニシマドママツサ十五ハダルテマエトル子フシ
 ケアマ十六是等ハイシマエルの子あり是等ハ其郷黨と其營ホまた
 ガひて言る者にして其國ホ循ひていへバ十二の牧伯ありモイシ

マエルの齡ハ百三十七歳ありき彼氣たえ死て其民ホくモころハ
 イシマエルの子等ハヒビラよりシユルにいたる間に居住り其處
 ハエシプトの前ありてアッスリヤにいたるところありイシマエ
 ル其兄弟等の東に落つきぬ十九アブラハムの子イサクの傳ハ左の
 おとしアブラハムイサクを生りニイサク四十歳にしてリベカを
 妻ホ娶れりリベカハバダンアラムの夫リア人ベトエルの女ハシ
 テスリア人ラバンの妹ありニイサク其妻の子あり因て之ガた
 めホエホバハ祈願をたてけ色バエホバ其ねダヒを聴たまひて其
 妻リベカ遂ホ孕みしガニ其子胎の内ホ争ろひけ色バ然らバ我
 りで斯てあるべきと言て往てエホバハ問ハニエホバ彼ホ言たま
 ひけるハ二の國民汝の胎あり二の民汝の腹よりいで別をん
 一の民ハ一の民よりも強うるべし大ハ小ハ事へん言茲ホ臨月
 ちて見るホ胎ハハ學ありきニ先ホ出たる者ハ赤くして胎中衰の

おとし其名をエサウと名けたり 其後弟出たるが其手おエサウの踵を持ち其名をヤコブとあづけたりリベカが彼等を生し時イサクを六十歳ありきモ茲お童子人どありしがエサウの巧なる獵人おして野の人となりヤコブの質樸なる人おして天幕お居ものどあれりニエサウは塵を嗜むによりてエサウを愛したりしがリベカはヤコブを愛したりニ茲にヤコブを養たり時にエサウ野より來りて憊れ居りニエサウヤコブにむりひ我憊れたれば請ふ其紅羹其處にある紅羹を我にのませよといふ是をもて彼の名はエドム(紅)と稱らるニヤコブ言けるは今日汝の家督の權を我に關れニエサウいふ我は死んとして居る此家督の權我に何の益をあるさんやニヤコブまた言けるは今日我に誓へと彼するあち誓ひて其家督の權をヤコブに關ぬ是に於てヤコブハンと扁豆の羹とを之に與へけきを食ひ且飲みて起て去り斯彼家督の權を藐視じ

たり

第廿六章

アブラハムの世にありし最初の饑饉の外に又其國に饑饉ありり色バイサクゲラルに往てベリシテ人の王アピメレクの許にいたれりニ時にエホバ彼にあらはせて言たまひなるにエシプトに下るあるれ吾汝に示そとあるの地にをきニ汝此地にとまれ我汝と共にありて汝を祝まん我是等の國を盡く汝および汝の子孫に與へ其汝の父アブラハムに誓ひたる誓言を行ふべし 我汝の子孫を増て天の星のおどくあし汝の子孫に是等の國を與へん汝の子孫によりて天下の國民皆福祉を獲べし 是の法を守りしに因てなりニイサク乃ちゲラルに居志ガセ處の人其妻の事をとへて我妹なりと言ふリベカは觀に美麗ありけきを其處の人リベカの故をもて我を殺さんと謂て彼をわが妻と言を

ろれたるありハ イサク久く彼處にをりし後一日ベリシテ人の玉
 アピメレク 隔より望みてイサクが其妻リベカと嬉戯るを見たり
 九是に於てアピメレクイサクを召て言けるハ彼は必ず汝の妻な
 り汝あんろ吾妹といひしやイサク彼に言けるは恐くは我彼のた
 めに死るおいたらんと思たきをあり アピメレクいひけるハ汝
 むんろ此事を我等にあすや民の一人輕々しく汝の妻と寝るあら
 ん然る時は汝罪を我等に蒙らえめんと アピメレク乃ち民に皆
 命じて此人と其妻にさいるものハ必ず死すべしと言りハ イサク
 彼地ハ種播て其年に百倍を獲たりエホバ彼を祝みたまふ 十三其人
 大になりゆきて進て盛にあり遂に甚だ大なる者とあれり 十四即ち
 羊と牛と僕従を多く有しるをベリシテ人彼を嫉みたり 十五其父ア
 プラハムの世に其父の僕従が掘たる諸の井はベリシテ人之をふ
 さたて土を之にみてたり 十六其技にアピメレクイサクに言けるハ汝

ハ大に我等よりも強大ければ我等をこあきて去色とセ イサク乃
 ち彼處をさりてゲラルの谷に天幕を張て其處お住り 十八其父ア
 プラハムの世に掘たる水井をイサク技に復び鑿り其ハアプラハム
 の死たる後ベリシテ人之を塞たれをあり斯してイサク其父ガ
 之に名けたる名をもて其名とあせり 十九イサクの僕谷に掘て其處
 に泉の湧出る井を得たり 二十ゲラルの牧者此水は我等の所屬なり
 といひてイサクの僕と争ひなきをイサク其井の名をエセク(競争)
 と名けたり 彼等ガ已とせりわひたるによりてなり 二十是お於て又
 他の井を鑿しガ彼等是をも争ひけれを其名をシテナ(敵)とあづけ
 たり 三 イサク乃ち其處より遷りて他の井を鑿たるガ彼等之を
 らろはざりなきバ其名をレホボテ(廣場)と名々て言けるハ今エホ
 バ我等の處所を廣くえたまへり 我等斯地に繁衍ん 三 斯て彼其處
 よりベエルシバおのぼりえが 四 其夜エホバ彼おあらりて言た

まひけるの我の汝の父アブラハムの神なり懼るまなむ我汝と
 偕ありて汝を祝み我僕アブラハムのため汝れ子孫を増んと
 是に於て彼處に壇を築きてエホバは名を顔び天幕を彼處に張
 り彼處にてイサクは僕井を鑿り茲にアビメレク其友アホザラ
 及び其軍勢は長ピコルと共にケラルよりイサクは許お來りけ
 ばモイサクは彼等お言ふ汝等は我を惡み我をして汝等をはあきて
 去あめたるあるに何ぞ我許お來るや云彼等いひける我等確然
 おエホバは汝と偕おあるを見たきば我等の間即ち我等と汝の間
 お誓詞を立て汝と契約を結ばんと謂へり云汝我等お惡事をあす
 なかき其の我等の汝を害せず只善事のみを汝あし且汝を安然
 お去あめたきばなり汝のエホバの祝みたまふ者あり云イサク乃
 ち彼等れたためお酒宴を設けたきば彼等食ひ且飲り三斯て朝夙お
 起て互お相懇へり而してイサクは彼等を去あめたきば彼等イサク

をはあきて安然おかへりぬ三日イサクの僕來りて其はりたる
 井おつきて之に告て我等水を得たりといへり即ち之をシバとあ
 づく此故に其邑の名は今日までベエルシバ(誓詞の井)といふ三日エ
 サウ四十歳の時へテ人ベエリの女ユデテとへテ人エロンの女バ
 スマテを妻お娶り云彼等のイサクはベカ心の愁煩とあきり
 長子エサウを召て之お吾子よといひけれを答へて我此にありと
 いふニイサクいひけるの視よ我の今老て何時死るやを知らず然
 を請ふ汝は器汝は弓矢を執て野お出でわがためお麁を獵て四わ
 が好む美味を作り我おもちきたりて食のしめよ我死るまへに心
 に汝を祝せん云イサクは其子エサウお語る時にリベカ聞たり
 エサウの麁を獵て携きたらんとて野おゆけり云是に於てリベカ
 其子ヤコブお語りていひけるの我聞るに汝は父汝の兄エサ

ウお語りて言けらく七吾ためお塵をとりきたり美味を製りて我
 おくのせよ死るまへに我エホバの前にて汝を祝せんど八然バ吾
 子よ吾言にまたがひわが汝お命ずることくせよ九汝群畜の所に
 ゆきて彼處より山羊の二箇の善き羔を我おとりきたれ我之をも
 て汝れ父のために其好む美味を製らん十汝之を父おもちもきて
 食しめ其死る前汝を祝せしめよ十一ヤコブ其母リベカに言ける
 の元エサウの毛深き入おして我の滑澤ある人あり十三恐くの父我
 お捫るもどあらん然らむ我の欺く者と父に見えんされを祝をえ
 すして反て呪詛をまねらん十三其母彼にいひける我子よ汝の詛
 はるよ所の我お歸せん只わが言おまたがひ往て取來れど十四是お
 おいて彼往て取り母の所おもちきたりけきを母そあち父れ好
 ひどろの美味を製れり十五而してリベカ家の中お己れ所おある
 長子エサウの美服をとりて之を季子ヤコブお衣せ十六又山羊の羔

の皮をもて其手と其頸の滑澤ある處どを掩ひ七其製りたる美味
 とパンを子ヤコブの手おわたせり十八彼乃ち父の前おいたりて我
 父よといひけきバ我此おありわが子よ汝の誰あると曰ふ十九ヤコ
 ブ父にいひける我の汝の長子エサウあり我汝が我お命じたる
 ことくあせり請ふ起て坐しわが塵の肉をくらひて汝の心お我を
 祝せよ二十イサク其子お言ける我吾子よ汝いあおして斯速お獲た
 るや彼言ふ汝の神エホバ之を我おあのせたまひしが故あり三十一
 サクヤコブおいひけるわが子よ請ふ近くよき我汝お捫て汝が
 まもどお吾子エサウあるや否やをしらん三十二ヤコブ父イサクお近
 よりけきバイサク之おさなりていひけるの聲ハヤコブの聲あき
 せも手のエサウの手ありと三十三彼の手其兄エサウの手のおどく毛
 深くりしに因て之を辨別へすして遂お之を祝したり三十四即ちイサ
 クいひける汝のまもどお吾子エサウあるや彼然りといひけれ

汝を祝せんとは是れ汝に於てヤコブ彼の許あもちきたりければ食へり
 又酒をもちきたりければ飲りて父イサク彼にいひける
 吾子よ近くよりて我に接吻せよとて彼をち近よりて之を接吻
 吻しければ其衣の馨香をうぎて之を祝していひけるは嗚呼吾子
 の香の埃ホバに祝たまへる野の馨香のごとしとてねがひく神天
 の露と地の腴および饒多の穀と酒を汝おたまへとて諸の民汝おつ
 めへ諸の邦汝お躬を鞠ん汝兄弟等の主とあり汝の母の子等汝お
 身ををよめん汝を詛ふ者はのろわれ汝を祝する者の祝せらるべ
 しとてイサクヤコブを祝するふとを終てヤコブ父イサクの前より
 出さりし時にあたりて兄エサウ獵より歸り來りて三巳も亦美味を
 つくりて之を其父の許あもちき父いひけるは父よ起て其子
 の麩を食ひて心に我を祝せよとて父イサク彼にいひけるは汝に誰

あるや彼いふ我の汝の子汝の長子エサウありとてイサク甚大いお
 戰競ていひけるは然バ彼麩を獵て之を我おもちきたりし者の誰
 ぞや我汝がきたるまへに諸の物を食ひて彼を祝したれば彼よ
 どに祝福をうべしとてエサウ父の言を聞て大に哭き痛く泣て父に
 いひけるは父よ我を祝せよ我をも祝せよとて父イサク言けるは汝の
 弟偽りて來り汝の祝を奪ひたりとてエサウいひけるは彼をヤコブ
 (推除者)とあづくるは宜あらずや彼が我をおしのくる事此おて二
 次あり昔おのわが家督の權を奪ひ今わが祝を奪ひたり又言ふ
 汝の祝をわおために殘しおのざりしやとてイサク對てエサウにい
 ひけるは我彼を汝の主とあし其兄弟を悉く僕として彼にあたへ
 たり又穀と酒とを彼に授けたり然バ吾子よ我何を汝にあすをえ
 んとてエサウ父に言けるは父よ父の祝唯一あらんや父よ我を祝せ
 よ我をも祝せよとてエサウ聲をあけて哭ぬとて父イサク答て彼にい

ひけるハ汝れ住所の地の膏腹にをるれ上よりの天の露にをる
 べし 早汝の剣をもて世をわたり汝の弟に事ん然と汝振ふ時其
 軛を碎て汝の頸よりおとすを得ん 四 エサウ父のヤコブを祝した
 る其祝のためにヤコブを悪めり即ちエサウ心に謂けるハ父の喪
 の日近たれば其時我弟ヤコブを殺さんと 三 長子エサウの此言リ
 ベカに聞えければ季子ヤコブを呼よせて之にいひけるハ汝の兄
 エサウ汝を殺さんとおもひて自ら慰む 三 されを吾子よわぶ言に
 ちたぶひ起てハランおもさわぶ兄ラバンの許にのぶれ 四 汝の兄
 の怒の釋るまで暫く彼とよも居色 五 汝の兄の鬱憤釋て汝を
 ある汝が彼あしたる事を忘るよふいたらば我人をやりて汝を
 彼處よりむかへん我何ろ一日のうちに汝等二人を喪ふべけんや
 異リベカイサクに言けるハ我ハテの女等のためお世を厭ふお
 いたるヤコブ若此地の彼女等の如きハテの女の中より妻を娶ら

第二十八章

バ我身生るも何の利益あらんや
 汝カナンの女の中より妻を娶らば
 往き汝の母の父ベトエルの家にいたり彼處にて汝の母の兄ラバ
 ンの女のの中より妻を娶る 三 ねがむくハ至能の神汝を祝み汝を
 て子女を多く得せ 四 且汝の子孫を増て汝をちて多衆の民とあ
 ら 五 又アブラハムに賜し祝を汝および汝ととも汝の子孫
 に賜ひ汝をして神のアブラハムにあたへたまひし此汝が寄寓る
 地を持たえめたまハんとを 五 斯てイサクヤコブを遣しけ色バ
 バダンアラムにゆきてラバンの所にいた色りラバンはスリア人
 ベトエルの子にしてヤコブとエサウの母あるリベカの兄なり
 エサウはイサクがヤコブを祝して之をバダンアラムにつりはし
 彼處より妻を娶えめんとちたるを見又之を祝し汝はカナンの女

の中より妻をめぐりて之に命じたることを見たり又
 ヤコブが其父と母に順ひてバダンアラムに往しを見たりハエサ
 ウまたカナンの女の其父イサクの心にくるはぬを見たり是ハ
 おいてエサウイシマエルの所おゆきて其有る妻の外又アブラ
 ハムの子イシマエルの女子バヨテの妹マハラテを妻おめど色り
 + 茲おヤコブベエルより出たちてハランの方おおもむきけ
 るが十二一處にいたる時日暮たきバ即ち其處お宿り其處の石を
 どりて枕とあして其處お寝臥たり十三時お彼夢て梯の地おたちぬ
 て其巔の天お達するを見又神の使者の其おのぼりくだりするを
 見たり十三エホバ其上お立て言たまはく我は汝の祖父アブラハム
 の神イサクの神エホバあり汝お偃臥とてろの地は我之を汝と汝
 の子孫お與へん十四汝の子孫は地の塵沙のごとくありて西東北南
 お蔓延るべし又天下の諸の族汝と汝の子孫およりて福祉をえん十五

また我汝とともおありて凡て汝お往とてろにて汝をまもり汝を
 此地お率返るべし我はわが汝にかたりし事を行ふまで汝をはあ
 せざるあり十六ヤコブ目をさまして言けるは誠おエホバ此處お
 ますお我をあらざりきと十七乃ち惶懼ていひけるは畏るべき哉此處
 是即ち神の殿の外あらず是天の門あり十八かくてヤコブ朝夙お與
 き其枕とあしたる石を取り之を立て柱とあし膏を其上お沃た十九
 其處の名をベテル(神殿)と名けたり其邑の名は初はルスといへり
 二十ヤコブ乃ち誓をたてふいひけるは若し神我とともおいまし此
 がゆく途にて我をまもり食ふパンと衣る衣を我にあたへ三我を
 して見が父の家お安然に歸ることを得せまめたまはくエホバを
 見が神とあさん三又見が柱にたてたる此石を神の家とあさん又
 汝が足色にたまふ者は皆必ず其十分の一を汝にさづけん又
 期てヤコブ其途にそとて東の民は地にいたりて

二見るに野の井をありて羊の群三其傍に臥るたり此井より群を飲む
 へバあり大ある石井の口あり三羊の群皆其處お集る時お井の
 口より石をまろむして羊を飲ひ復故のごとく井の口あり石をのせ
 ぬくあり四ヤコブ人々お言けるの兄弟よ奚よりきたるや彼等
 五我等のハランより來るヤコブ彼等おいひけるの汝等ナホ
 六の子ラバンをまろるや彼等識といふ六ヤコブ又ある色らあいひけ
 七の彼の安きや彼等いふ安し視よ彼れ女ラケル羊と借あ來ると
 八ヤコブ言ふ視よ日尙高し家畜を聚むべき時おあらず羊を飲ひ
 九て往て牧せよハ彼等いふ我等去る能ず群の皆聚るに及て井の
 十の口より石をまろむして羊を飲ふべきなり九ヤコブ尙彼等と語
 十一る時おラケル父れ羊とよもに來る其の之を牧居たををあり十ヤ
 十二コブ其母の兄ラバンは女ラケルおよび其母れ兄ラバンは羊を見
 十三しるバヤコブ進こよりて井れ口より石をまろむし母れ兄ラバン

一は羊を飲ひたり十二而してヤコブラケルお接吻し聲をあげて啼哭
 二ぬ即ちヤコブラケルお已らざるの父の兄弟おしてリベカの子な
 三るあどを告げきバ彼はしりゆきて父を告たり十三ラバン其妹の子を
 四ヤコブの事を聞えるバ趨ゆきて之を迎へ之を抱きて接吻し之を
 五家お導きいたきりヤコブするあち此等の事を悉くラバンお述た
 六り十日ラバン彼おいひけるの汝は誠おわが骨肉なりとヤコブ一月
 七の間彼とよもお居る十五茲おラバンヤコブおいひけるの汝のわが
 八弟兄なきバとて空く我お役事べけんや何の報酬を望むや我お告つ
 九よ十六ラバン二人の女子を有り妹の名はレアといひ妹の名のラケ
 十ルといふ十七レアは目弱ありしガラケルの美くして妹レハヤコブ
 十一ラケルを愛したきを言ふ我汝の季女ラケルのため七年汝に事
 十二ん十九ラバンいひけるの彼を他の人にあたふるよも汝にあたふ
 十三るの善し我と借あ居る二十ヤコブ七年の間ラケルのためお勤たり

しが彼を愛するが爲ふ之を數日の如く見做り三茲おヤコブラバ
 シに言けるわが期満たをわが妻をあたへて我をしてり色の
 處にいるふとを得せしめよ三是に於てラバン處の人を盡く集め
 て酒宴を設たり志が三晩お及びて其女レアを携へて之をヤコ
 プおつ色來りヤコプ即ち彼の處おいりぬ三朝にいたりて見
 ヲルバを娘レアお與へて侍婢となさしめたり三朝にいたりて見
 るおレアありしおバヤコブラバンに言たるわ汝なんぞ此事を我
 にあしたるや我ラケルのためお汝お役事おあらずや汝あんぞ
 我を欺くや三ラバンいひけるは姉より先に妹を嫁おむる事は我
 國おて爲さるところあり三其七日を過せ我等是をも汝お與へん
 然バ汝是がためお尙七年我お事へて勤むべし三ヤコプ即ち斯あ
 して其七日をすせしおバ
 妻となさしむ三又たラバン其侍婢ピルハを女ラケルにあたへて

侍婢とあさむ三ヤコプまたラケルの所にいりぬ彼レアよりも
 ラケルを愛し尙七年ラバンに事たり三エホバレアの嫌るよを見
 しおバ其胎をひらきたまへり然とラケルハ姪あきものなりき三
 レア孕みて子を生み其名をルベンと名けていひけるはエホバ誠
 にわが艱苦を顧みたまへりさるバ今夫我を愛せんと三彼ふたよ
 び孕みて子を産みエホバわが嫌るよを聞たまひしによりて我に
 是をもたまへりと言て其名をシメオンと名けたり言彼また孕ま
 て子を生み我三人の子を生たれを夫今よりの我に膠漆んといへ
 り是によりて其名をレビと名けたり三彼復姪きて子を生み我今
 エホバを讚美んといへり是によりて其名をユダと名けたり是に
 いたりて産ことやみぬ
 一ラケル已ガヤコプに子を生きるを見て其妹を妒みヤ
 コプに言けるわ我に子を與へよ然らずバ我死んどニヤコブラケ

ルにむのひて怒を發して言ふ汝は胎お子をやどらしめざる者は
 神あり我神に代るをえんやミラケルいふ吾婢ピルハを視よ彼の
 處に入れ彼子を生てわが膝に置ん然を我もまた彼によりて子を
 うるにいたらんと其仕女ピルハを彼にあたへて妻とあさしめ
 たりヤコブ即ち彼の處にいる五ピルハ遂にはらみてヤコブに子
 を生けれを六ラケルいひけるの神我を監み亦わが聲を聽いれて
 吾に子をたまへりと是あよりて其名をダンと名けたりセラケル
 の仕女ピルハ再び妊みて次の子をヤコブに生けれバハラケル我
 神の争をもて妹と争ひて勝ぬといひて其名をナフタリと名けた
 り九茲にレア産とれ止たるを見しおバ其仕女シルバをとりて
 之をヤコブにあたへて妻とあさしむ十レアの仕女シルバヤコブ
 に子を産けれバ十三レア福來れりといひて其名をガドと名けたり
 十三レアの仕女シルバ次子をヤコブに生けれバ十三レアいふ我の幸

あり女等我を幸なる者とあさんと其名をアセルとあづけたり十四
 茲に麥苜の日にルベン出きて野あて戀茄を獲ふれを母レアの
 許あもちきたりけれバラケルレアにいひけるの請ふ我お汝の子
 の戀茄をあたへよ十五レア彼にいひけるの汝のわが夫を奪しの微
 き事ならんや然るに汝またわが子の戀茄をも奪んとするやラケ
 ルいふ然バ汝の子は戀茄れために夫是夜汝と寝べし十六晩におよ
 びてヤコブ野より來りけれバレア之をいでむのへて言けるの我
 誠にわが子は戀茄をもて汝を雇ひたれば汝我の所にいらざるべ
 ろらずヤコブ即ち其夜彼といねたり十七神レアに聽たまひけれ
 ば彼妊みて第五れ子をヤコブに生り十八レアいひけるの我わが仕
 女を夫に與へた色バ神我に其値をたまへりと其名をイツサカ
 と名けたり十九レア復妊みて第六れ子をヤコブお生り二十レアい
 けるの神我に嘉賚を賜ふ我六人の男子を生た色バ夫今より我と

借おすまんと其名そのなをゼブルンとあづけたりニ其その後のち彼かれ女子おんなを生うま
 其その名なをデナと名なづけたりニ其その名なをヨセフと名なづけて言いふエホバ又また他ほかの子こを
 開ひらきたまひけきをニ彼かれ妊はらみて男子おとこを生うみて曰いふ神かみわが恥は辱ちを洒そた
 たまへりと言い乃すなはち其名そのなをヨセフと名なづけて言いふエホバ又また他ほかの子こを
 我われお加かへたまひんニ其その名なをヨセフと名なづけて言いふエホバ又また他ほかの子こを
 ラバンに言いける我われを歸かへして故郷ふるさとに我われ國くにお往ゆかめよニわが汝なんぢお
 事つかへて得えたる所ところの妻つま子こを我われお與あたへて我われを去さしめよわが汝なんぢおなした
 る役つと事めの汝なんぢ之これを知るしるありニラバン彼かれにいひける我われ若もしあんちの意こころ
 おりあるにねおはくの留とどまを我われエホバが汝なんぢためお我われを祝めみしを
 トひ得えたり又また言いふ汝なんぢの望のぞむ値あはれをのべよ我われ之これを與あたふべしニヤコ
 プ彼かれにいひける汝なんぢの如何いかわが汝なんぢお事つかへしり如何いかに汝なんぢお家畜かちくを
 牧かしりを知るしるニわが來きたる前まへお汝なんぢお有ありたる者ものの鮮あまりし増まし
 て遂ついに辭ことをさする至いたる吾われ來きたりてよりエホバ汝なんぢを祝めみたまへり然しかれ

とも我われの何い時とき吾われ家いえを成なにいたらんやニ彼かれ言いふ我われ何なにを汝なんぢお與あたへん
 クヤコブにいひける汝なんぢ何なに物ものをも我われに與あたふるに及およばす汝なんぢ若もし此事このことを
 我われおあるさを我われ復また汝なんぢお群むれを牧か守まもるニ即すなはち我われ今いま日ひ徧あまく汝なんぢの群むれを
 めぐりて其中そのうちより凡すべて斑まだらある者ものを移うつし綿羊ひつじの中うちの凡すべて
 黒くろき者ものを移うつし山羊やぎの中うちの黒くろき者ものと斑まだらある者ものを移うつさん是こゝわが値あはれ
 あるべしニ後のちお汝なんぢ來きたりてわが備あはれ値あはれをえらぶる時ときわが義ぎ我われおか
 りて應こたへをさすべし若もしわが所ところお山羊やぎの斑まだらある者ものを移うつさん若もしわが所ところお綿羊ひつじ
 あり綿羊ひつじの黒くろき者ものを移うつさん若もしわが所ところお山羊やぎの斑まだらある者ものを移うつさん若もしわが所ところお綿羊ひつじ
 ふ汝なんぢの言ことの如ごとくあるを願ねがふニ是こゝお於おいて彼かれ其その日ひ牡山羊おとこやぎは斑まだら
 入いる者もの斑まだらある者ものを移うつし凡すべて牝山羊メヤギは斑まだらある者ものを移うつし凡すべて黒くろき者ものを移うつして其その
 都みやこて身みお白しろ色いろある者ものを移うつし又また綿羊ひつじは中うちに凡すべて黒くろき者ものを移うつして其その
 子こ等らの手てお付つせり而しかして彼かれ已いまとヤコブの間あひだに三日みつ日ひ程ほどの隔へだちをた
 てたりヤコブのラバンの餘のこの群むれを牧かふニ其その名なをヨセフと名なづけて言いふエホバ又また他ほかの子こを

桑の青枝を執り皮を剝て白紋理を成り枝の白き所をあらひし其皮はぎたる枝を群の來りて飲むとろの水槽と水鉢を立て其向ひしめ群をして水のお來る時に孕ましむ群するのち枝の前お孕みて斑入の者斑駁ある者斑點ある者を産しおバヤコプ其羔羊を區分ちラバンの群の面を其群の斑入ある者と黒き者お對ひしめたりし己の群を一所お置てラバンの群の中にいさざりき又家畜の壯健き者孕みたる時ハヤコブ水槽の中に其家畜の目れ前に彼枝を置き枝の傍おいて孕ましむ然て家畜の羸弱ある時ハ之を置ず是に因て羸弱者ハラバンのどあり壯健者のハヤコブのどあり是にお於て其人大に富饒ありて多の家畜と婢僕および駱駝驢馬を有おいたれり

第二十一節 茲にヤコブラバンの子等ダヤコブとダ父の所有を盡く奪ひ吾父の所有によりて此凡の榮光を獲たりといふを聞き

亦ヤコブラバンの面を見るに己に對すること曠昔の如くあらす三時にエホバヤコブに言たまひけるは汝の父の國にかへり汝の親族に至れ我汝と偕にをらんと是に於てヤコブ人をやりてラケルとレアを野に招きて群の所に至らえめ之にいひけるは我汝等の父の面を見るに其我に對すること曠昔の如くあらどわが父の神は我と偕にいますあり汝等がえるごとく我力を竭して汝らの父に事へたるに七汝等の父我を欺きて十次も且汝値を易たり然とも神彼の我を害するを容したまはず彼斑駁ある者は汝の備値あるべしといへば群の生とろ皆斑駁あり斑入の者は汝の値あるべしといへば群の生とろ皆斑入あり汝の父の家畜を奪て我に與へたまへり十群の孕む時に當りて我夢に目をあげて見しに群の上に乘る牡羊は皆斑入の者斑駁ある者白點ある者ありき十二時に神の使者夢の中に我に言ふヤコブよ

と我此にありと對へければ乃ち言ふ汝の目をわけて見よ群の上に乗る牡羊は皆斑入の者斑駁ある者白黥ある者あり我ラバンガ凡て汝に爲すところを鑒みるは我はベテルの神あり汝彼處にて柱に膏を沃死彼處にて我お誓を立たり今起て斯地を出て汝の親族の國に歸れと十四ラケルとレア對て彼にいひけるは我等の父の家に向はれらの分あらんや我等の産業あらんや十五我等は父に他人のてとくせらるゝにあらすや其は父我等を賣り亦我等の金を蝕減したれをあり十六神ガ父より取たまひし財寶は我等と是れらの子女の所屬あり然を都て神の汝に言たまひし事を爲せ十七是に於てヤコブ起て子等と妻等を駱駝に乗せ其獲たる凡の家畜と凡の所有物即ちバダン、アラムにてみづゝら獲たるところけり十八時にラバンの羊の毛を剪んとて往てありラケル其父のも

てるテラビムを竊めり十九ヤコブの其去とをスリア人ラバンに告すして潛お忍びいでたり二十即ち彼ろの凡の所有を擧へて逃去り起て河を渡りギレアアの山おむりふ三ヤコブの逃去しむと三日におよびてラバンに聞えければ三彼兄弟を率てろの後を追ひしガ七日路をへてギレアアの山にて之に追及ぬ言神夜の夢にスリア人ラバンに臨みて汝慎みて善も悪もヤコブに道あかれと之に告たまへり三三ラバン遂にヤコブに追及しガヤコブは山に天幕を張るたをバラバンもろの兄弟と共にギレアアの山に天幕をはり三而してラバンヤコブに言けるは汝我お知えめすして忍びいで吾女等を劍をもて執たる者のごとくおひさゆけり何する事なすや三何故お汝潛お逃さり我をえあきて忍いで我おつけざりしや我歡喜と歌謠と鼓と琴をもて汝を送りしならんを三何ぞ我をしてわが孫と女お接吻するを得ざらえめしや汝愚妄ある

事をなせり汝等お害をくはふるの能わが手おあり然と汝等れ
 父れ神昨夜我お告て汝つしみて善も悪もヤコブお語べあらず
 といへり汝今父の家を甚く戀て歸んと願ふの善きとも何ぞわ
 が神を竊きたるやミヤコブ答へてラバンおいひけるの恐くの汝
 強て女を我より奪ならんと思ひて懼れたればあり汝の神を持
 る者を見バ之を生しおくるれ我等の兄弟等の前にて汝の何物
 我の許ああるをみわけて之を汝に取きと其のヤコブラケルが
 之を竊しを聞ききをあり是はお於てラバンヤコブの天幕入り
 レアの天幕に入りまた二人の婢の天幕にいりしダ視いださされ
 をレアの天幕を出てラケルの天幕にいる言ラケル己にテラビム
 を執て之を駱駝の鞍の下おいきて其上お坐しけきをラバン遍く
 天幕の中をさぐりたきとも見いださりき是時おラケル父にい
 ひけるの婦女の淫の習例の事わが身おあきを父の前に起あた

す願くの主を怒りたよふありきと是をもて彼さがしたきと
 も遂おテラビムを見いださりき是はお於てヤコブ怒てラバン
 を誹む即ちヤコブ應てラバンに言けるの我何の徳あり何の罪あ
 りてか汝火急く我をおふや毛汝わお物を盡く索たるお汝の家
 何物を見いだしたるや此おわお兄弟と汝の兄弟の前は其を置て
 我等二人の間をさばるあめよえ我この二十年汝ともおありし
 お汝の牝綿羊と牝山羊其胎を殖ねしてとるし又汝の群の牝綿羊
 の我食のさりき又食裂をたる者の我を汝の所お持きたら
 すして自ら之を補へり又晝竊るよも夜竊るよも汝わが手より之
 を要めたり我の是あり晝の暑に夜の寒に犯さきて目も寐るお
 違す三十二十年汝の家おあり汝の二人の女のために十四年汝の
 群のためお六年汝お事たり然お汝の十次もわが値を易たり若
 わが父の神アブラハムの神イサクの畏む者我ともいいますに

わらさきを汝今必ず我を空手おて去まめしあらん禍わが苦難ど
 わが手の勞苦をへりみて昨夜汝を責たまへるあり
 てヤコブに言けるの女等のわが女子等のわが子群わが群汝が
 見る者の皆わが所屬あり我今日此わが女等どの生たる子等に
 何をあすをえんや自然バ來き我と汝二人契約をむすび之を我と
 汝の間の証憑とあすべし是は於てヤコブ石を執りこを建て
 柱とあせりヤコブ又その兄弟等お石をまつめよといひけきを
 則ち石をとりて埴を成れり斯て彼等彼處あて埴れ上お食す
 ン之をエガルサハドタ(証憑は埴)と名けヤコブ之をギレアド(証
 憑は埴)と名けたり又ラバン此埴今日われどあんぢは間は証憑た
 りといひしによりて其名のギレアドと稱らる又ミツバ(觀望樓)
 と稱らる其の彼我等が互にわあるるに及べる時ねむりくエホ
 我と汝の間を監みたまへといひたきべあり又彼又いふ汝もし

わが女をあやまし或はわが女れ風おに妻をめどらをも人れ我らと
 借ある者あさも神我と汝のあひだにいまして証をあしたまふ
 又ヤコブにいふ我われどあんぢの間にてたる此埴を視
 よ柱をみよ此埴証とあらん柱証とあらん我この埴を越て汝を
 害せし汝この埴の柱を越て我を害せさきまアブラハムの神ナ
 ホルの神彼等の父の神わさらの間を輪きたまへとヤコブ乃ち
 の父イサアの畏む者をさして誓へり斯てヤコブ山おて犠牲を
 ささげろの兄弟を招きてパンを食まひ彼等パンを食て山に宿色
 りヤコブ朝蚤お起き其孫と女に接吻して之を祝せりあうして
 ラバンゆきて其所にかへりぬ
 茲おヤコブろれ途お進みしダ神の使者み色ああふ
 ヤコブみ色を見て是の神の陣營なりといひひてろの處に名をマハ
 ナイム(二營)となづけたりかくてヤコブ巴の前お使者をつらえ

してセイルの地エドム野を其兄エサウの所あいたらしむ
 即ち之命じて言ふ汝等かくわが主エサウにいふべし汝の僕
 ヤコブ斯いふ我ラバンの所あ寄寓て今までといまきり我牛驢
 馬羊僕婢あり人をつゐてわが主あ告ぐ汝の前あ恩をえんふ
 どを願ふなりと使者ヤコブあへりて言ける我等汝の兄エ
 サウの許あ至きり彼四百人を志むるがへて汝をひるへんとて來る
 どセ是によりヤコブ大におるれ且くるし己とともあある人衆
 および羊と牛と駱駝を二隊にわちて八言けるエサウもし一
 の隊に來りて之をうたば遣れるところの一隊逃るべしヤコブ
 また言けるわが父アブラハムの神わが父イサクは神エホバよ
 汝嘗て我あつけて汝の國あかへり汝の親族に到き我なんぢを善
 せんといひたまへり我なんぢの僕にはとこしたまひし恩惠
 ど眞實を一も受るにたらざるなり我わが杖のをもつてふるヨル

ダンを濟りしる今二隊とも成にいたさる願くわが兄の手
 よりエサウの手より我をそくひいだしたまへ我彼をふる恐く
 の彼きたりて我をうち母と子とに及むん汝の嘗て我かならず
 汝を惠み汝の子孫を濱れ沙の多して敷ふべうらざるが如くなさ
 んといひたまへりど彼の夜の彼處に宿りるの手あいらし物の
 中より兄エサウへの禮物をえらべり昔即ち牝山羊二百牡山羊二
 十牝羊二百牡羊二十乳駱駝と其子三十牝牛四十牡牛十牝の驢
 馬二十驢馬の子十夫而して其群と群とをわかちて之を僕の手あ
 授し僕にいひける吾に先ちて進み群と群との間を隔おくべし
 又ろの前者に命じて言けるわが兄エサウ汝にあひ汝あ問て
 汝誰の人にして何處へゆくや是汝のまへある者の誰の所有な
 るやといと汝の僕ヤコブの所有にしてわが主エサウあたて
 まつる禮物あり視よ彼もわれらの後あをるといふべしと彼か

く第二の者第三の者および凡て群々おまたがひゆく者お命じて
いふ汝等エサウあふ時のかくのごとく之のいふべし且汝等
いへ視よなんちの僕ヤコブわれらの後にをるとヤコブおもへら
く我わが前におくる禮物をもて彼を和めて然るのち其面を覲ん
然バ彼われを接遇ることあらんと三是によりて禮物かき先
て行く彼の其夜陣營の中お宿りしが三其夜おさいいで二人の妻
と二人の仕女および十一人の子を導きてヤボクの渡をわたさ
三即ち彼等をみちびきて川を渉らしめ又ろの有る物を渡せり言
而してヤコブ一人遣りしが人ありて夜は明るまで之と角力を
其人己のヤコブお勝ざるを見てヤコブの髀の樞骨お觸しりをヤ
コブは髀の樞骨其人と角力する時挫離たり三其人夜明んとそれ
を我をさらしめよといひければヤコブいふ汝わきを祝せずばさ
らしめずと三是に於て其人かれいふ汝の名何あるや彼いふ

ヤコブあり三其人いひける汝の名の重てヤコブととあふべ
らすイスラエルととなふべし其汝神と人とお力をあらうひて
勝たきバなりと三ヤコブ問て請ふ汝の名を告よといひければ其
人何故おわが名をとふやといひて乃ち其處にて之を祝せり三是
を以てヤコブの處れ名をヘニエル(神の面)とあづけて曰ふ我面
と面をおはせて神とおひ見てわが生命あ得存るなりと三斯て彼
日のいづる時おヘニエルを過たりしが其髀れたためお歩行こりと
らざりき三是故おイスラエルの子孫の今日おいたるまで髀の樞
の巨筋を食とす是彼人ダヤコブは髀の巨筋に觸たるおよりてあ
り

第卅三章

爰にヤコブ目をあげて視にエサウ四百人をひきあ

て來しかバ則ち子等を分ちてレアとラケルと二人の仕女とに付
しニ仕女とろの子等を前におおきレアとろの子等を次におきラケ

ルとヨセフを後におきて三 自彼等れ前にお進み七度身を地におあ
 めて遠お兄に近づきけるに四 エサウ超てふ色を迎へ抱きてろの
 頸をのよへて之に接吻すまかして二人どもに啼泣り五 エサウ目
 をあげて婦人ど子等を見ていひけるは是等の汝どもある者は
 誰あるやヤコブいひけるは神の僕に授たまひし子ありと六 時お
 仕女等ろの子どもお近よりて拜し七 レアも亦ろの子どもお
 近よりて拜す其後にヨセフとラケルちよりて拜すハ エサウ又
 いひけるは我あへる此諸の群の何のためあるやヤコブいふ主の
 目の前に恩を獲んがためあり九 エサウいひけるは弟よわが有と
 ころの者の足り汝の所有の汝自ら之を有てよ十 ヤコブいひける
 の否我もし汝の目の前に恩をえたるあらば請ふわが手よりこの
 禮物を受よ我汝の面をみるに神の面をみるがおどくるあり汝また
 我をよろこぶと神我をめぐみたまひて我が有ところの者足りさ

色バ請ふわが汝あたてまつる禮物を受よと彼を強けとバ終に受
 たり十二 エサウいひけるは我等いでたちてゆらん我汝にさきだつ
 べし十三 ヤコブ彼にいひけるは主のありたまふとく子等の幼弱
 し又子持の羊と牛我おまたがふ若一日て色を驅すてさバ群みあ
 死ん十四 請ふわが主僕あさきだちて進みたまへ我のわが前にゆく
 ところの家畜と子女の足にまうせて徐お導きすすみさいルにて
 わが主に請らん十五 エサウいひけるは然バ我わがひきある人数人
 を汝の所にのこさんヤコブいひけるは何ぞ此を須んや我をして
 主の目のまへに恩を得せまめよ十六 是に於てエサウの此日ろの途
 にまたがひてセイルお還りぬと斯てヤコブスコテに進みて己の
 ために家を建て又家畜のためお廬を作せり是およりて其處の名
 をスコテ(廬)といふ十八 ヤコブバダンアラムより來りて恙なくカナ
 ンの地にあるシケムれ邑に至り邑の前あるの天幕を張り十九 遂に

ろの天幕をはりしところの野をシケムシケムの父ハモルの子等の手よ
 り金百枚にて購とりニ彼處シケムをさづきて之をエル、エロヘ、イス
 ラエルイストラエルの神ある神とあづけたり
 レアのヤコブヤコブに生たる女デナの國の婦女を見ん
 どていでさしびろの國の君主あるヒハモルの子シケム
 み色を見て之をひきいきと寝てみ色を辱しむヨ而してろの
 心ふらくヤコブヤコブの女デナあふきて彼此女を愛しよ女デナの心を
 いひあだじ羅斯羅斯の父ハモルに語り此少き女をわら妻
 に獲よといへりヤコブ彼らろの女子デナを汚したるふとを聞
 まるともろの子等家畜を牧て野あをりしあよりて其あへるまで
 ヤコブ黙しむたりシケムシケムの父ハモルヤコブの許にいできたり
 て之と語らふ七妹にヤコブの子等野より來りし之を聞しむを
 其人シケム々々へかけ甚く怒きり是ハシケムシケムのヤコブの女と寝てイ

ラエルラエルお愚ある事をあしたるお因り是のとき事にあすべから
 ざる者あきをありハモル彼等ハ語りていひたるわら子シケ
 ムシケム心にあんなの女を戀ふねわら彼をシケムシケムにあたへて妻と
 あさしめよ汝ら我らと婚姻をあし汝らの女を我らにあたへて妻と
 らの女を汝らお娶れ十くして汝等おきらとよみに居るべし地
 の汝等の前にあり此お住て貿易をあし此にて産業を獲よシケ
 ムシケム又シケムデナの父と兄弟等にいひけるハ我をして汝等の目のまへに
 恩を獲せしめよ汝らお我にいふとろの者ハ我あたへんといり
 に大ある聘物と禮物を要るも汝らおわきに言ふごとくあたへん
 唯あシケムの女を我あたへて妻とあさめよ十三ヤコブの子等シケム
 とろの父ハモルお詭りて答へたり即ちシケムシケムの妹デナを汚
 したるおよりて皆彼等あきお語りていひたるハ我等あシケムの事を爲
 あたハす制禮をうけざる者シケムにわれらの妹をあたふるあたハす是

われらの恥辱あるをありき然せ斯せを我等汝らに允さん若し
 汝らに中の男子みる割禮をうけてわれらの如くあらむ其等の
 女子を汝等おあたへ汝らの女子をわれらお娶り汝らと借にをり
 て一の民とあらん汝等もし我等お聽すして割禮をうけずを我
 等女子をとりて去べしと彼等の言ハモルとハモルの子シケ
 ムの心ありあへり此若き人ヤコブの女を愛するおよりて其事
 をあすを遅せざりき彼の父の家の中おて最貴れたる者あり
 ニハモルとろの子シケム乃ちろの邑の門にいたり邑の人々お語
 りていひけるハ是人ヤコブの我等と睦し彼等をして此地お住て此
 お貿易をあさしめよ地の廣くして彼らを容るおたるあり我ら彼
 らの女を妻おめどり我らの女をうれらお與へん三若唯われらの
 中の男子みる彼らお割禮をうくるごとく割禮を受あべ此人々わ
 れらお聽てわれらと借おをり一の民とあるべし三然をうれらの

家畜と財産と其諸の畜ハ我等のどあるにあらずや只りれらお聽
 んまうらむ彼らわれらとよもおをるべしと邑の門に出入する
 者みるハモルとろの子シケムお聽またおひ邑の門お出入する男
 子皆割禮を受たり三斯て三日おおよび彼等ろの痛をおぼゆる時
 ヤコブの子二人即ちデナの兄弟あるシメオンとレビ各々劍をど
 り往て思よらざる時お邑を襲ひ男子を悉く殺し三利刃をもてハ
 モルとろれ子シケムをころしシケムれ家よりデナを携へいでた
 りモ爾にしてヤコブの子等ゆきて其殺されし者を剝ぎ其邑をあす
 めたり是彼等ぶろの妹を汚したるによりてあり三またろの羊と
 牛と驢馬およびろの邑にある者と野にある者三並にろの諸の貨
 財を奪ひろの子女と妻等を悉く擄にし家の中の物を悉く掠めた
 り三ヤコブシメオンとレビに言けるハ汝等我を累りし我をして
 此國の人即ちカナナン人とベリシ人の中に遊嫌せしむ我の傲すく

あけをば彼ら集りて我をせめ我をふるさん然を我どわが家滅さ
 るべし三彼等いふ彼豈わさらの妹を娼妓のごとくにすべきあら
 んや

第三十五章 茲お神ヤコブに言たまひけるに起てベテルにのぼりて
 彼處お居り汝の昔に兄エサウの面をさけて逃る時に汝おあら
 れし神に彼處おて壇をきづけとニヤコブ乃ちろの家人および凡
 て己とよもある者にいふ汝等の中おある異神を棄て身を清めて
 衣服を易よ三我等起てベテルおのぼらん彼處にて我お苦患の
 日お我お應へわが往ところの途おて我とよもに在せし神に壇を
 きづくべし四是に於て彼等ろの手におる異神およびろは耳にあ
 る耳環を盡くヤコブお與志のをヤコブこれをシケムシケムの邊ある様
 樹の下お埋たり五斯て彼等いでたちまぶ神共四周の邑々を去て
 懼き去めたまひけきをヤコブの子の後を追ふ者ありき六ヤコ

ブ及び之とよもある諸の人遂おカナンカナンの地におるルズルズに至る是
 即ちベテルあり七彼おしこお壇をきづけり其處をエルベテルと
 名けたり是の兄の面をさけて逃る時に神此にておのれにおら
 きたまひしによりてなりハ時ハにリヘカヘカの乳媪ラポラポラ死たきを之
 をベテルに下おて橡樹の下に葬り是およりてうは樹の名を哀
 哭の橡といふ九ヤコブハダンアラムより歸りし時神復て色にあ
 らのきて之を祝したまふ十神りきに言たまひく汝は名いヤコブ
 といふ汝の名の重てヤコブとよふべうらすイスラエルを汝の名
 とすべしとろは名をイスラエルと稱たまふ十一神また彼おいひた
 まふ我の全能は神あり生よ殖よ國民および多の國民汝よりいで
 又王等あんなちの腰よりいでん十三わぶアブラハムおよびイサクに
 與し地の我を汝を汝おあたへん我あんなちの後の子孫おろの地を
 あたふべしと十三神のまこと言たまひし處より彼をとおきて昇りた

まふ昔是は我がてヤコブ神の己と言たまひし處に柱すあるち石の
 柱を立て其上に酒を濃ぎまたるの土に膏を沃げり而てヤコブ
 神の己どものいひたまひし處の名をベテルとあづけたり其斯て
 ヤコブ等ベテルよりいでたらしむエフラタに至るまで尙路の
 隔ある處にてラケル産にのすめりるの産おもりりき彼難産あ
 のすめる時産婆之いひける懼るありき汝また此男の子を得
 たり夫彼死おのすみてろけ魂さらんとする時ろけ子は名をベノ
 ニ(吾苦痛の子)と呼たり然と其父て色をベニヤミン(右手の子)とあ
 づけたりラケル死てエフラタの途に葬らる是即ちベツレヘム
 なりニヤコブの墓お柱を立てたり是はラケルの墓の柱といひて
 今日まで在りニイスラエル復いでたちてミグダルエダルの外お
 ろの天幕を張りニイスラエルの地お住る時ホルベン往て父の
 妾ビルハと寝たりイスラエルこれを開くニ夫ヤコブの子の十二

人あり即ちレアの子のヤコブの家子ルベンおよびシメオン、レビ
 ヌダ、イッサカル、ゼブルンあり、ラケルの子のヨセフとベニヤミン
 あり、ラケルの仕女ビルハの子のダンとナフタリあり、レアの
 仕女シルバの子のガドとアセルあり、是等のヤコブの子おしてバ
 ダンアラムおて彼お生れたる者あり、ニヤコブキリアテアルバの
 マムレおもきてるの父イサクお至れり是すあるちヘブロンあり
 彼處のアブラハムとイサクの寄寓しとろあり、ニイスラケル
 百八十歳ありき、ニイスラケル老て年滿ち氣息たえ死おて其民おく
 されりるの子エサウとヤコブ之をばらむる
 一エサウの傳のかくれとどしエサウのそあるちエドム
 なり、ニエサウカナンの女レウラより妻をめでれり即ちヘテ人エロ
 ンの女アダおよびヒマ人サベオンの女あるアナレ女アホリバマ
 是あり、ニ又イシマエルの女子バヨテの妹バスマテをめでれり、四

アダハエリバズをエサウに生うまはスマテハリウエルを生うまは
 ホリバマのエウシヤラムおよびコラを生うまは是等らハエサウの子こハ
 してカナンの地ちに於おいて彼かれハ生うまはたる者ものありハエサウの妻つまと子こハ
 女むすめおよびろの家いへの諸すてハ人ひと並ならひに家畜かちくと諸すての畜類せものおよびろのカナ
 の地ちにて獲はたる諸ものの物を撃うて弟あとうとヤコブをはなきて他の地ちにゆ
 けりセ其そのハ二人ふたりハ富有あちあち多くして俱ともにをるあたのざれをあり彼かれら
 ガ寄寓やどりしどころハ地ちハかれらハ家畜かちくのためおかざらを容ゆるるをえ
 ざりきハ是こゝに於おいてエサウセイル山やまハ住すりエサウハそなハちエド
 ムナリルセイル山やまハをりしエドム人ひとの先祖せんぞエサウハ傳でんハかくの
 ごとしハエサウの子こハ名なハ左ひだりのごとしエサウの妻つまアダハ子こハエ
 リバズエサウの妻つまハスマテの子こハリウエルハエリバズの子こハテ
 マンオマルセボガタムおよびケナズナリナテムナハエサウハ子こ
 エリバズの妻つまにしてアマレクをエリバズお生うまは是等らハエサウの

妻つまアダハ子こありナリウエルの子こハ左ひだりのごとしハテセラシヤン
 マおよびナセボガタムおよびケナズナリナテムナハエサウハ子こ
 女むすめあるアナの女むすめにしてエサウの妻つまあるアホリバマの子こハ左ひだりの
 とし彼かれハエウシヤラムおよびコラをエサウお生うまはナエサウの子こハ孫そん
 の侯こうたる者ものハ左ひだりのとしエサウの家いへ子こハエリバズハ子こハテマン
 侯こうオマル侯こうセボ侯こうケナズ侯こうコラ侯こうガタム侯こうアマレク侯こう是等らハ
 エリバズよりいでたる侯こうおしてエドムの地ちハあり是等らハアダの
 子こハナリナエサウの子こハリウエルの子こハ左ひだりのとしハテセラ侯こう
 シヤンマ侯こうセボ侯こう是等らハリウエルよりいでたる侯こうにしてエドム
 の地ちにあり是等らハエサウの妻つまハスマテハ子こありナエサウの妻つまハ
 ホリバマの子こハ左ひだりのとしエウシヤラム侯こうコラ侯こう是等らハアナ
 の女むすめにしてエサウハ妻つまなるアホリバマよりいでたる侯こうありナ是
 等のエサウハそなハちエドムの子こハ孫そんにしてろの侯こうたる者ものありナ素もと

より此地お住しホリ人セイルの子の左れごとしロタンシヨバル
 ギベオンアナニデシヨンニセルデシマン是等のセイルの子ホリ
 人の中は侯にしてエドムの地にありミロタンの子のホリヘマム
 ありロタンの妹のテムナニシヨバルの子の左れごとしアルワン
 マナハテエバルシホオナムニギザベオンの子の左れごとし即ちア
 マニアナ此アナろの父ザベオンの驢馬を牧をりし時曠野にて温
 泉を發見りニアナの子の左れごとしデシヨンおよびアホリバマ
 ソホリバマのアナの女ありニデシヨンの子の左れごとしヘムダ
 ンニシヨンイテランケランモニセルは子の左れごとしヒルハン
 ザワンヤカンニデシマンの子の左れごとしウツアラニホリ人
 の侯たる者の左れおとしロタン侯シヨバル侯ザベオン侯アナ侯
 ニデシヨン侯ニセル侯デシマン侯是等のホリ人の侯にしてろの
 所領にまたがひてセイルは地おありニイスラエルの子孫を治む

る王いまだあらざる前おエドムの地を治めたる王の左れごとし
 ミベオルの子セラエドムに王たりろの邑の名はアナバといふニ
 ベラ薨てボツラはセラの子ヨバブ之おありて王とある言ヨバ
 ブ薨てテマン人の地はホシヤムふれおありて王とある言ホシ
 ヤム薨てベダデの子ハダデふきお代て王とある彼モアブの野お
 てミデアン人を撃しふきあり其邑の名はアピラといふ言ハダデ
 薨てマスレカのサムラふきおありて王とある言サムラ薨て河
 の旁あるレホマテのサウル之おかりて王とある言サウル薨て
 アクポルの子バアルハナンふれお代りて王とある言アクポルの
 子バアルハナン薨てハダル之おかりて王となる其邑の名はバ
 ウといふろの妻の名はメヘタベルといひてマテレデの女ありマ
 テレデのメザハブの女なり言エサウよりいでたる侯の名はろの
 宗族と居處と名お循ひていへば左れごとしテムナ侯アルワ侯エ

テ、候、アホリバマ候、エラ候、ピノン候、リケナス候、テマン候、ミブ
 ザル候、マグデエル候、イラム候、是等のエドムの候にして、其領地
 の居處によりて、言る者あり、エドミ人の先祖のエサウ是あり
 ありニヤコブの傳、左のごとしヨセフ十七歳にして、その兄弟と
 借に羊を牧ふヨセフの童子にして、その父の妻ビルハの子および
 シルバの子と、佯たりし、彼の等の惡き事を父につぐヨセフの老
 年子あるが故に、イスラエルの諸の兄弟より、深くこれを愛し
 これがために、緋る衣を製れり、曰、その兄弟等、父おの諸の兄弟よ
 りも、深く彼を愛するを見て、彼を惡と、穢和に彼にも、のいふ、いとを
 得せきりき、エ茲にヨセフ夢をみて、その兄弟に告げ、れを彼等、愈て
 れを惡めり、六ヨセフ彼等に、いひける、請ふわが夢たる、此夢を聽
 け、我、等、田の中に、禾束をむすび、居たるに、わが禾束おき、且立り、而

して、汝等の禾束環り、たちて、わが禾束を拜せり、ハ、その兄弟等、之に
 いひける、汝、眞に、われらの君とあるや、眞に我等を、ささむるに、い
 たるや、と、その夢、と、その言、のため、お益、これ、を、惡めり、九、ヨセフ、又、一
 の夢を、みて、之を、その兄弟、お述、て、いひける、我、また、夢を、と、たるに、
 日、と、月、と、十一、の、星、われを、拜せり、と、十、則ち、これ、を、その父、と、兄弟、に、
 述、けれを、父、かれを、戒、めて、彼、にいふ、汝、が、夢、し、この、夢、の、何、や、我、と、
 汝、の、母、と、おん、ちの、兄弟、と、實、お、ゆ、きて、地、に、鞠、て、汝、を、拜、する、に、いた
 らん、や、と、斯、ま、を、その兄弟、くれを、嫉、めり、然、と、その父、の、い、の、言、
 を、お、ぼ、え、たり、と、茲、お、ろの、兄弟、等、シ、ケ、ム、に、ゆ、きて、父、の、羊、を、牧、お、た
 り、し、く、を、イスラエル、ヨセフ、にいひける、汝、の、兄弟、の、シ、ケ、ム、お
 て、羊、を、牧、を、る、に、お、ら、す、や、來、き、汝、を、彼、等、お、つ、お、は、さん、ヨセフ、父、に、
 いふ、我、お、よ、お、あり、十、父、くれ、お、いひける、請、ふ、往、て、汝、の、兄弟、と、耕、
 の、意、あ、き、や、否、を、見、て、り、へり、て、我、お、つ、げ、よ、と、彼、を、へ、プロ、ン、の、谷、よ

り遣ひしけれを遂ホシケムお至る或人のきに遇ふに彼野おさ
 まよひをりしりを其人あきお問て汝何をたづぬるやといひけ
 をま彼いふ我のわの兄弟等をたづぬ請ふのきらぶ羊をのひを
 所をわきお告よまろの人いひけるの彼等の此をさきり我のきら
 のドタンにゆくんといふを聞たりとは是お於てヨセフの兄弟の
 後をおひもきて之にドタンお遇ふ大ヨセフは彼等お返りざる前
 に彼ら之を遙お見てこそを殺さんと謀りた互にいひけるの視よ
 作夢者きたる去來彼をふるして阱に投いよ或悪き獸みきを食
 たりと言ん而して彼の夢は如何にあるりを観るべしニルベ
 てヨセフを彼等の手より拯ひいださんとして言けるの我等み
 を殺すべりらずニルベまた彼らにいひけるの血をあぶすあり
 き之を曠野の此阱に殺いきて手をふるに川くるありきと是の之
 を彼等の手よりすくひいだして父に歸んとてなりきニ
 茲にヨセ

フ兄弟の許お到りけれを彼等ヨセフの衣即ちるの着たる絆る衣
 を襪き言彼を執て阱お投いれたり阱の空おしてろの中お水あ
 ざりき斯して彼等坐てパンを食ひ目をあげて見しお一群のイ
 シマエル人駱駝お香物と乳香と没薬をおいせてエシプトおくだ
 りもくんとしてギレアドより來るニエダろの兄弟おいひけるの我
 等弟をころしてろの血を匿すも何の益りあらんモ去來彼をイシ
 マエル人お賣ん彼の我等の兄弟わをらの肉あれば足れらの手
 くれおつくべりらずと兄弟等あれを善とすえ時にミアンの商
 旅經過けれバヨセフを阱よりひきあげ銀二十枚おてヨセフをイ
 シマエル人に賣り彼等すあのちヨセフをエシプトおたづさへゆ
 きぬ茲おルベンりへりて阱にいたり見しおヨセフ阱おをらさ
 りしりバろの衣を裂き兄弟の許にりへりて言ふ童子のをらす
 嗚呼我何處おゆくべきや斯てうれらヨセフの衣をとり山羊の

羔をふるしてろの衣を血に濡しミろの練る衣を父おおくり遣し
 ていひける。我等あれを得たりあんなちの子の衣あるや否を知
 と。父あれを知りていふわが子の衣あり悪き感彼をくらへりヨ
 セフのうあらすさうれしあらんと言ヤコブの衣を裂き麻布を
 腰おまどひ久くろの子のためおあげけりミろの子をみあ起て
 色を慰むきともろの慰藉をうけずして我の哀きつ陰府にくだ
 りて我子ふいたらんといふ斯ろの父うれのために哭ぬ。備エデ
 アニ人のエソプトにてパロの侍衛の長ポラバルにヨセフを賣り
 といふ者の近邊に天幕をえりしガニエダあしこおてカナン人名
 のレニアといふ者の女子を見これを買ひてろの所にいる。彼は
 らみて男子を生みけれをニダろの名をエルどあづく。彼ぶた
 び孕みて男子を生みろの名をオナンどあづけ。またうさねて孕

みて男子を生みてろれ名をセラどあづく。此子をうみける時ユダ
 のクソブにありき。ユダろの長子エルのためお妻をむふる。れ
 名をタマルといふ。セユダの長子エルエホバの前に惡をあしたれ
 をエホバてきを死なめたまふ。茲おユダオナンにいひける。汝
 の兄の妻の所にいりて之をめでり。汝の兄をして子をえせ。えめよ
 たらオナンの子の己のものどあらざるを。知たきを兄の妻の所
 いりし時兄お子をえせ。えめざらんためお地お洩したり。斯あせ
 し事エホバの目に惡ありけきをエホバ彼をも死なめたまふ。ユ
 ダろの媳タマルにいひける。整婦どありて汝の父の家をりわ
 ぶ子セラの人どあるを待てと恐らく。セラも亦ろの兄弟のごと
 く死るあらんとおもひたきをありタマルすあいち往てろの父の
 家おをる。十日あさありて後セユの女ユダの妻死たり。ユダ慰をい
 れてろの友アドラム人ヒラどよもにテムナおのぼりろの羊毛を

剪る者の所にいたる十三 茲おタマルおつげて視よあんちの舅のろ
 の羊の毛を剪んとてテムナのぼるといふ者ありあをを 彼ろ
 の羞の服を脱すて被衣をもて身をおはひつよみテムナの途の側
 おあるエナイムの入口お坐す其のシラ人どありたきども己こき
 お妻おせらきざるを見たきをありま 彼ろの面を蔽ひるたりあろ
 をユダこれを見て娼妓あらんとおもひま 途の側おて彼お就き請
 ふ來りて我をして汝の所おいらあめよといふ其のろの媳あるを
 志らざれをあり彼いひけるの汝何を我おあたへてわお所おいら
 んどするやまユダイひけるの我群より山羊の羔をおくらん彼い
 ふ汝其をおくるまで質をおあたへんのまユダ何の質をあんちに與
 ふべきやといふお彼汝の印と綬と汝の手の杖をといひけれを則
 ちこれを與へて彼の所おいらぬ彼ユダお由て妊めり十九 彼起て去
 りろの被衣をぬぎすて羞婦の服をまどふまのくユダ婦の手よ

り質をとらんとしてろの友アラム人の手お托して山羊の羔をお
 くりけるお彼婦を見されを三ろの處の人お問て途の側あるエナ
 イムの娼妓の何處おをるやといふお此おの娼妓あしといひけれ
 を三ユダの許おあへりていふ我彼を見いださす亦ろの處の人此
 おの娼妓あしといへりと三ユダイひけるの彼おとらせおけ恐く
 のわれら笑柄とあらん我この山羊の羔をおくりたるお汝あきをを
 見ざるありと三三月をありありて後ユダお告る者ありていふ汝
 れ媳タマル姦淫をあせり亦ろの姦淫およりて妊めりとユダイひ
 けるの彼を曳いだして焚べし三 彼ひきいださきし時ろの鼻にい
 ひつかとしけるの是をもてる人によりて我の妊りと彼するあち
 請ふこの印と綬と杖の誰の所屬あるかを辨別よといふ三ユダこ
 色を見識ていひけるの彼の我よりも正しわ色彼をわお子シラに
 あたへざりしおよりてありと再びみ色を知らざりきまかくて産

の時ふいたりて見るおろの胎に學ありえろの産時手出しるを産
 婆是首にいづといひて絳き線をとりにてろの手にまをりまがえ手
 を引みむるああたりて兄弟いでたきを汝あんろ拆いづるやろの
 拆汝お歸すといへり故おろの名のヘレツ(拆)と稱るまろの兄弟手
 に絳線のある者後にいづろの名のセラとよべる

ヨセフ撃へられてエシプトおくだりしおエシプト
 人ポテバルバロの臣侍衛の長ある者彼を其處にたづさへくだれ
 るイシマエル人の手よりこれを買ふニエホバヨセフとよもに在
 す彼亨通者どありてろの主人あるエシプト人の家おをるまろの
 主人エホバの彼とよもあいますを見またエホバおりれの手の凡
 てあすところを亨通しめたまふを見たり是およりてヨセフ
 れの心あうあひて其近侍とある彼ヨセフにろの家を宰とらしめ
 ろの所有を尽くろの手お委たりエ彼ヨセフおろの家とろの有る

凡の物をつりさどらせし時よりしてエホバヨセフのためお其エ
 シプト人の家を祝みたまふ即ちエホバの祝福うれお家と田に有
 る凡の物おおよぶハ彼のろの有る物をことごとくヨセフの手にま
 うせろの食ふパンの外何をもろへりみざりき夫ヨセフの容貌
 麗しくして顔美しありきこれらの事の後ろの主人の妻ヨセフ
 に目をつけて我ど寢よといふハヨセフ拒みて主人は妻にいひけ
 ろの麗よわお主人家の中の物をあへりみずろは有るものみとご
 どくわお手に委ぬハこの家にい我より大あるものあし又主人何
 をも我に禁せず只汝を除くのミ汝のろは妻なればなり然バ我
 めで此おはいある悪をなして神お罪ををろすをねんや+彼日々
 にヨセフに言よりたれどもヨセフさあすして之といねす亦與に
 をらざりき+當時ヨセフろの職をあさんどて家にいりしお家の
 人一箇もろの内おをらざりき+十二時に彼婦ろの衣を執て我といね

よといひけれバヨセフ衣を彼の手お遣て外に遣いでたり十三彼ヨセフの衣を己の手に遣して遣いでしを見て十四昔それ家の人々を呼てみれにいふ視よへブル人を我等れ所に何れきたりて我等おたのむれまむ彼我といねんとて我の所にいりきたりし十五バ我大聲によばり十六彼わが聲をあげてよばるを聞えり十七バ衣を己の許にのみして外に遣いでたり十八と其衣を傍お置て主人の家お歸るを待けり十九とて彼是言のおどく主人に何けていふ汝お我らお携へきたりしへブルの候也れおたのむれんとて我許にいりきたりし二十と我聲をわけてよばりあり二十一バ衣を我許にのみして遣いでたり二十二と主人の妻が己お何けて汝の僕斯のおどく我おあせりといふ言を聞て怒を發せり二十三と是お於てヨセフの主人彼を執へて獄おいる其獄の王の囚徒を撃く所あり二十四ヨセフ彼處にて獄にをりし二十五とエホバヨセフとよもに在して之お仁慈を加

へ典獄の恩顧をみきおえさせたまひけり二十六と三典獄獄おある囚人をみとくヨセフの手に付せたり二十七其處おある所二十八の事二十九の皆ヨセフみざりき其のエホバヨセフとよもあいませばあり三十エホバのあすどあるをさうおえめたまふ三十一

第卅九章 一 ころの事の後エシヅト王の酒人と膳夫の主人エシヅト王お罪ををすニパロの二人の臣するち酒人の長と膳夫の長を怒りて三之を侍衛の長の家の中ある獄お幽囚ふヨセフが繋ぎをる所あり四侍衛の長ヨセフをして彼等の側お侍えめたをバヨセフ之につふ彼等幽囚きて日を経たり五と玆にエシヅト王の酒人と膳夫獄にをるもの二人ともお一夜の中に各夢を見たり夢えれのくろの解明おかあふ六とヨセフ朝におよびて彼等の所にいりて視るお彼等物憂に見ゆ七と是お於てヨセフの主人

の家お已ととも幽囚をるパロの臣に問て汝等あゆゑに今日
 の顔色あしきやといふわハ彼等これいふ我等夢を見たきと之
 を解く者あしとヨセフ彼等にいひけるを解く事の神によるわ
 らずや請ふ我お述よ九酒人の長ろの夢をヨセフお述て之にいふ
 我夢の中に見しに旦ダ前に一の葡萄樹あり十ろの樹に三の枝わ
 り芽いで花ひらきて葡萄あり球をあして熟たるぶおどくなりき
 十二時にパロの爵とが手にあり我葡萄を摘ててをパロの爵に推
 りろの爵をパロの手に奉たり十二ヨセフの色にいひけるろの解
 明は是のおとし三の枝の三日あり十三今日より三日の中にパロあ
 ぢの首を舉げ汝を故の所にへさん汝の義お酒人たりし時にあ
 せし如くパロの爵をろの手にあ奉ぐるにいたらん十四然バ請ふ汝善
 ららん時に我をおもひて我に恩恵をほどこし吾事をパロにのべ
 てこの家より旦きをを出せ十五我をまとにへブル人の地より掠き來

しものあきバナりまた此おても我の牢にいせらるるぶおどき事
 となさとりしあり十六茲に膳夫の長ろの解明の善りしを見てヨセ
 フにいふ我も夢を得て見たるに白きパン三筐とが首にありて七
 ろの上の筐に之膳夫がパロのためお作りたる各種の饌あり志が
 鳥とが首の筐の中より之をくらへり十八ヨセフてたへていひける
 いろの解明のろくのおとし三の筐は三日あり十九今日より三日の中
 にパロ汝の首を舉げてあして汝を木お懸ん志かして鳥汝の肉を
 くらひとるべしと二十第三日のパロの饗辰あきバパロの諸の臣
 僕に筵席をなし酒人の長と膳夫の長をして首をろの臣僕の中に
 舉しむ三即ちパロ酒人の長をろの職にへしけきバ彼爵をパロ
 の手に奉たり三と膳夫の長は木お懸らるヨセフの彼等お解
 明せるぶととし三然るに酒人の長ヨセフをおぼぬすして之を忘
 きたり

二年の後バロ夢るふどあり即ち河の濱ふたちて二視
 るふ七の美しき肥たる牝牛河よりのぼりて草を食ふ三の後ま
 た七の醜き瘦たる牛河よりのぼり河の畔にて彼牛は餓にたちし
 ぶ四の醜き瘦たる牛の美き肥たる七の牛を食ひつくせりバ
 口是ふいたりて寤む五彼また寐て再び夢る六一の莖ふ七の肥た
 る佳き穂いできたる六其のちふ又ふなびて東風ふ焼たる七は穂
 いできたりしぶ七の七はふびたる穂の七は肥實りたる穂
 を吞盡せりバロ寤て見ふ夢ありきハバロ朝におよびてろれ心安
 める人をつらえしてエジプトの法術士とろの博士を皆みどしく
 く召し之の夢を述たり然と之をバロ解うる者なありき九
 時酒人れ長バロ告ていふ我今日わが過をおもひいづ+嘗て
 バロの僕を怒て我と膳夫れ長を侍衛れ長の家お幽囚ひたまひ
 し時我と彼どもに一夜のうちお夢を各ろの解明にうなふ夢を

見たりし彼處に侍衛の長の僕ある若さへブル人我らと借あ
 り我等ときふのべたきバ彼わきらの夢を解ろの夢ふまたびて各
 人に解明をみせり十三ふあして其事あきぶ解たるごとくありて我
 はわが職あへり彼の木お懸らる古是あ於てバロ人をやりてヨ
 セフを召しけきバ急ぎてこきを獄より出せりヨセフすなりち鬚
 を薙り衣をあへてバロの許あいら来る十五バロヨセフあひひける
 の我夢をみたれと之をどく者あし聞ふ汝の夢をきよて之を解く
 ことをうるど云ふ十六ヨセフバロあてたへていひける我あよる
 おあらず刷バロの平安を告たまひん十七バロヨセフあひいふ我夢あ
 河の岸あたちて見るお十八河より七の肥たる美しき牝牛のぼりて
 草を食ふ十九後また弱く甚だ醜き瘡たる七の牝牛のぼりきたる其
 悪き事エジプト全國あわが未だ見ざるはとなり二十ろの瘡たる醜
 き牛初の七の肥たる牛を食ひつくしたりふ廿三己お腹にいりて

も其願にいりし事しきす尙前のごとく醜かりき我是にいたりて
 窺めたり三我また夢に見るに七の實たる佳き穂一の莖にいでき
 たる三ろの後にまたいぢけ萎びて東風にやけたる七の穂生じた
 りまが言ろの志あびたる穂かの七の佳穂を呑つくせり我こそを
 法術士に告たきともわきにみきをえめすものなしヨセフパロ
 にいひけるハロの夢の一なり神ろの爲んとする所をハロに示
 したまへるあり七の美牝牛の七年七の佳穂も七年にして夢の
 一あり其後にのぼりし七の瘠たる醜き牛の七年にしてろの東
 風にやけたる七の空穂の七年の饑饉なり是ハロに申す
 ところなり神ろのなさんとするとろをハロにえめしたまふ元
 エシプトの全地に七年の大ある豊年あるべし三ろの後七の
 凶年おふらん而してエシプトの地にありし豊作を皆忘るにいた
 るべし饑饉國を滅さん三後にいたるろの饑饉とあはだはげしき

により前の豊作國の中に知さざるにいたらん三ハロのふたすび
 夢をりさね見たまひしハロの事をさだめて連に之をえさん
 とまたまふあり三さきハロ慧く賢き人をえらみて之にエシプ
 トの國を治めえめたまふべし言ハロみきをあし國中に官吏を置
 てろの七年の豊年の中にエシプトの國の五分の一を取たまふべ
 し而して其官吏をえて來らんとするろの善き年の諸の糧食を
 斂めてろの穀物をハロの手に蓄へ志め糧食を邑々にりあひえめ
 たまふべし三ろの糧食を國のために蓄藏へおきてエシプトの國
 にのろむ七年の饑饉に備へ國をして饑饉のために滅ざらえむべ
 しハロとろの諸の臣僕此事を善とす三是に於てハロろの臣僕
 にいふ我等神の靈のやとをる是のおどき人を看いだすをえんや
 と三えろしてハロヨセフにいひたるハロ神是を盡く汝にえめした
 まひたきハロ汝のごとく慧く賢き者あうるべし四十汝わが家を宰る

べしわが民みあ汝の口にゑたがらん唯位においてのみ我の汝よ
 り大あるべし巴ロヨセフにいひたるの視よ我汝をエシプト全
 國の家宰とあすど巴ロすあいち指環をろの手より脱して之を
 ヨセフの手にはめ之に白布を衣せ金の索をろの項にけけ之を
 志て已のもてる次の輅に乗詰め下にゐよど其前に呼あむ是彼を
 エシプト全國の家宰とあせり巴ロヨセフにいひけるの我のハ
 ロありエシプト全國に汝の允准をえずして手足をあぐる者あり
 るべしと巴ロヨセフの名をザフナテバチアと名けまたオンの
 祭司ポテバルの女アセナテを之が妻にあたりヨセフいでよ
 エシプトの地をめぐるヨセフの王バロのまへお立
 し時三十歳ありきヨセフバロのまへを出て遍くエシプトの地を
 巡り七年の豊年の中お地山あして物を生ず只ヨセフすあは
 ちエシプトの地あありしろの七年の糧食を斂てろの糧食を邑々

お藏む即ち邑の周囲の田圃の糧食を其邑の中お藏むヨセフ海
 隅の沙のごとく甚だ多く穀物を儲へ逐お敷ふるふとをやむるに
 至る其の數りぎり無ればあり饑饉の歳のいたらざる前にヨセ
 フに二人の子うまる是のオンの祭司ポテバルの女アセナテの生
 たる者ありヨセフろの家子の名をマナセ(忘)とあづけて言ふ神
 我を志てわが諸の苦難とわが父の家(忘)の事(忘)をわすさめたま
 ふと又次の子の名をエフライム(多く生る)とあづけていふ神わ
 れを志てわが艱難の地あて多くの子をねせあめたまふと愛に
 エシプトの國の七年の豊年をりヨセフの言しごどく七年の
 凶年きたりはじむろの饑饉の諸の國にあり然どエシプト全國に
 の食物ありきエシプト全國饑し時民さけびて巴ロに食物を乞
 ふバロエシプトの諸の人にいひけるのヨセフに往け彼が汝等に
 いふとふるをあせと饑饉全地の面にありヨセフすあいち諸の

倉廩をひらきてエジプト人に賣りたせり饑饉ますますエジプトの國にはげしくある五七 饑饉諸の國にはげしくなりしうバ諸國の人エジプトにきたりヨセフにいたりて買ふ

一 ヤコブエジプトに穀物あるを見志るやニヤコブまたいひける汝等あんたの面に面を見あひするやニヤコブまたいふ我エジプトに穀物ありと聞り彼處あくだりて彼處より我等のためお買きたき然らば且れら生るを得て死をまぬわれんとヨセフの十人の兄弟エジプトおて穀物をりんとて下りゆけりヨセフの弟ベニヤミンのヤコブあきをろの兄弟とともお遣さりきおろらくの災難り色の身にのぢむとあらんと思たきバありエラエルの子等穀物を買んとて來る者どもに來る其はカナンの地お饑饉ありたればあり六時にヨセフの國の總督にして國の凡の人に賣ふとをあせりヨセフの兄弟等來りて

ろに前に地お伏て拜すセヨセフろに兄弟を見てあれを知られども知る者れごとくして荒々しく之おもにいふ即ち彼等汝等何處より來れるやといへバ彼等いふ糧食を買んためカナン地より來れりどハヨセフのろに兄弟をしりたれども彼等のヨセフをしらざりきセヨセフろに昔に彼等の事を夢たる夢を憶いだし彼等にいひける汝等の間者にして此國は隙を窺んとて來れるあり十彼等之いひけるわが主よ然らず唯糧食をりんとて僕等と來るあり十二我等とをな一箇の人の子にして篤實ある者あり僕等の間者にあらず十三ヨセフ彼等にいひける否汝等の此地の隙を窺んとて來るあり十三 彼等いひける僕等の十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の人の子あり季子の今日父とともをる又一人のをらすありぬ十四ヨセフの色らにいひけるわが汝等おつげて汝等の間者ありといひしとあはれ事あり十五 汝等

欺してろの眞實をあらすべしバロの生命をさして搦ふ汝等の末
 弟こゝに來るにあらさきバ汝等も此をいづるをえじ其汝等の一
 人をやりて汝等の弟をつききたらしめよ汝等をを繋ぎおきて汝
 等の言をためし汝らの中に眞實あるや否をえんバロの生命をさ
 して搦ふ汝等とりあらず聞者ありとモ彼等を皆どもに三日のあ
 ひだ幽囚おけり十八三日におよびてヨセフあきらかにいひける我
 神を畏る汝等是あして生命をえよ十九汝等もし篤實なる者あらバ
 汝らの兄弟の一人をしてふの獄に繋ぎしめ汝等は穀物をたづさ
 へゆきてあんぢらの家々の饑をすくへ三但し汝らの末弟を我に
 つききたるべしさをばあんぢらの言の眞實あらんをて汝等死
 をまぬあるべし彼等すあんぢ斯あせり三茲に彼らたがひに言
 る我等の弟の事によりて信に罪あり我等の彼が我らに只管に
 ねダひし時にろの心の苦を見ながら之を聴ざりき故あみの苦わ

さらののすめるなり三ルベンリをらあ對ていひたる我なんぢ
 らにいひて童子お罪ををのすあられといひしにあらすや然るお
 汝等さあざりき是故お視よ亦彼れ血をあがせし罪をたゞさると
 三彼等はヨセフダ之を解するを志らざりき其互に通辨をもち
 ひたればありヨコセフ彼等を離れゆきて哭き復り色らにあらへり
 て之を縛りたり遂おソメオンを彼らの中より取りろの目のまへお
 て之を縛りたり而してヨセフ命じてろの器お穀物をとたしめ其
 人々の金を囊に返さしめ又途の食を之おあたへしむヨセフ斯あ
 さらあせり三彼等すなち穀物を驢馬においせて其處をさり
 しダ其一人旅邸おて驢馬に糧を與んとて囊をひらき其金を見
 たり其の囊は口にありけきバあり三彼らの兄弟にいひける我
 金の返してあり視よ囊は中にありと是において彼等臆を消し懼
 きてたがひお神は我らあしたまふ此事の何ぞやといへり三あ

くて彼等カナン地ありて父ヤコブは所にいたり其身にあ
 りし事等を悉く之につけていひけるは彼國は主荒々しく我等
 にもれいひ我らをもて國を債ふ者となせり我ら彼にいふ我等
 の篤實ある者あり間者あらず我らの十二人は兄弟あして同
 じ父れ子あり一人のをらずなり季は今日父とともにかナンは
 地ありと國は主なるは人わ色らあひひけるは我らくして
 汝等れ篤實あるをまらん汝等れ兄弟一人を吾もどあれし糧
 食をたづさへゆきて汝らに家々をすくへ言ふして汝らの
 季の弟をわが許につききたき然るは我あんちらに問者あらず
 して篤實ある者たるをまらん我なんちらに兄弟を汝等お返し汝
 等をしてこの國あて交易をなさむべしと茲お彼等ろは囊を
 傾たるお視よ各人は金包ろは囊はありああり彼等とろは父金包
 を見てあろきたりるは父ヤコブ彼等あひひけるは汝等れ我を

志て子を喪ひしむヨセフのをらずありシメオンもをらずありた
 るにまたベニヤミンを取んとす是をわが身ふうるあり言
 べん父あ告ていふ我もし彼を汝につきりへらずは吾ふたりの子
 を殺せ彼をわが手にわたせ我之をあんちらふつきりへらん言
 プいひけるはわが子のあんちらととも下に下るべうらず彼れ兄の
 死て彼ひとり遺たればあり若るんちらが行どてろは途あて災難
 かれの身にあよバ汝等れわが白髪をして悲みて意ふくだらし
 ひるあいたらん

第四十三章

一 饑饉の地にえげしありき茲お彼等エジプトよ
 りもちきたりし穀物を食つくせし時父かきらに再びゆきて少許
 糧食を買きたきといひけきバユダ父にかたりていひけるは
 彼人かたく我等をいましめていふ汝らに弟汝らとともにあるに
 わらさきバ汝らにわが面をみるべあらずと汝もし弟をわきら

どどもに遣さば我等下て汝のため糶食を買ふべし五されど汝
 もし彼をつくりぬさすば我等くだらざるべし其の人の人われらに
 ひりひ汝等の弟あるならざるもにあるにあらざれば汝ら吾面を
 みるべからずといひたればありとイスラエルいひける汝等
 なにゆゑに汝等に尙弟のあるふとを彼人につけて我を悪くあす
 やセ彼等いふ其人われらの模様とわれらの親族を問たして汝
 らの父の尙生存へをるや汝等の弟をもつやといひしにより其言
 の條々に去たがひて彼につげたるあり我等いりで彼が汝等の
 弟をつれくだれといふあらんと去るをえんハユダ父イスラエル
 にいひける童子をばれどもに遣はせ我等たちて往ん然らば
 我等と汝あよびわれらの子女生るふとを得て死をまぬるべし
 我彼の身を保はん汝わが手にりれを問へ我もし彼を汝につれ
 りへりて汝のまへに置すば我永遠に罪をおはん我等もし濡滞

みどありしあらば必ずすでにゆきて再びりへりしあらん父
 イスラエル彼等にいひける然バ斯なせ汝等國の名物を器にい
 れ携へくだりて彼人に禮物とせよ乳香少許、蜜少許、香油、没薬、胡桃
 あよび巴旦杏又手に一倍の金を取ゆけ汝等の囊の口に返して
 ありし彼金を再び手にたづさへゆくべし恐くの差謬にてありし
 あらん且また汝らの弟を擧へ起てふたよび其人の所にゆけ昔
 ねがはくは全能の神の人のまへにて汝等に恵をほとこしるの
 人をして汝等の他の兄弟とベニヤミンを放ちりへさえめたまは
 んことを若れ子に別るべくあらば別れんと是に於てあの人
 々の禮物を執り一倍の金を手に執りベニヤミンを携へて起て
 エジプトにくだりヨセフの前に立つヨセフベニヤミンの彼ら
 と偕あるを見てろの家宰にいひけるこの人々を家に導き畜を
 屠て備へよこの人々卓午に我どもに食をあすべければあり

其人ヨセフのいひしごとくあし其人この人々をヨセフの家に導
けり人々ヨセフの家に導かれたるによりて懼れいひける初
めにわれら此囊にのへりてありし金の事のため我等にひさい
れらる是われらを抑留へて我等にせまり執へて奴隸とあし且わ
れらの驢馬を取んとするありと彼等するありちヨセフの家宰に
進みよりて家の入口にて之にのたりていひける主よ我等實
に最初くだりて糧食を買たり三エウに我等旅邸に至りて囊を
啓き見るに各人の金の囊の口にありて其金の量全り故に我
等これを手にもちりへれり三又糧食を買ふ他の金をも手にもち
くだる我等の金を囊にいきたる者の誰あるり且色らの知るあ
り三彼いひける汝ら安ぜよ懼るありき汝らの神汝らの父の神
則實を汝等の囊におきて汝らに賜ひしあり汝らの金の我にと
けりと遂にシメオンを彼等の所にたづさへいだせり言うくて其

人みの人々をヨセフの家お導き水をあたへてその足を濯い
又その驢馬お飼草をあたふ三彼等其處おて食をあすありと聞し
りバ禮物を調へてヨセフの日午お來るをまつ三茲おヨセフ家お
かへり去るを彼等らの手の禮物を家おもちきたりてヨセフの許
にいたり地に伏てこれを拜す三ヨセフの色らの安否をとふてい
ふ汝等の父汝らが初にたりしらの老人の恙あきや尙いさるが
らへをるや三彼等あたへてわ色らの父汝の僕に恙あくしてあは
生ながらへをるといひ身をのめ禮をあすヨセフ目をあげてろ
の母の子ある已に弟ベニヤミンを見ていひける是の汝らが初
に我にたりたりし汝らの若き兄弟なるや又いふわが子よ願くの神
汝をめぐみたまのんことを三ヨセフの弟のためは心焚がこ
どくなり去るバ急ぎてその泣べきとふるを尋ね室にいりて其處
に泣り三而して面をあらひて出で氣をおちつけていふ食をうな

へよと三すあいのちヨセフのヨセフ彼等の彼等陪食するエシプト
 人のエシプト人と別々に之を供ふ是のヨシプト人へブル人と共
 に食するふとをえざるおよる其事エシプト人の穢としとするど
 ろろなきバなり三かくて彼等ヨセフの前お坐るお長子をバろの
 長たるおまたがひて坐らせ若き者をバろの幼少おまたがひてす
 わらせければろの人々駭きあへり言ヨセフ己のまへより皿を彼
 等お供ふべニヤミンの皿の他の人のよりも五倍おはかりさるを
 ら飲てヨセフともお樂めり

愛おヨセフろの家宰に命じていふこの人々の囊お
 ろの領うるほど糧食を充て各人の金をろの囊の口お置きニまた
 巴杯するあいのち銀の杯を彼の少き者の囊れ口に置てるの穀物の
 金子ともにあらしめよと彼ヨセフがいひし言のてとくあせり
 かくて夜にあくるおおよびてるの人々と驢馬をうへしけるが

口かきら城邑をいでよあは程と得ありぬにヨセフ家宰にいひけ
 るの起てりの人々れ後を追ひおひつきし時之にいふべし汝らな
 んろ悪をもて善おむくゆるや五其の巴主がもちひて飲み又用
 ひて常に小ふ者にあらずや汝らろくあすの悪しとニ是に於て家
 宰あきらおおひつきてふれ言をあきらおいひけきバセかきら之
 おいふ主なおゆるに是事をいひたよふや僕等さのめてふれ事を
 あさすハ禱よ我られ囊の口にありし金はカナンれ地より汝れ所
 にもちかへれり然バ我等いうで汝れ主の家より金銀をぬすまん
 や九僕等の中誰の手お見あたるも其者の死べし我等またあんな
 の主れ奴隸とあるべしニ彼いひけるのさらバ汝られ言のてとく
 せん其れ見あたりし者の巴が奴隸とあるべし汝等の答あしとニ
 是おあいて彼等急ぎて各ろの囊を地おぬろし各ろの囊をひらき
 去かバ十三彼するあいのち索し長者よりはじめて少者おをはるお杯の

ベニヤミンの驛ありき。斯有しかを彼等々の衣を裂き、そのお
 比ろの驛馬を荷を負せて、邑をかへる。昔志かしてユダとろの兄弟
 等ヨセフの家いにいたるに、ヨセフあは其處こをりしか。バロの前に
 地ち伏す。ヨセフまのれらふいひける。汝等んがあしたるもの事の
 何なや。我わのごとき人の善く小ひうる者あるを、忘らざるや。ユダ
 いひける。我等ら主まあ何をいんや。何をのべんや。如何かおしてわれ
 られ、正直たをあらはさんや。神かみ僕等らは罪つみを摘と發はしたまへり。然しかを我等
 およびふれ。杯はれ見みあたりし者もの俱ともお主まの奴隸ことあるべし。ヨセフ
 いひける。のきりめて、然しかせじ。杯はの手てお見みあたりし人のわが奴隸こと
 あるべし。汝等ん安然あに父ちちをかへりのぼるべし。其時ときおユダあ色いろに
 近ちかよりていひける。わが主まよ請こふ僕わがをして主まは耳みみに一言ひとこといふを
 文ぶんせしめよ。僕わがおひひて怒いかを發はしたまふあり。汝なんぢのバロのごと
 くおいます。なり。昔むかしおわが主ま僕等らに問とて、汝等ん父ちちあるや。弟あとうある

や。といひたまひし。を。我等ら主まにいへり。我等らの父ちちあり。老人おきなあり。
 又または老年おきな子こある。少者わかちあり。ろの兄あにの死して、ろの母ははは遺のこせる。のみ。只ただ是
 のみ。故ゆお父ちちあれを愛あいすと。汝なんぢまた僕等らふいひたまひ。彼かれを我等ら
 おゆれ。くだり。我わがをして之これお目をめゆくる。ふとを文ぶんせしめよ。三さんわ
 れら主まあ。いへり。童子わらわ父ちちを離はなるを文ぶんす。若もし父ちちをはある。よならを父ちち死し
 べしと。汝なんぢまた僕等らにいひたまひ。汝なんぢの季すえの弟あとう汝等らと。よもあ
 下くだる。ああら。され。汝等らまた。よわが面おもてを見るみべ。うら。歩あと。言ことば我等ら
 す。な。のち。あ。ん。ち。の。僕等らわが父ちちの所ところあ。へり。の。ぼりて。主まの言ことばを。あ。色いろ
 に。告つたり。我わがらの父ちち再またひ。ゆきて。小許すこしの糧食りやうじよくを。買かひ。きた。色いろといひ。け
 色いろ。バ。我わがら。い。ふ。我わがらく。くだり。ゆ。く。み。と。を。文ぶんす。わ。色いろの。季すえの。弟あとうわ。色いろ
 ら。と。共ともお。あ。ら。バ。下くだり。ゆ。く。べし。其そのの。季すえの。弟あとうわ。色いろら。と。共ともに。あ。る。あ。あ
 ら。色いろを。彼人かのひとの。面おもてを。みる。を。文ぶんせ。れ。バ。あ。り。と。云いふ。あ。ん。ち。は。僕等らわ。が。父ちち
 わ。色いろら。い。ふ。汝等らの。志こころを。と。く。吾妻わがつまわ。れ。に。二ふた人りを。生うし。お。ふ。ろ。は

一人出てわれをはあきたきバ必ず裂ふるさきしあらんと思へり
 我今にいたるまで彼を見ずらんぢら是をも我側より取ゆらん
 に若災害是の身におよぶあらバ還わわ白髪をして悲みて墓に
 くだらしむるにいたらんぞ抑父の生命と童子の生命との相結
 びてあきバ我なんぢの僕わお父に歸りいたらん時に童子もしわ
 きらと共に在すバ如何や父童子の在ざるを見バ死るにいた
 らん然れば僕等あんぢの僕わさらの父は白髪をして悲みて墓に
 くだらしむるあり三僕わお父に童子の事を保ひて我もし是を汝
 に伺さるへらずを永久に罪を父に負んといへり三さを請ふ僕
 をして童子にありをりて主の奴隸とあらしめ童子をしてろの
 兄弟どもも歸りのぼらしめたまへ言我いのでる童子を伴はず
 して父の許に上りゆくべけん恐くの災害の父におよぶを見ん
 一茲おヨセフろの側にてたてる人々のまへにて自ら禁

ふわたをさるに至りければ人皆われを離ていでよと呼こさる是
 をもてヨセフダ已を兄弟にあのしたる時一人も之どもにたつ
 ものあかりきニヨセフ聲をわけて泣りエシプト人これ聞きバ
 口の家またこを聞くニヨセフすあいのちろの兄弟にいひける
 我のヨセフあり且父はあは生あがらへをるやど兄弟等ろの前
 に愕さあききて之おみたふるをえざりき四ヨセフ兄弟にいひけ
 るの請ふ我にちりよれどかれらすなち近よりけきを言ふ我の
 あんぢらの弟ヨセフあんぢらがエシプトにうりたる者あり五さ
 きと汝等我をこよに賣しをもて憂ふるありれ身を恨るなかき神
 生命をすくのちめんとて我を汝等の前につうのしたまへるあり六
 この二年のあひだ饑饉國の中にありしが尙五年の間耕すことも
 穫こどもああるべし七神汝等の後を地につたへんため又大なる
 救をもて汝らの生命を救はんために我を汝等の前に遣したまへ

りハ然バ我を此につりとしたる者の汝等あり神と
 色をもてバロの父とあしるの全家の主とあしエシプト全國の宰
 どあしたまへり汝等いろぎ父の計にのぼりゆきて之ふいへ汝
 の子ヨセフかく言ふ神とれをエシプト全國の主とあしたまへり
 且ガ所おくだれ遅疑なりと汝等エシプト全國の地に住べし斯汝と汝の
 子と汝の子の子およびなんちの羊と牛並に汝のすべて有とあろ
 の者且色の近方にあるべし十二年は五年の饑饉あるふより我其處
 にてあんちを養はん恐くの汝とあんちの家族およびあんちの凡
 て有とあろの者匱乏ならん汝等の目と且ガ弟ベニヤミンの目
 の観るごとく汝等にこれをいふ者の且ガ口あり汝等且ガエシ
 プトおて享る國榮となんちらが見たる所とを皆悉く父につげよ
 汝ら急きて父を此にもちびき下るべし而してヨセフろの弟ベ
 ニヤミンの頭を抱へて哭にベニヤミンもヨセフの頭をかよへて

哭くヨセフ亦ろの諸の兄弟に接吻し之をいだきて哭く是のち
 兄弟等ヨセフと言ふ茲にヨセフの兄弟等きたりといふ聲バ
 かの家にきて受けをバロどろの臣僕これを悦ぶとバロすなり
 ちヨセフにいひなるの汝の兄弟に言べし汝等ゆく爲せ汝等の畜
 に物を負せ往てカナンの地に至りなんちらの父とあんちらの
 家族を携へて我にきたき我あんちらにエシプトの地の嘉物をあ
 たへん汝等國の膏腴を食ふふとをうべしと今汝命をうく汝等
 かく爲せ汝等エシプトの地より車を取ゆきてあんちらの子女と
 妻等を載せ汝等の父を導きて來れまた汝等の器を惜み視るな
 りれエシプト全國の嘉物の汝らの所屬な色をありニイステエル
 の子等すあいち斯なせりヨセフバロの命にまたがひて彼等に車
 をあたへかつ途の餼糧をうれらにあたへたり三又かきらに皆お
 のく衣一襲を與へたりしがベニヤミンには銀三百と衣五襲を

わたへたり三彼また斯のごとく父に餽をり即ち驢馬十疋にエシ
 プトの嘉物をおとせ牝の驢馬十疋お父の途の用お供ふる穀物と
 バンと肉をおいせて相あらるふありとエシカスして兄弟をあへして去
 去め之に
 いふ汝等途あて相あらるふありとエシカスして兄弟をあへして去
 去め之に
 てカナンの地おもきろの父ヤコブおいたり云之おつげてヨセフ
 の尙いきてをりエシプト全國の宰となりをるといふまあるおヤ
 コブの心あは寒冷ありき其のこれを信せざるありて彼等また
 ヨセフの已おひたる言をよとく之おつげたりろの父ヤコ
 ブヨセフのおのれを載んとておくりし車をみるおおよびて其氣
 おのれありへきりイスラエルするあいちいふ足り巴子ヨセフ
 あは生きてをるを死ざるまへに往て之を視ん
 第四十六章
 ヤコブろの己につける諸の者とともに出たちべ
 ルシバにいたりてろの父イサクの神に犠牲をささぐ
 神夜に異

象にイスラエルにありてヤコブよヤコブよといひたまふ三ヤ
 コブおき此にありといひけきバ神いひたまふ我は神あり汝の父
 神ありエシプトにくだるあどを懼るあられわき彼處にて汝を
 大ある國民とあさん曰我汝とともエシプトに下るべし亦あ
 らず汝を導のぼるべしヨセフ手をあんちの目れ上にあおんと
 めくてヤコブベエルシバをたちいでたりイスラエルれ子等あ
 のちバロれ載んとておくりたる車に父ヤコブと己の子女と妻等
 を載せろれ家畜とカナンの地にてえたる貨財をたづさへ斯し
 てヤコブとろの子孫皆どもにエシプトにいたをりセヤコブあ
 ろの子と子れ子およびろれ女と子れ女すあいちろれ子孫を皆た
 づさへてエシプトにけきゆけりイスラエルれ子のエシプトに
 くだれる者れ名に左れとしヤコブとろれ子等ヤコブれ長子の
 ルベンタルベンれ子にヘノクバルヘツロンカルミナシメオンの

子^この^こエムエルヤミンオハデヤキンヅハルおよびカナンの婦^{むすめ}は^こうめる子^こシヤウル^こレビ^こは子^この^こケルシヨ^こンコハテメラリ^こユダ^こは子^こはエルオナンシラベレツセラ但^{たゞ}しエルドオナンのカナンの地^ちに死^{あに}たりベレツ^こは子^この^こヘツロンおよびハムルなり^こイツサカルの子^この^こトラブ^こヨブシムロン^こ古^こゼブル^こンの子^この^こセレ^こデエ^こロンヤリエルあり^こ十五^こ是^こ等^こおよび女子^{むすめ}デナはレア^こダ^こンアラムにてヤコブにうみたる者^{もの}あり^ころの男子^{おとこ}女子^{むすめ}あ^こいせて三十三人なり^こ十六^こガ^この子^この^こゼ^こボンハ^こギ^こシ^こユ^こニ^こエ^こツ^こポ^こン^こエ^こリア^こロ^こデア^こレ^こリ^こセ^こア^こセル^この子^この^こエム^こナイ^こシ^こワ^こイ^こス^こイ^こベ^こリア^こおよび^ころの妹^{いもうと}サラ^こ並^{ならび}に^こベ^こリア^この子^こヘ^こベル^こド^こマル^こキ^こエル^こあり^こ十八^こ是^こ等^この^こラ^こバン^この^ころの女^{むすめ}レ^こア^こにあ^こたへたる^こシル^こバ^この子^こあり^こ彼^{かれ}是^こ等^こを^こヤ^こコ^こブ^こに^こう^こめ^こり^こ都合^{あはせて}十六^こ人^こ十九^こヤ^こコ^こブ^この^こ妻^{つま}ラ^こケ^こル^この^こ子^この^こヨ^こセ^こフ^こと^こベ^こニ^こヤ^こミ^こン^こあり^こ二十^こエ^こシ^こブ^こト^この^こ國^{くに}にて^こヨ^こセ^こフ^こに^こマ^こナ^こセ^こと^こエ^こフ^こラ^こイ^こム^こら^こま^これた^こり^こ是^こは^こオ^こンの^こ祭^{さい}司^しボ

テ^こハ^こルの^こ女^{むすめ}ア^こセ^こナ^こテ^この^こ生^{うま}たる^こ者^{もの}なり^こニ^こベ^こニ^こヤ^こミ^こン^こは^こ子^この^こベ^こラ^こベ^こケ^こル^こア^こシ^こベ^こル^こゲ^こラ^こナ^こア^こマ^こン^こエ^こヒ^こロ^こシ^こム^こツ^こビ^こム^こホ^こバ^こム^こア^こル^こデ^こ三^こ是^こ等^この^こラ^こケ^こル^この^こ子^こに^こして^こヤ^こコ^こブ^こに^こう^こま^こきた^こる^こ者^{もの}なり^こ都合^{あはせて}十四^こ人^こ三^こダ^こン^こは^こ子^この^こホ^こシ^こム^こ三^こナ^こフ^こタ^こリ^この^こ子^この^こヤ^こシ^こエル^こグ^こニ^こエ^こセル^こシ^こレ^こム^こ三^こ是^こ等^この^こラ^こバン^この^ころの女^{むすめ}ラ^こケ^こル^こにあ^こた^こへ^こた^こる^こピ^こル^こハ^この^こ子^こあり^こ彼^{かれ}こ^こを^こら^こを^こヤ^こコ^こブ^こに^こう^こめ^こり^こ都合^{あはせて}七^こ人^こ三^こヤ^こコ^こブ^こと^こも^こに^こエ^こシ^こブ^こト^こに^こいた^こり^こし^こ者^{もの}は^こあ^こは^こせ^こる^こ子^こ二^こ人^こあり^こヤ^こコ^こブ^この^こ家^{いえ}の^こ人^{ひと}の^こエ^こシ^こブ^こト^こに^こいた^こり^こし^こ者^{もの}は^こあ^こは^こせ^こて^こ七十^こ人^こあり^こき^こエ^こヤ^こコ^こブ^こ預^{あづか}り^こユ^こダ^こを^こヨ^こセ^こフ^こに^こつ^こり^こは^こし^こお^この^これ^こを^こゴ^こセ^こン^こに^こま^こち^こび^こか^こし^こむ^こ而^{しか}して^こ皆^{みな}ゴ^こセ^こン^こは^こ地^ちに^こいた^こる^こニ^こヨ^こセ^こフ^この^こ車^{くるま}を^こ整^{ととの}へ^こゴ^こセ^こン^こに^こは^こば^こり^こて^こ父^{ちち}イ^こス^こラ^こエ^こル^こを^こ送^{おく}へ^こ之^こに^こま^こみ^こえ^こて^ころ^こは^こ頸^{くび}を^こ抱^{いだ}き^こ頸^{くび}を^こあ^こま^こへ^こて^こ久^{ひさ}く^こ啼^なく^こ三^こイ^こス^こラ^こエ^こル^こヨ^こセ^こフ^こに^こい

ふ汝なほ生きてをり我汝の面を見るふとをえたれを今の死るも可
 しとヨセフ不れ兄弟等と父は家族とにいひけるの我はばりて
 パロにつけて之にいふべしわが兄弟等とわが父は家族カナ
 地にをりし者我のとあるに來れりミ不れ人々の牧者にして牧畜
 此人あり彼等羊の牛と牛およびろの有る諸の物をたづさへ來れ
 りとヨセフもし汝等を召て汝等の業は何なるやと問ことあらを
 僕等の幼少より今にいたるまで牧畜の人なり我等も先祖等も
 もに志ありといへるあらをあんちらゴセンの地にすむふとをえ
 ん牧者の皆エシプト人の穢しとするものなれをあり
 茲にヨセフきたりてパロにつけていひけるわが
 父と兄弟およびろの羊と牛と諸は所有物カナンの地よりいたれ
 り彼らはゴセン地にをるとニろれ兄弟中より五人をとりて
 これをパロにまゑえしむヨセフの兄弟等にいひけるは汝

らの業は何あるや彼等パロにいふ僕等の牧者なりわれらも先祖
 等もどもに志ありと曰かれら又パロにいひけるは此國に寓らん
 とて我等のきたる其のカナンの地に饑饉のげしくして僕等
 をやしあふ牧場なればありされを請ふ僕等をしてゴセン地
 にすましめたまへヨセフパロヨセフにありていふ汝の父と兄弟
 汝所にきたれりホエシプト地にありんち前にはあり地は善き處
 に汝の父と兄弟をすましめよすあるちゴセン地にありれらをすま
 せめよ汝もし彼等の中に才能ある者あるをあらば其人々をして
 わが家畜を飼めさせしめよセヨセフまた父ヤコブを引いていり
 パロに前にたふしむヤコブパロを祝すハパロヤコブにいふ汝は
 齡れ日の幾何あるやヤコブパロにいひけるわが旅路の年月
 の百三十年にいたる我が齡の日の僅少にして且惡あり未だわが
 先祖等れ齡れ日と旅路の日におよむなりヤコブパロを

祝しバロのまへよりいでさりぬ。ヨセフバロの命ぜしごとく、
 此れ父と兄弟に居所を與へ、エジプトに國の中、此れ善き地、即ちラメセ
 ス、此れ地を、あきらに、あたへて、所有となさしむ。ヨセフの父と兄
 弟と、父の全家に、ろの子の數に、また、ひて、食物を、あたへて、養へり。
 却て、饑饉は、なは、だは、げしく、して、全國に、食物、あ、く、エジプトの國
 と、カナンの國、饑饉、ため、に、弱き、り、昔、ヨセフ、穀物を、賣、あたへて、エ
 ジプトの地、と、カナン、此れ、地、に、あり、し、金を、と、と、く、斂、ひ、而、して、ヨ
 セフ、ろの、金を、バロの、家、にも、ち、きた、る、エジプトの國、と、カナンの國
 に、金、つ、きた、れ、バ、エジプト、人、みな、ヨセフ、に、いた、り、て、い、ふ、我等、あ
 食物を、あたへ、よ、如何、な、ん、ぢの、前、に、死、べ、けん、や、金、す、で、に、た、え、た
 り、よ、ヨセフ、い、ひ、ける、の、汝、等、此れ、家畜を、い、だ、せ、金、も、し、た、え、たら、を、我
 ら、ん、ぢ、ら、の、家畜に、う、へ、て、與、ふ、べ、し、と、ま、う、き、ら、乃、ち、ろの、家畜を、ヨ
 セフ、に、ひ、き、う、たり、け、き、を、ヨセフ、ろ、此れ、馬、と、羊、此れ、群、と、牛、の、群、お、よ、び

馳馬、あ、へ、て、食物を、か、き、ら、あ、た、へ、ろの、す、べ、て、此れ、家畜、ため、あ
 其、年、此れ、あ、ひ、だ、食物を、あ、た、へ、て、あ、き、を、や、し、あ、ふ、え、か、く、て、ろの、年、暮
 ける、の、明、年、に、いた、り、て、人、衆、また、ヨセフ、あ、き、たり、て、之、お、い、ふ、我等
 主、あ、隠、す、と、あ、ろ、な、し、われ、ら、の、金、は、竭、たり、また、われ、ら、の、畜、の、群、の
 主、あ、販、す、主、の、ま、へ、に、い、だ、す、べ、き、者、の、何、も、の、あ、り、を、ら、ず、唯、われ、ら
 の、身、体、と、田、地、あ、る、の、み、な、われ、ら、い、あ、ん、ぢ、われ、ら、此れ、田、地、と、よ、も、あ
 汝、の、目、の、ま、へ、あ、死、亡、ふ、べ、けん、や、我、等、と、われ、ら、の、田、地、を、食、物、あ、易
 て、買、と、れ、我、等、田、地、と、よ、も、あ、バロの、僕、と、あ、ら、ん、また、我、等、あ、種、を、あ
 た、へ、よ、然、ば、わ、き、ら、生、る、を、え、て、死、る、あ、い、たら、ず、田、地、も、荒、蕪、あ、いた
 ら、じ、是、に、於、て、ヨセフ、エジプトの、田、地、を、あ、と、と、く、購、ど、り、て、バ
 ー、お、納、る、其、の、エジプト、人、饑、饉、あ、せ、ま、り、て、各、人、ろの、田、圃、を、賣、た、き
 ば、あ、り、是、あ、より、て、地、の、バロ、此れ、所有、と、あ、き、り、三、また、民、の、エジプト
 の、あ、の、境、の、極、より、ろの、境、此れ、極、此れ、者、ま、で、ヨセフ、あ、き、を、邑、々、に、う、つ

せり三但祭司の田地の購どらざりき祭司のバロに祿をたまひり
 ゐてバロの與ふる祿を食たるによりてろの田地を賣ささべあり
 三茲おヨセフ民にいひけるの視よ我今日汝等とあんちられ田地
 をかひてバロお納る汝等あわたふる種子此あわり地お播べし三
 志りして收穫の五分の一をバロお輪し四分をあんちらお取て田
 圃の種としあんちらの食としなんちらの家族と子女の食とせよ
 三 人衆いひけるの汝わさらの生命を拯ひたまへりわさら主のま
 へお恩をえんふとをねがふ我等バロの僕とあるべしとヨセフ
 エソプトの田地お法をたてるの五分の一をバロおをさめあむろ
 の事今日おいたる唯祭司の田地のバロの有とあらざりきモイ
 スラエルエソプトの國お於てゴセンの地おすそ彼處お産業を獲
 ろの數増て大お殖たり云ヤコブエソプトの國に十七年いさあが
 らへたりヤコブの年齒の日お合て百四十七年ありき云イスラエ

ル死る日ちりよりければろの子ヨセフをよびて之にいひける
 我もし汝のまへに恩を得るあらを請ふなんちの手をわが脾の下
 にいさ懇に眞實をもて我をおつうへ我をエソプトに葬るなあれ
 三 我の先祖等ともお偃んふとをねがふ汝わさをエソプトより
 昇いだして先祖等の墓場にはうひせヨセフいふ我あんちが言る
 とどくあすべしとヨセフまた我に誓へといひければすあなり
 誓へりイスラエル床れ頭にて拜をみせり

第四十八章

是等の事の後汝の父病にかよるとヨセフお告る者

ありけきバヨセフ二人の子マナセとエフライムをともあひて至
 るヨ人ヤコブお告て汝の子ヨセフあんちの許にきたるといひけ
 きをイスラエル強て床お坐す三あおしてヤコブヨセフにいひけ
 るの昔に全能の神カナンの地のルズにて我にあらわれ我を祝
 し四 我おいひたまひけらく我あんちをして多く子をねせしめ汝

をふやし汝を衆多の民とあさん我あるの地を汝の後の子孫あわたへて永久の所有とあさしめんどエわぶエシプトあきたりて汝あ就まへおエシプトあて汝に生きてたる二人の子エフライムとマナセは等はわぶ子とあるべしルベンドシメオンのごとく是等の子とあらん是等の後あなんぢあ得たる子の汝のものどすべし又ろの産業のろの兄弟の名をもて稱らるべし我事をいんお我昔バダンより來れる時ラケル我あまたダひをりて途あてカナンの地あ死り其處のエフラタまで尙途の隔あるとあろありと色彼處あてりれをエフラタの途あはらうひきり(エフラタのすあのちバツレへムあり)ハ斯てイストラエルヨセフの子等を見て是等の誰あるやといひけきをユヨセフ父あいふ是は神の此あて我あたまひし子等なりと父するのちいふ請ふ彼らを我所あつれきたれ我あきを祝せんといスラエルの目の年壽のためあ昧て見る

をえざりしおヨセフあきらをろの許あつれきたりけきバ之に接吻してあきを抱けり^{十三}まかしてイストラエルヨセフあひひけるは我あんちの面を見るあらんどの思のざりしに視よ神あんちの子をもときあまめしたまふと^{十二}ヨセフかれらをろの膝の間よりいだし地に俯て拜せり^{十三}まかしてヨセフエフライムを右の手に執てヤコブの左の手にむあはまめ二人をみちびきてうれに就たれバ^{十四}イストラエル右の手の手をのべて季子エフライムの頭に按き左の手の手をのべてマナセの頭におけりマナセの長子あきとも故にかくろの手をおけるあり^{十五}斯してヨセフを祝していふわぶ父アブラハムイサクの事へし神わぶ生きてより今日まで我をやしあひたまひし神^{十六}我をえて諸の災禍をまぬうれまめたまひし天使ねぶとく^{十七}是童子等を祝たまへねぶとく^{十八}是等の者わぶ名とわぶ父アブラハム

イサツの名をもて稱られんよとをねぶとくは是等地の中お繁殖
 るおいたれよヨセフ父が右の手をエフライムの頭に鞍をを見て
 よろよをす父の手をあげてこきをエフライムの頭よりマナセの
 頭にうつさんどす十八ヨセフすなをち父にいひけるは然あらず
 父よ是長子なれば右の手をの頭お鞍たまへ十九父よをきていひ
 けるは我知るわが子よわを志る彼も一の民となり彼も大なる者
 どあらん然どもろの弟の彼よりも大なる者となりてろの子孫の
 多衆の國民とあるべしと二十此日彼等を祝していふイスラエル汝
 を指て人を祝し願くは神汝をしてエフライムのごとくマナセの
 ごとくあらしめたまへといふおいたらんとすあはちエフライム
 をマナセの先にたてたり三イスラエルまたヨセフにいひけるは
 視よわをの死んさきと神あんちらとともにいまして汝等を先祖
 等の國にみちびきあへりたまふべし三且わを一分をあんちの

兄弟よりもおほく汝おあたふ是わの刀と弓を以てアモリ人の手
 より取たる者あり

第四十九章

後の日に汝らお遇んとするの事を汝等につげんニ汝等つどひて
 聴けヤコブは子等よ汝らに父イスラエルに聴け三ルベン汝らわ
 お冢子わお勢わお力に始威光に卓越たる者權威に卓越たる者な
 り四汝の水の沸あぶるぶごとき者なきを卓越を得ざるべし汝父
 汝床おればりて流したきをなり嗚呼彼らわお寢床おれば色り五
 シメオンレビの兄弟ありろは劍の暴逆は器あり六我魂よかきら
 汝席にけろむなかき我寶よりきら汝集會につらなるなりき其の
 彼等ろは怒にまうせて人をころしろは意にまかせて牛を筋截た
 色バあり七ろは怒の烈かれば詛ふべしろは憤の暴あれば詛ふべ
 し我彼らをヤコブは中に分ちイスラエルは中に散さんハユダよ

汝の兄弟は讚る者なり汝は手あるんぢれ敵は頸を抑へんあんぢれ
 汝の所掠物をさきてかへり汝はばる彼の牡獅子れこどく伏し牝獅
 汝の父れ子等あんぢれ前に鞠んユダの獅子れ子れ如しわぶ子よ
 れこどく購まる誰か之をおこすことをせん十枚ユダを離さず法
 を立る者るれ足れ間をはあるよみとあくしてシロれ來る時にま
 でおよばん彼に諸れ民またぶべし十二彼ろれ驢馬を葡萄れ樹に
 繋ぎろれ牝驢馬れ子を葡萄の蔓に繋ぶん又ろの衣を酒にあらひ
 其服を葡萄の汁にあらふべし十三ろの目の酒によりて紅くるの齒
 の乳によりて白し十三セブルンの海邊にすみ舟の泊る海邊に住
 んろの界のシドンにおよぶべし十四イツサカルの二の極の間に伏す
 健き驢馬のごとし十五彼安泰を善としろの國を樂とし肩をさげて
 負ひ租税をいだして僕とあるべし十六ダンのイスラエルの他の支
 派のおどく其民を鞠かんモダンの路の旁の蛇のごどく途邊にあ

る蝮のごとし馬の踵を嚼てるの騎者をして後に落走む十六エホバ
 よとれ汝の拯救を待り十九ガドの軍勢みれにせまらんされと彼反
 てるの後にせまらん二十アセルよりいづる食物の美るべし彼王の
 食ふ美味をいださん二十三ナフタリに釋れたる鹿のおとし彼美言を
 いだすあり三十三ヨセフの實を結ぶ樹の芽のおとし即ち泉の傍にあ
 る實をむすぶ樹の芽のおとしろの杖つひに垣を踰ゆ三十三射者彼を
 あやまし彼を射のれを惡めり十四然とあれの弓のあは勁くあり彼
 の手の臂の力あり是ヤコブの全能者の手によりてあり其よりイ
 スラエルの磐ある牧者いづ三十三汝の父の神およる彼あんぢを助け
 ん全能者による彼あんぢを祝まん上ある天の福下によみたれる
 淵の福乳哺の福胎の福汝おきたるべし十六父の汝を祝すること
 わぶ父祖の祝したる所に勝て恒久の山の限極にまでおよばん是
 等の祝福のヨセフの首お歸しろの兄弟と別おありたる者の頭頂

に歸すべしニセベニヤミンの物を噛む狼あり朝にろの所掠物を啖
 ひ夕にろの所攫物をとるたんニ是等のイスラエルの十二の支派
 あり斯ろの父彼らお語り彼等を祝せりするありちろの祝すべき所
 おまたびひて彼等諸人を祝せりニヤコブまた彼等お命じて之お
 いひける我のわが民おくいとすへテ人エフロンの田に
 ある洞穴おわが先祖等とともお我ををらうひきまろの洞穴のカナ
 ンの地おてマムレのまへなるマクベラの田おあり是のアブラハ
 ムのへテ人エフロンより田とともお購て所有の墓所とあせし者
 ありニアブラハムとろの妻セラ彼處にはうむられイサクとろの
 妻リベカ彼處お葬られたり我またりしておレアを葬れりニ彼田
 とろの中の洞穴のへテの子孫より購たる者ありニヤコブとろの子
 お命ずることを終し時足を床お斂めて氣たえてろの民おくいと
 する

第卅三節

ヨセフ父の面に俯し之をいだきて哭き之お接吻すニ
 而してヨセフの僕ある醫者に命じてろの父に覆らしむ醫者イ
 スラエルに覆せりニすありち之のためお四十日を用ふ其の戸に
 覆るにこの日敷を用ふべけきバありエジプト人七十日の間之
 のためお哭けり哀哭の日すぎし時ヨセフバロの家おかたりて
 いひける我もし汝等の前お恩恵を得るならバ請ふバロの耳に
 まうして言へニ且お父我死バカナンの地おわが掘おきたる墓お
 我をはうむきといひて我を誓のえめたり然を請ふとをををて上
 りて父を葬らえめたまへまた歸りきたらんとババロいひけるは
 汝の父汝をちろのせしごとくのぼりて之を葬るべしニ是お於て
 ヨセフ父を葬らんとて上るバロの諸の臣バロの家の長老等ニシ
 プトの地の長老等ハおよびヨセフの全家とろの兄弟等およびろ
 の父の家之とともお上る只ろの子女と羊と牛のゴセンの地おの

こせりたまた車と騎兵ヨセフおまたおひてのぼり其隊はなはだ
 大ありき十彼等ゆひあヨルダンの外なるアマダの禾場お到り彼
 おて大泣き痛く哀しむヨセフすなわち七日父のためお哭きぬ
 十二の國の居人なるカナ人等アダの禾場の哀哭を見て是の
 エジプト人の痛くあげくなりといへり是よりて其處の名をア
 ベルミツライム(エジプト人の哀哭)と稱ふヨルダンの外あり十三
 ヤコブの子等ろの命ぜらきたるおどく之おなせり十三すなわちヤ
 コブの子等彼をカナンの地お昇ゆきて之をマクベラの田の洞穴
 おはらひきり是のアブラハムのおヘテ人エフロンより田とよもお
 購とりて所有の墓所とあせし者おてマムレの前おあり十四ヨセフ
 父を葬りてのち其兄弟および凡て己とよもおのぼりて父をはら
 ひきる者とよもおエジプトおあへりぬ十五ヨセフは兄弟等ろの父
 の死たるを見ていひけるのヨセフあるひのわきらを恨むること

あらん又りあらずおれらお彼になしたる諸の悪おむくゆるなら
 んとすあいのちヨセフにいひおくりけるのあんなちれ父死るまへ
 お命じて言けらくも汝ら斯ヨセフにいふべし汝の兄弟汝お悪を
 あしたきとも冀なくろの罪咎をゆるせと然を請ふ汝は父の神
 の僕等の咎をゆるせとヨセフの言を聞て啼泣り十八兄弟等もま
 た自らきたりヨセフの面のまへお俯し我等の汝の僕とあらんと
 いふ十九ヨセフうれらおいひけるの懼るあうそ我あに神にうはら
 んや二十汝等の我を害せんとおもひたれども神のるれを善にの
 らせ今日のおどく多の民の生命を救ふおいたらえめんとおもひ
 たまへり二十故お汝らおるるうあを我あんなちらと汝らの子女を
 やしあはんと彼等をあぐさめ懇に之おりたきり三十三ヨセフ父の家
 族とともおエジプトおすめりヨセフの百十歳いさあがらへた
 三十三ヨセフエフライムの三世の子女をみるおいたれりマナセの

マキルの子女こどももうまれてヨセフの膝ひざありきヨセフの兄あにい等らあひひける我われ死しん神かみあらず汝等なんぢらを眷顧かんごをかんちらを此この地ちよりいだしてろのアブラハムイサクヤコブあちのひし地ちあいた
 ら志こころめたまいんとヨセフ神かみあらず汝等なんぢらをへりみたまいん汝
 ら足あしの骨ほねをこよりたづさへのぼるべしといひてイスラエルの
 子孫こゝろを棺かみいしむヨセフ百十歳さいあして死したを之これあく葬すりて櫃ひつあ
 をさめてエジプトあおけり

1529 95-91131
 JAN 20 1940

真島龍

王友軒